

(様式4)

一般社団法人薬学教育評価機構

(調書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成25年5月1日)

東邦大学薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	修学状況・休学退学者数・学士課程修了状況	13
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOs に該当する科目	17
基礎資料 4	カリキュラムマップ	85
基礎資料 5	語学教育の要素	87
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習スケジュール	89
基礎資料 7	学生受入状況	95
基礎資料 8	教員・事務職員数	97
基礎資料 9	専任教員年齢構成	99
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	101
基礎資料11	卒業研究の配属状況	117
基礎資料12	講義室等の数と面積	119
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	121
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	123
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	125

(基礎資料 1-1) 学年別授業科目

	1 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数	
教養教育・語学教育	英語 I	前期・後期	29-30	8	236	コ		2	
	英語 II	前期・後期	29-30	8	237	コ		2	
	(択) ドイツ語 I	前期・後期	25-29	6	164	コ		2	
	(択) ドイツ語 II	前期・後期	25-29	6	164	コ		2	
	(択) フランス語 I	前期・後期	13-17	2	30	コ		2	
	(択) フランス語 II	前期・後期	13-17	2	30	コ		2	
	(択) 中国語 I	前期・後期	14-24	2	38	コ		2	
	(択) 中国語 II	前期・後期	14-24	2	38	コ		2	
	法学	前期	119-120	2	239	コ		1	
	倫理哲学	前期	119-120	2	239	コ		1	
	心理学	後期	119	2	238	コ		1	
	保健環境論	後期	119	2	238	コ		1	
	(択) 現代日本史	前期	23-28	2	51	コ		1	
	(択) 国際関係論	前期	87-91	2	178	コ		1	
	(択) 自己表現論	前期	111-115	2	226	コ		1	
	(択) 民俗学	後期	23-74	2	97	コ		1	
	(択) 経済学	後期	16-23	2	39	コ		1	
	(択) 文章表現論	後期	103-107	2	210	コ		1	
	(択) 薬史学	後期	99-100	2	199	コ		1	
	(択) スポーツ科学	後期	17-40	2	57	コ		1	
薬学専門教育	基礎物理	前期	119-122	2	241	コ		1	
	基礎化学	前期	121-126	2	247	コ		1	
	基礎生物	前期	119-121	2	240	コ		1	
	基礎数学 I	前期	59-62	4	240	コ		1	
	薬学への招待	前期	237	1	237	コ		1	
	薬化学 I	前期	121-126	2	247	コ		1	
	生化学 I	前期	119-121	2	240	コ		1	
	コンピュータ入門	前期	59-60	4	237	コ	S	1	
	薬学応用物理学 I	後期	240	1	240	コ		1	
	基礎数学 II	後期	59-62	4	241	コ		1	
	構造化学 I	後期	247	1	247	コ		1	
	分析化学 I	後期	126-128	2	254	コ		1	
	薬化学 II	後期	245	1	245	コ		1	
	有機化学 I	後期	121-122	2	243	コ		1	
	細胞生物学	後期	274	1	274	コ		1	
	生化学 II	後期	123-124	2	247	コ		1	
	薬理学 I	後期	241	1	241	コ		1	
プレゼンテーション	後期	118-119	2	237		S	1		
ヒューマニズム I	後期	237			コ	S	0.5		
実習	早期体験学習	前期	118-119	2	237	コ	S	ジ	0.5
	(択) 体育実技 I	前期	19-30	8	198			ジ	1
	基礎生物実習 I	後期	5-6	40	237	コ		ジ	0.5
	基礎生物実習 II	後期	5-6	40	237	コ	S	ジ	0.5
	(択) 体育実技 II	後期	7-17	6	80			ジ	0.5
演習	(択) 初等物理学演習	前期	22-28	8	205	コ			1
	(択) 初等化学演習	前期	73	1	73	コ			0.5
	(択) 初等数学演習	前期	62-68	2	130	コ			0.5
単位数の合計							(必須科目)	28	
							(選択科目)	23.5	
							合計	51.5	

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 実技=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
- 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-2) 学年別授業科目

	2 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数	
教養教育・語学教育	英語Ⅲ	前期・後期	30-33	8	250	コ		2	
	(択)英語Ⅳ	前期・後期	20-33	8	222	コ		2	
薬学専門教育	薬学応用物理学Ⅱ	前期	251	1	250	コ		1	
	構造化学Ⅱ	前期	261	1	261	コ		1	
	物理化学Ⅰ	前期	260	1	260	コ		1	
	分析化学Ⅱ	前期	253	1	253	コ		1	
	有機化学Ⅱ	前期	125	2	250	コ		1	
	生薬学	前期	129-131	2	260	コ		1	
	人体生理学Ⅰ	前期	136-138	2	274	コ		1	
	微生物学	前期	249	1	249	コ		1	
	生化学Ⅲ	前期	253	1	253	コ		1	
	分子生物学Ⅰ	前期	124	2	248	コ		1	
	健康Ⅰ	前期	248	1	248	コ		1	
	環境Ⅰ	前期	125-126	2	251	コ		1	
	薬理学Ⅱ	前期	260	1	260	コ		1	
	物理化学Ⅱ	後期	259	1	259	コ		1	
	有機化学Ⅲ	後期	135	2	270	コ		1	
	有機構造解析	後期	124-126	2	250	コ		1	
	人体生理学Ⅱ	後期	263	1	263	コ		1	
	生化学Ⅳ	後期	252	1	252	コ		1	
	分子生物学Ⅱ	後期	127-128	2	255	コ		1	
	病原微生物学	後期	125-126	2	251	コ		1	
健康Ⅱ	後期	249	1	249	コ		1		
環境Ⅱ	後期	124-125	2	249	コ		1		
薬理学Ⅲ	後期	251	1	251	コ		1		
製剤学Ⅰ	後期	128-129	2	257	コ		1		
ヒューマニズムⅡ	後期	249	1	249	コ	S		0.5	
実習	物理系実習Ⅰ	前期	2	123	247	コ	S	ジ	1.5
	化学系実習Ⅰ	前期	2	123	247	コ	S	ジ	1.5
	物理系実習Ⅱ	後期	2-3	124	249	コ		ジ	1
	微生物実習	後期	6-8	32	249	コ		ジ	1
	生物系実習Ⅰ	後期	2-4	123	249	コ		ジ	1
	化学系実習Ⅱ	後期	2-3	84	249	コ	S	ジ	1
演習									
単位数の合計							(必須科目)		31.5
							(選択科目)		2
							合計		33.5

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 実技=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-3) 学年別授業科目

		3 年 次							
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	(択)英語Ⅴ	前期・後期	2-10	2	12		S		2
	(択)実用医療英語	前期	10	1	20		S		1
薬学専門教育	分析化学Ⅲ	前期	248	1	248	コ			1
	医薬品合成化学Ⅰ	前期	243	1	243	コ			1
	生物有機化学	前期	244	1	244	コ			1
	天然物化学	前期	121-122	2	243	コ			1
	免疫Ⅰ	前期	121-124	2	245	コ			1
	環境Ⅲ	前期	245	1	245	コ			1
	薬理学Ⅳ	前期	252	1	252	コ			1
	薬理学Ⅴ	前期	253	1	253	コ			1
	薬物動態学Ⅰ	前期	121-126	2	247	コ			1
	病態検査学Ⅰ	前期	245	1	245	コ			1
	病態生化学	前期	247	1	247	コ			1
	製剤学Ⅱ	前期	245	1	245	コ			1
	医薬品開発Ⅰ	前期	248	1	248	コ			1
	生体分子解析法Ⅰ	後期	122-123	2	245	コ			1
	医薬品合成化学Ⅱ	後期	245	1	245	コ			1
	医薬品化学	後期	246	1	246	コ			1
	漢方薬物学	後期	254	1	254	コ			1
	免疫Ⅱ	後期	246	1	246	コ			1
	薬物動態学Ⅱ	後期	264	1	264	コ			1
	薬物動態学Ⅲ	後期	246	1	246	コ			1
	化学療法学	後期	250	1	250	コ			1
	ウイルス学	後期	246	1	246	コ			1
	腫瘍学	後期	249	1	249	コ			1
	疾患と薬物治療Ⅰ	後期	250	1	250	コ			1
	製剤学Ⅲ	後期	246	1	246	コ			1
	構造活性相関	後期	122-123	2	245	コ			1
医療統計	後期	244	1	244	コ			1	
ヒューマニズムⅢ	後期	243	1	243	コ	S		0.5	
(択)分子生物学Ⅲ	前期	112-120	2	232	コ			1	
(択)放射薬品学	前期	234	1	234	コ			1	
(択)生体分子解析法Ⅱ	後期	86	1	86	コ			1	
(択)病態検査学Ⅱ	後期	241	1	241	コ			1	
(択)臨床生理学	後期	199	1	199	コ			1	
実習	生物系実習Ⅱ	前期	7-8	32	243	コ	S	ジ	1
	衛生薬学実習	前期	121-122	2	243	コ		ジ	1
	薬理学実習	前期	5-7	35	243	コ	S	ジ	1.5
	薬物動態学実習	後期	243	1	243	コ		ジ	1
	製剤学実習	後期	243	1	243	コ		ジ	1
	(択)放射薬品学実習	後期	70	1	70	コ	S	ジ	0.5
演習	医療統計演習	後期				コ			0.5
単位数の合計							(必須科目)		33
							(選択科目)		7.5
							合計		40.5

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 実技=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-4) 学年別授業科目

	4 年 次							
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	(択) 薬剤師のためのやさしい英会話	前期	14-24	2	38		S	1
	(択) 実用薬学英語	前期	24	1	24		S	1
	(択) 実用医療英語	前期	10	1	20		S	1
	(択) 薬剤師のためのやさしい英会話	後期	2	1	2		S	1
薬学専門教育	生命科学 I	前期	212	1	212	コ		1
	疾患と薬物治療 II	前期	212	1	212	コ		1
	疾患と薬物治療 III	前期	212	1	212	コ		1
	疾患と薬物治療 V	前期	223	1	223	コ		1
	疾患と薬物治療 VI	前期	212	1	212	コ		1
	疾患と薬物治療 VII	前期	212	1	212	コ		1
	医療情報 I	前期	212	1	212	コ		1
	医療情報 II	前期	213	1	213	コ		1
	治験	前期	212	1	212	コ		0.5
	薬事関係法規 I	前期	216	1	216	コ		2
	薬剤経済	前期	212	1	212	コ		1
	薬局概論	前期	212	1	212	コ		0.5
	医薬品安全性学	後期	215	1	215	コ		1
	ヒューマニズム IV	後期	212	1	212	コ		0.5
	疾患と薬物治療 IV	前期	212	1	212	コ		1
	(択) 生命科学 II	前期	209	1	209	コ		1
	(択) 医用工学概論	前期	65	1	65	コ		1
	(択) 植物療法学	前期	200	1	200	コ		1
	(択) 臨床漢方治療学	前期	209	1	209	コ		1
	(択) 看護学	前期	201	1	201	コ		1
	(択) 臨床心理学	前期	210	1	210	コ		1
	(択) コミュニケーション	前期	146	1	146	コ	S	0.5
	(択) チーム医療演習	前期	14	1	14	コ	S	1
	(択) 薬学応用物理学 III	後期	55	1	55	コ		1
	(択) 総合化学	後期	140	1	140	コ		1
	(択) 香粧品学	後期	-	-	-	コ		1
	(択) 健康 III	後期	142	1	142	コ		1
	(択) 環境 IV	後期	145	1	145	コ		1
(択) 薬理学 VI	後期	173	1	173	コ		1	
(択) 高齢者医療	後期	84	1	84	コ		1	
(択) 総合薬剤学	後期	149	1	149	コ		1	
(択) 一般用医薬品	後期	104	1	104	コ		1	
実習	プレ実務実習 I	前期	212	1	212	コ		1.5
	プレ実務実習 II	後期	21-27	10	211	コ		4.5
	卒業研究	後期	-	-	-		S	15 (6年次に認定)
	(択) 臨床検査実習	前期	29	1	29	コ	S	4.5
演習	薬学演習 I	前期	212	1	212	コ		1
	薬学演習 II	後期				コ		2
単位数の合計							(必須科目)	23.5
							(選択科目)	25
							合計	48.5

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 実技=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-5) 学年別授業科目

	5 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	(択)臨床栄養学	前期	35	1	35	コ			0.5
	(択)人体解剖学	前期	106	1	106	コ			0.5
	(択)地域医療Ⅰ	前期	21	1	21	コ			0.5
	(択)医薬品開発Ⅱ	前期	19	1	19	コ			0.5
	(択)症候学	前期	33	1	33	コ			0.5
	(択)地域医療Ⅱ	後期	-	-	-	コ			0.5
	(択)医薬品開発Ⅲ	後期	8	1	8	コ			0.5
実習	病院実習	前期・後期			239			ジ	20
	薬局実習	前期・後期			239			ジ	
	卒業研究	前期・後期	-	-	-	S		ジ	15 (6年次に認定)
	(択)海外実務実習	後期	-	-	-			ジ	2
演習									
単位数の合計						(必須科目)			20
						(選択科目)			5.5
						合計			25.5

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 実技=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-6) 学年別授業科目

	6 年 次							
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育								
薬学専門教育	処方せん解析 I	前期	232	1	232	コ		1
	処方せん解析 II	前期	232	1	232	コ		1
	(択)薬学総合講義 I	前期	39	1	39	コ		1
	(択)薬学総合講義 II	前期	39	1	39	コ		1
	(択)薬学総合講義 III	前期	208	1	208	コ		1
	(択)薬学総合講義 IV	前期	159	1	159	コ		1
	(択)薬学総合講義 V	前期	58	1	58	コ		1
	(択)臨床薬学総論 I	前期	218	1	218	コ		1
	(択)臨床薬学総論 II	前期	195	1	195	コ		1
	(択)疾患と薬物治療区	前期	0	—	—	コ		1
	(択)臨床医学総論 I	前期	40	1	40	コ		1
	(択)臨床医学総論 II	前期	53	1	53	コ		1
	(択)形態機能学総論	前期	39	1	39	コ		1
	(択)薬局管理学	前期	65	1	65	コ		1
	(択)環境学総論 I	前期	17	1	17	コ	S	1
	(択)環境学総論 II	前期	26	1	26	コ		1
	薬事関係法規 II	後期	233	1	233	コ		1
	薬学総合講義 VI	後期	233	1	233	コ		1
実習	卒業研究	前期	1-16			S	ジ	15
演習	薬学総合演習 I	前期	233	1	233	コ		1
	薬学総合演習 II	後期	233	1	233	コ		2
	薬物治療演習	後期	233	1	233	コ		1
単位数の合計							(必須科目)	23
							(選択科目)	14
							合計	37

(凡例)
講義=コ 実技=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-7) 学年別授業科目

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	6	3.5
教養教育科目	12	12
語学教育科目	16	25
医療安全教育科目	4	3.5
生涯学習の意欲醸成科目	6	20
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	4	3

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	28	23.5	51.5
2 年 次	31.5	2	33.5
3 年 次	33	8.5	41.5
4 年 次	23.5	25	48.5
5 年 次	20	5.5	25.5
6 年 次	23	14	37
合計	159	78.5	237.5

(基礎資料2-1) 修学状況

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計		
入学年度 における	入学定員数	220	220	220	220	220	220	1,320	A	
	編入定員数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		B	
	入学者数	237	246	252	241	253	250	1,479		
基準日 における	各学年の在籍学生数	245	261	248	212	240	233	1,439	C	
	編入学生数(内)		3	1		2	2	8	D	
	留年者数(内)	11	27	26	12	15	7	98		
	留年者の 入学年度	平成20年度				1	11		12	
		平成21年度			5	11			16	
		平成22年度		3	21				24	
		平成23年度	3	24					27	
平成24年度		8						8		
	平成25年度									
C / (A + B)		1.09								
D / B										

- [注] 1 「C / (A + B)」と「D / B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。
- 2 「編入学生数(内)」および「留年者数(内)」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。
- 3 平成25年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料 2 - 2) 休学者数および退学者数

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
総在籍学生数	977		961		1,185		1,205		1,434		1,439	
	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数
1年次	2	11		4		4	3	2	1	7	6	1
2年次		1		2	1	4	1	8	3	4	4	
3年次		1		3	2	1	1	3	1			
4年次	2	1		5	1	1	2	1	1	1		
5年次	1		2		1		2					
6年次			1		2				1			
合計	5	14	3	14	7	10	9	14	7	12	10	1

[注] 平成25年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-3) 学士課程修了状況

		平成23年度 (平成24年3月 卒業)	平成24年度 (平成25年3月 卒業)	平成25年度 (平成26年3 月卒業)	平成26年度 (平成27年3月 卒業)	平成27年度 (平成28年3月 卒業)	平成28年度 (平成29年3月 卒業)	入学者総数		卒業率 (%)
卒業生総数		219 名	215 名	230 名	名	名	名			
卒業生 の入学 年度内 訳	平成18年度入学者	216 名	6 名	1 名	名	名	名	平成18年度	249 名	86.7%
	平成19年度入学者	3 名	209 名	10 名	名	名	名	平成19年度	234 名	89.3%
	平成20年度入学者	名	名	217 名	名	名	名	平成20年度	250 名	86.8%
	平成21年度入学者	名	名	1 名	名	名	名	平成21年度	252 名	0.0%
	平成22年度入学者	名	名	1 名	名	名	名	平成22年度	238 名	0.0%
	平成23年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成23年度	251 名	0.0%

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ						
(1) 生と死						
【生命の尊厳】						
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)	ヒューマニズム I	ヒューマニズム II				
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。						
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。						
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。						
5) 自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。(態度)						
【医療の目的】						
1) 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。			ヒューマニズム III			
【先進医療と生命倫理】						
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。	ヒューマニズム I					
(2) 医療の担い手としてのこころ構え						
【社会の期待】						
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)	早期体験学習			ヒューマニズム IV		
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)				ヒューマニズム IV 薬事関係法規 I		選)薬事関係法規 II
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)				ヒューマニズム IV		
【医療行為に関わるこころ構え】						
1) ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。	ヒューマニズム I		ヒューマニズム III	医療情報 I 薬事関係法規 I		選)薬事関係法規 II
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。				ヒューマニズム IV 薬事関係法規 I		
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。				医療情報 I 薬事関係法規 I		
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)				ヒューマニズム IV		
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)						
【研究活動に求められるこころ構え】						
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。				卒業研究	卒業研究	卒業研究
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)						
3) 他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。(態度)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】						
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)	ヒューマニズム I					
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)				ヒューマニズムIV		
【自己学習・生涯学習】						
1) 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度)				ヒューマニズムIV		
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)						
(3) 信頼関係の確立を目指して						
【コミュニケーション】						
1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。						
2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。	ヒューマニズム I					
3) 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。						
【相手の気持ちに配慮する】						
1) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。						
2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)			ヒューマニズム III			
3) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)		ヒューマニズム II				
【患者の気持ちに配慮する】						
1) 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。						
2) 患者の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)	ヒューマニズム I	ヒューマニズム II	ヒューマニズム III			
3) 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)						
4) 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。(態度)						
5) 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)	早期体験学習		ヒューマニズム III			
【チームワーク】						
1) チームワークの重要性を例示して説明できる。						
2) チームに参加し、協力的態度で役割を果たす。(態度)	ヒューマニズム I					
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)						
【地域社会の人々との信頼関係】						
1) 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。						
2) 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(態度)			ヒューマニズム III			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
B インTRODクシヨン						
(1) 薬学への招待						
【薬学の歴史】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	薬学への招待					
2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。						
【薬剤師の活動分野】						
1) 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。	薬学への招待			薬事関係法規 I		選) 薬事関係法規 II
2) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。				薬事関係法規 I 医療情報 I		
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。				医療情報 I		
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。						
5) 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。						
【薬について】						
1) 「薬とは何か」を概説できる。	薬学への招待					
2) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。						
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。				医療情報 I		
4) 種々の剤形とその使い方について概説できる。						
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。						
【現代社会と薬学との接点】						
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。				医療情報 I		
2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。				薬事関係法規 I		選) 薬事関係法規 II
3) 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。						
【日本薬局方】						
1) 日本薬局方の意義と内容について概説できる。	薬学への招待					
【総合演習】						
1) 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度)	薬学への招待					
2) 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。(技能)						
(2) 早期体験学習						
1) 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	早期体験学習					
2) 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)						
3) 製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。(知識・態度)						
4) 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目											
	1年	2年	3年	4年	5年	6年						
C 薬学専門教育												
[物理系薬学を学ぶ]												
C1 物質の物理的性質												
(1) 物質の構造												
【化学結合】												
1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。							薬化学 I	構造化学 II				
2) 軌道の混成について説明できる。												
3) 分子軌道の基本概念を説明できる。												
4) 共役や共鳴の概念を説明できる。												
【分子間相互作用】												
1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。		薬学応用物理学 II										
2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。		構造化学 II										
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。												
4) 分散力について例を挙げて説明できる。												
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。												
6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。		薬学応用物理学 II										
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。			生体分子解析法 I									
【原子・分子】												
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	薬学応用物理学 I	薬学応用物理学 II 構造化学 II										
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。	薬化学 II	構造化学 II										
3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。												
4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。	薬化学 I	構造化学 II 物理系実習 II	選) 生体分子解析法 II									
5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)			分析化学 III 生体分子解析法 I 選) 生体分子解析法 II									
6) 偏光および旋光性について説明できる。	薬学応用物理学 I	構造化学 II 物理系実習 II	選) 生体分子解析法 II									
7) 散乱および干渉について説明できる。												
8) 結晶構造と回折現象について説明できる。			選) 生体分子解析法 II									
【放射線と放射能】												
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。	構造化学 I											
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。												
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。												
4) 核反応および放射平衡について説明できる。												
5) 放射線の測定原理について説明できる。												

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 物質の状態 I						
【総論】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。		物理化学 I				
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。						
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						
【エネルギー】						
1) 系、外界、境界について説明できる。		物理化学 I				
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。						
3) 仕事および熱の概念を説明できる。						
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。						
6) 代表的な過程 (変化) における熱と仕事を計算できる。(知識、技能)						
7) エンタルピーについて説明できる。						
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能)		物理化学 I 物理系実習 II				
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。		物理化学 I				
【自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。		物理化学 I				
2) 熱力学第二法則について説明できる。						
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)		物理化学 I 物理系実習 II				
4) 熱力学第三法則について説明できる。		物理化学 I				
5) 自由エネルギーについて説明できる。						
6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)		物理化学 I 物理系実習 II				
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。		物理化学 I				
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van' t Hoffの式) について説明できる。						
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。		物理化学 I 生化学 III		生命科学 I		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 物質の状態 II						
【物理平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。		物理化学 II				
2) 相平衡と相律について説明できる。						
3) 代表的な状態図 (一成分系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。						
4) 物質の溶解平衡について説明できる。						
5) 溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。						
6) 界面における平衡について説明できる。						
7) 吸着平衡について説明できる。						
8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)		物理系実習 II				
【溶液の化学】						
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。		物理化学 II				
2) 活量と活量係数について説明できる。	分析化学 I					
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。						
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。						
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。						
6) イオン強度について説明できる。	分析化学 I					
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。						
【電気化学】						
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。		物理化学 II				
2) 標準電極電位について説明できる。	分析化学 I					
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。						
4) Nernstの式が誘導できる。						
5) 濃淡電池について説明できる。	分析化学 I					
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 物質の変化						
【反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		物理化学Ⅱ				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		物理化学Ⅱ 物理系実習Ⅱ				
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物理化学Ⅱ				
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物理化学Ⅱ 物理系実習Ⅱ				
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。	構造化学Ⅰ	物理化学Ⅱ				
6) 反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。						
7) 衝突理論について概説できる。						
8) 遷移状態理論について概説できる。						
9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。						
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。						
【物質の移動】						
1) 拡散および溶解速度について説明できる。		物理化学Ⅱ				
2) 沈降現象について説明できる。						
3) 流動現象および粘度について説明できる。		製剤学Ⅰ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目											
	1年	2年	3年	4年	5年	6年						
C2 化学物質の分析												
(1) 化学平衡												
【酸と塩基】												
1) 酸・塩基平衡を説明できる。							分析化学 I					
2) 溶液の水素イオン濃度 (pH) を測定できる。(技能)								物理系実習 I				
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)												
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。												
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。												
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。												
【各種の化学平衡】												
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。							分析化学 I					
2) 沈殿平衡 (溶解度と溶解度積) について説明できる。												
3) 酸化還元電位について説明できる。												
4) 酸化還元平衡について説明できる。												
5) 分配平衡について説明できる。												
6) イオン交換について説明できる。												

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 化学物質の検出と定量						
【定性試験】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。		分析化学Ⅱ				
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。						
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。						
【定量の基礎】						
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)		物理系実習Ⅰ 物理系実習Ⅱ				
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。		分析化学Ⅱ				
3) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。						
5) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。						
【容量分析】						
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ				
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
6) 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例を説明できる。						
7) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)		物理系実習Ⅰ				
【金属元素の分析】						
1) 原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ			
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。						
【クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。			分析化学Ⅲ			
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。						
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)		物理系実習Ⅰ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)	基礎生物実習 I 基礎生物実習 II	生物系実習 I	分析化学Ⅲ	自)臨床検査実習		
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。						
【分析技術】						
1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			分析化学Ⅲ			
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ 生物系実習Ⅱ			
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
4) 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		分子生物学Ⅱ 生物系実習Ⅰ				
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ			
6) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。			病態検査学Ⅰ			
7) 代表的な画像診断技術(X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など)について概説できる。	構造化学Ⅰ		選)放射薬品学実習			
8) 画像診断薬(造影剤、放射性医薬品など)について概説できる。						
9) 薬学領域で繁用されるその他の分析技術(バイオイメージング、マイクロチップなど)について概説できる。			分析化学Ⅲ			
【薬毒物の分析】						
1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。				プレ実務実習Ⅰ		
2) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)のスクリーニング法を列挙し、説明できる。		環境Ⅱ				
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)			衛生薬学実習			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
(1) 生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。			分析化学Ⅲ 生体分子解析法Ⅰ			
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。			分析化学Ⅲ 生体分子解析法Ⅰ			
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。			生体分子解析法Ⅰ			
4) 電子スピン共鳴 (ESR) スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
5) 旋光度測定法 (旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。			選) 生体分子解析法Ⅱ			
6) 代表的な生体分子 (核酸、タンパク質) の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)			生体分子解析法Ⅰ			
【核磁気共鳴スペクトル】						
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。		構造化学Ⅱ				
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。			選) 生体分子解析法Ⅱ			
【質量分析】						
1) 質量分析法の原理を説明できる。		構造化学Ⅱ	生体分子解析法Ⅰ 選) 生体分子解析法Ⅱ			
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。			生体分子解析法Ⅰ			
【X線結晶解析】						
1) X線結晶解析の原理を概説できる。			選) 生体分子解析法Ⅱ			
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。			構造活性相関 生体分子解析法Ⅰ			
【相互作用の解析法】						
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。			生体分子解析法Ⅰ			
(2) 生体分子の立体構造と相互作用						
【立体構造】						
1) 生体分子 (タンパク質、核酸、脂質など) の立体構造を概説できる。						
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。						
3) タンパク質の立体構造を規定する因子 (疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など) について、具体例を用いて説明できる。			生体分子解析法Ⅰ			
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。						
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
【相互作用】						
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。						
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。			生体分子解析法Ⅰ			
3) 脂質の水における分子集合構造 (膜、ミセル、膜タンパク質など) について説明できる。						
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C4 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【基本事項】						
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	薬化学 I 薬化学 II					
2) 薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。	薬化学 I 有機化学 I	有機化学 II 有機化学 III				
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	有機化学 I					
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。	薬化学 I 有機化学 I					
5) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離、転位) の特徴を概説できる。	有機化学 I	有機化学 II	医薬品合成化学 I			
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。	薬化学 I 有機化学 I					
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン) の構造と性質を説明できる。	薬化学 I 有機化学 I	有機化学 II 有機化学 III				
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。	有機化学 I					
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。	薬化学 I 有機化学 I					
【有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。	薬化学 I					
2) キラリティーと光学活性を概説できる。						
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。						
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。						
5) 絶対配置の表示法を説明できる。						
6) Fischer 投影式とNewman 投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。						
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。						
【無機化合物】						
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。	薬化学 II					
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。						
3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。						
【錯体】						
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。	薬化学 II					
2) 配位結合を説明できる。						
3) 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。						
4) 錯体の安定度定数について説明できる。						
5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素 (キレート効果) について説明できる。						
6) 錯体の反応性について説明できる。						
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。				化学療法学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目											
	1年	2年	3年	4年	5年	6年						
(2) 有機化合物の骨格												
【アルカン】												
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。							薬化学 I					
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。												
3) アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。												
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。												
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。												
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。												
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。												
【アルケン・アルキンの反応性】												
1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。							有機化学 I					
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性 (アンチ付加) を説明できる。												
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性 (Markovnikov 則) について説明できる。												
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。												
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。												
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。									医薬品合成化学 I			
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。	有機化学 I											
【芳香族化合物の反応性】												
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。							有機化学 II					
2) 芳香族性 (Hückel 則) の概念を説明できる。												
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。												
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。												
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。												

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 官能基						
【概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。	薬化学 I 有機化学 I	有機化学 II 有機化学 III				
2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。		有機化学 III		選)総合化学		
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。			医薬品化学			
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)		化学系実習 I				
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)						
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。	有機化学 I	有機化学 II 有機化学 III				
【有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 II				
2) 求核置換反応 (S _N 1および S _N 2反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。						
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性 (Saytzeff則) を説明できる。						
【アルコール・フェノール・チオール】						
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 II				
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。						
【エーテル】						
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 II				
2) オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。						
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。		有機化学 III				
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル) の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
【アミン】						
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 III				
2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。						
【官能基の酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。		有機化学 II 有機化学 III				
2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。						
3) 含窒素化合物の塩基性度を説明できる。		有機化学 III				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 化学物質の構造決定						
【総論】						
1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		有機構造解析				
【¹H NMR】						
1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		有機構造解析				
2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。						
3) 有機化合物中の代表的な水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。						
5) ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。						
6) ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する理由と、分裂様式を説明できる。						
7) ¹ H NMRのスピンの結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。						
8) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)						
【¹³C NMR】						
1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。		有機構造解析				
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
【IRスペクトル】						
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		有機構造解析				
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)						
【紫外可視吸収スペクトル】						
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		有機構造解析				
【マスペクトル】						
1) マスペクトルの概要と測定法を説明できる。		有機構造解析				
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明ができる。						
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマスペクトルの特徴を説明できる。						
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。						
6) 高分解能マスペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。						
7) 基本的な化合物のマスペクトルを解析できる。(技能)						
【比旋光度】						
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。			選)生体分子解析法II			
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)						
3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。						
4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。						
【総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)		化学系実習 I				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C5 ターゲット分子の合成						
(1) 官能基の導入・変換						
1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。			医薬品合成化学 I			
2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。						
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。						
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。						
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。						
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。						
7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。						
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。						
9) カルボン酸誘導体 (エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物) の代表的な合成法について説明できる。						
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。				医薬品合成化学 I 医薬品合成化学 II		
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)						
(2) 複雑な化合物の合成						
【炭素骨格の構築法】						
1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。	有機化学 I		医薬品合成化学 II			
2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。			医薬品合成化学 I			
3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。		有機化学 III				
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応 (アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など) について概説できる。			医薬品合成化学 I 医薬品合成化学 II			
【位置および立体選択性】						
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	有機化学 I	有機化学 II 有機化学 III	医薬品合成化学 II			
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
【保護基】						
1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。			医薬品合成化学 I			
【光学活性化合物】						
1) 光学活性化合物を得るための代表的な手法 (光学分割、不斉合成など) を説明できる。			医薬品合成化学 I 医薬品合成化学 II			
【総合演習】						
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)			医薬品合成化学 I 医薬品合成化学 II			
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)		化学系実習 I				
3) 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C6 生体分子・医薬品を化学で理解する						
(1) 生体分子のコアとパーツ						
【生体分子の化学構造】						
1) タンパク質の高次構造を規定する結合 (アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など) および相互作用について説明できる。	生化学Ⅱ		生物有機化学			
2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。						
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。						
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。						
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。						
【生体内で機能する複素環】						
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。			生物有機化学			
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。						
3) 複素環を含む代表的な補酵素 (フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサール、葉酸など) の機能を化学反応性と関連させて説明できる。						
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。			生物有機化学			
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。						
3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。						
【化学から観る生体ダイナミクス】						
1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。			生物有機化学			
2) 代表的な酵素 (キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど) の作用機構を分子レベルで説明できる。						
3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目							
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
(2) 医薬品のコアとパーツ								
【医薬品のコンポーネント】								
1) 代表的な医薬品のコア構造 (ファーマコフォア) を指摘し、分類できる。			医薬品化学					
2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。								
【医薬品に含まれる複素環】								
1) 医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。			有機化学Ⅱ	医薬品化学				
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。								
3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。								
4) 代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。								
5) 代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。								
【医薬品と生体高分子】								
1) 生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。			医薬品化学					
2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。								
3) 分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。 (知識・技能)	薬化学Ⅰ		医薬品化学 構造活性相関					
【生体分子を模倣した医薬品】								
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学					
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。								
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。								
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。								
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。								
【生体内分子と反応する医薬品】								
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。			医薬品化学					
2) インターカレーター的作用機序を図示し、説明できる。								
3) β -ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。								

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C7 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【生薬とは何か】						
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。		生薬学				
2) 生薬の歴史について概説できる。						
3) 生薬の生産と流通について概説できる。						
【薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)		化学系実習Ⅱ				
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。		生薬学				
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。						
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)		化学系実習Ⅱ				
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。		生薬学				
【植物以外の医薬資源】						
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。			天然物化学			
【生薬成分の構造と生合成】						
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。		生薬学	天然物化学			
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
【農薬、化粧品としての利用】						
1) 天然物質の農薬、化粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。			天然物化学			
【生薬の同定と品質評価】						
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		化学系実習Ⅱ				
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)						
3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)						
4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)						
5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【シーズの探索】						
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。			天然物化学			
2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。						
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。						
【天然物質の取扱い】						
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)		化学系実習Ⅱ				
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。			天然物化学			
【微生物が生み出す医薬品】						
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。			医薬品化学 化学療法学			
【発酵による医薬品の生産】						
1) 微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。			医薬品開発Ⅰ 化学療法学			
【発酵による有用物質の生産】						
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。			医薬品開発Ⅰ 化学療法学			
(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						
1) 漢方医学の特徴について概説できる。			漢方薬物学			
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。						
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。						
4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。						
5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。						
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。		生薬学	天然物化学			
7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。			漢方薬物学			
【漢方処方の応用】						
1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。			漢方薬物学			
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
[生物系薬学を学ぶ]						
C8 生命体の成り立ち						
(1) ヒトの成り立ち						
【概論】						
1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。		人体生理学 I				
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。						
【神経系】						
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。		人体生理学 I				
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
【骨格系・筋肉系】						
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。		人体生理学 I				
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。						
【皮膚】						
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学 I				
【循環器系】						
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学 I				
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【呼吸器系】						
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学 I				
【消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学 I				
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【泌尿器系】						
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学 I				
【生殖器系】						
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学 I				
【内分泌系】						
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学 I				
【感覚器系】						
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学 I				
【血液・造血器系】						
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学 I				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。	細胞生物学					
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。						
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)	細胞生物学 基礎生物実習 I 基礎生物実習 II					
【細胞膜】						
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。	細胞生物学					
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。						
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。						
【細胞内小器官】						
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。	細胞生物学					
【細胞の分裂と死】						
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。	細胞生物学					
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。						
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。						
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。						
【細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	細胞生物学					
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。		人体生理学Ⅱ				
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。						
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。						
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。						
【ホルモンによる調節機構】						
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。		人体生理学Ⅱ				
2) 血糖の調節機構を説明できる。						
【循環・呼吸系の調節機構】						
1) 血圧の調節機構を説明できる。		人体生理学Ⅱ				
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。						
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。						
【体液の調節機構】						
1) 体液の調節機構を説明できる。		人体生理学Ⅱ				
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。						
【消化・吸収の調節機構】						
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。		人体生理学Ⅱ				
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。						
【体温の調節機構】						
1) 体温の調節機構を説明できる。		人体生理学Ⅱ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 小さな生き物たち						
【総論】						
1) 生態系の中での微生物の役割について説明できる。		微生物学				
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。						
【細菌】						
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。	基礎生物実習Ⅱ					
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。		微生物学				
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。						
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。		病原微生物学	ウイルス学			
5) 腸内細菌の役割について説明できる。		微生物学				
6) 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。						
【細菌毒素】						
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		病原微生物学				
【ウイルス】						
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。			ウイルス学			
2) ウイルスの分類法について概説できる。		微生物学	ウイルス学			
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。			ウイルス学			
【真菌・原虫・その他の微生物】						
1) 主な真菌の性状について説明できる。		病原微生物学				
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。						
【消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。	基礎生物実習Ⅱ					
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度) (OSCEの対象)		微生物実習				
3) 主な滅菌法を実施できる。(技能) (OSCEの対象)	基礎生物実習Ⅱ					
【検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)		微生物実習				
2) 無菌操作を実施できる。(技能)						
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)						
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法(生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験)について説明できる。						
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C9 生命をミクロに理解する						
(1) 細胞を構成する分子						
【脂質】						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	生化学 I					
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。						
3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。						
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。						
【糖質】						
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	生化学 I					
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。						
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。						
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)			生物系実習 II			
【アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生化学 I					
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。						
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)			生物系実習 II			
【ビタミン】						
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。	生化学 I					
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。						
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 生命情報を担う遺伝子						
【ヌクレオチドと核酸】						
1) 核酸塩基の代謝 (生合成と分解) を説明できる。		分子生物学 I				
2) DNAの構造について説明できる。						
3) RNAの構造について説明できる。						
【遺伝情報を担う分子】						
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。		分子生物学 I				
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。						
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。						
4) 染色体の構造を説明できる。						
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語 (プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど) を説明できる。						
6) RNAの種類と働きについて説明できる。						
【転写と翻訳のメカニズム】						
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。		分子生物学 I 微生物学		生命科学 I		
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。						
3) RNAのプロセッシングについて説明できる。						
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。						
5) リボソームの構造と機能について説明できる。						
【遺伝子の複製・変異・修復】						
1) DNAの複製の過程について説明できる。		分子生物学 I 微生物学		生命科学 I		
2) 遺伝子の変異 (突然変異) について説明できる。						
3) DNAの修復の過程について説明できる。						
【遺伝子多型】						
1) 一塩基変異 (SNPs) が機能におよぼす影響について概説できる。		分子生物学 I 生物系実習 I 微生物実習	選) 分子生物学 III			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【タンパク質の構造と機能】						
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。	生化学Ⅱ			生命科学Ⅰ		
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。						
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。						
【酵素】						
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	生化学Ⅱ					
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。						
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。						
4) 酵素反応速度論について説明できる。						
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。						
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)				生物系実習Ⅱ		
【酵素以外の機能タンパク質】						
1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質(受容体、チャネルなど)の構造と機能を概説できる。	生化学Ⅱ					
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。						
3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。						
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。						
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。						
【タンパク質の取扱い】						
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)	生化学Ⅱ		生物系実習Ⅱ			
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)		生物系実習Ⅰ				
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。			生体分子解析法Ⅰ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 生体エネルギー						
【栄養素の利用】						
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。		生化学Ⅲ				
【ATPの産生】						
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。		生化学Ⅲ		生命科学Ⅰ		
2) 解糖系について説明できる。						
3) クエン酸回路について説明できる。						
4) 電子伝達系(酸化リン酸化)について説明できる。						
5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。						
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。						
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。						
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。						
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。						
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。						
【飢餓状態と飽食状態】						
1) グリコーゲンの役割について説明できる。		生化学Ⅲ		生命科学Ⅰ		
2) 糖新生について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅵ		
3) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。						
4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。						
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。				疾患と薬物治療Ⅵ		
7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。						
8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(5) 生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		生化学IV				
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。						
【オートコイドなど】						
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。		生化学IV				
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。						
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義(生理活性)を説明できる。						
4) 主な生理活性アミン(セロトニン、ヒスタミンなど)の生合成と役割について説明できる。						
5) 主な生理活性ペプチド(アンギオテンシン、ブラジキニンなど)の役割について説明できる。						
6) 一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。						
【神経伝達物質】						
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		生化学IV				
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
4) アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		生化学IV	免疫 I			
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。						
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。			免疫 I			
【細胞内情報伝達】						
1) 細胞内情報伝達に關与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。		生化学IV				
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。						
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。						
4) 代表的な細胞内(核内)受容体の具体例を挙げて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(6) 遺伝子を操作する						
【遺伝子操作の基本】						
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。		分子生物学Ⅱ				
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)		生物系実習Ⅰ				
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)		分子生物学Ⅰ 生物系実習Ⅰ				
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度)		分子生物学Ⅱ				
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)						
【遺伝子のクローニング技術】						
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。		分子生物学Ⅱ				
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。						
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。						
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		分子生物学Ⅱ 生物系実習Ⅰ		生命科学Ⅰ		
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。		分子生物学Ⅱ				
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。						
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)		微生物実習				
【遺伝子機能の解析技術】						
1) 細胞(組織)における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。		分子生物学Ⅱ				
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。						
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。						
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。			選) 分子生物学Ⅲ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目											
	1年	2年	3年	4年	5年	6年						
C10 生体防御												
(1) 身体をまもる												
【生体防御反応】												
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。		病原微生物学	免疫 I									
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。												
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。												
4) 免疫反応の特徴 (自己と非自己、特異性、記憶) を説明できる。												
5) クローン選択説を説明できる。												
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。												
【免疫を担当する組織・細胞】												
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。			免疫 I									
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。												
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。												
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。												
【分子レベルで見た免疫のしくみ】												
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。			免疫 I									
2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。												
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。												
4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構 (遺伝子再構成) を概説できる。												
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。		生化学IV										

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 免疫系の破綻・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】						
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。			免疫Ⅱ			
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。						
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。						
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。						
【免疫応答のコントロール】						
1) 臓器移植と免疫反応の関わり (拒絶反応、免疫抑制剤など) について説明できる。			免疫Ⅱ			
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。		病原微生物学				
3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。						
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。						
【予防接種】						
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。			免疫Ⅱ			
2) 主なワクチン (生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン) について基本的特徴を説明できる。		病原微生物学				
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。						
【免疫反応の利用】						
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。			免疫Ⅱ			
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。						
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。(技能)			生物系実習Ⅱ			
4) ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。(技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
(3) 感染症にかかる							
【代表的な感染症】							
1) 主なDNAウイルス (△サイトメガロウイルス、△EBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、△アデノウイルス、△パルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。			ウイルス学				
2) 主なRNAウイルス (△ポリオウイルス、△コクサッキーウイルス、△エコーウイルス、△ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、△麻疹ウイルス、△ムンプスウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
3) レトロウイルス (HIV、HTLV) が引き起こす疾患について概説できる。							
4) グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		病原微生物学					
5) グラム陰性球菌 (淋菌、△髄膜炎菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
6) グラム陽性桿菌 (破傷風菌、△ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、△ジフテリア菌、△炭疽菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
7) グラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、△チフス菌、△ペスト菌、コレラ菌、△百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、△ブルセラ菌、レジオネラ菌、△インフルエンザ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
8) グラム陰性スピリルム属病原菌 (ヘリコバクター・ピロリ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
9) 抗酸菌 (結核菌、非定型抗酸菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
11) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムーコル) の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。							
13) プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。	生化学Ⅱ			ウイルス学			
【感染症の予防】							
1) 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。					医薬品安全性学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年					
[健康と環境]											
C11 健康											
(1) 栄養と健康											
【栄養素】											
1) 栄養素 (三大栄養素、ビタミン、ミネラル) を列挙し、それぞれの役割について説明できる。							健康 I				
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。											
3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。											
4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値 (栄養価) を説明できる。											
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。											
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。											
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。											
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。											
【食品の品質と管理】											
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。									環境Ⅲ		
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)									衛生薬学実習		
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。									環境Ⅲ		
4) 食品の変質を防ぐ方法 (保存法) を説明できる。											
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。											
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。											
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。											
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)									衛生薬学実習		
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。									環境Ⅲ		
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)											
【食中毒】											
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。							病原微生物学	環境Ⅲ			
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。											
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。											
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。											
5) 化学物質 (重金属、残留農薬など) による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。											

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 社会・集団と健康						
【保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。		健康 II				
2) 人口静態と人口動態について説明できる。						
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。						
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。						
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。						
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。		健康 II				
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。						
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)						
【疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。		健康 II		医療情報 I		
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。						
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。						
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能)						
5) 要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。(知識・技能)						
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。						
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 疾病の予防						
【健康とは】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。		健康 II				
2) 世界保健機構 (WHO) の役割について概説できる。						
【疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。		健康 II				
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。						
3) 新生児マスキングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。						
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)						
【感染症の現状とその予防】						
1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、国際感染症など) の特徴について説明できる。		健康 II 微生物学 病原微生物学				
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。						
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。						
4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						
5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。						
6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。						
【生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。		健康 II		疾患と薬物治療 VI		
2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。						
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。						
【職業病とその予防】						
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。		健康 II				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C12 環境						
(1) 化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。		環境Ⅱ				
2) 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
3) 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
【化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。		環境Ⅱ 微生物実習				
2) 変異原性試験 (Ames試験など) の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。						
4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。						
【化学物質の毒性】						
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。		環境Ⅱ				
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。						
3) 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。						
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。						
6) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。						
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法など) を説明できる。						
8) 環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質) が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)						
【化学物質による中毒と処置】						
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。		環境Ⅱ				
2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)						
【電離放射線の生体への影響】						
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。		選)放射薬品学 選)放射薬品学実習				
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。						
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。						
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子 (酸素効果など) について説明できる。						
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。						
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。						
【非電離放射線の生体への影響】						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。		環境Ⅰ				
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。		環境 I				
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)						
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。						
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。						
7) 環境中に存在する主な放射性核種(天然、人工)を挙げ、人の健康への影響について説明できる。						
【水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。		環境 I				
2) 水の浄化法について説明できる。						
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。						
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)			衛生薬学実習			
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。						
7) DO, BOD, CODを測定できる。(技能)			衛生薬学実習			
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。		環境 I				
【大気環境】						
1) 空気の成分を説明できる。		環境 I				
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。						
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)			衛生薬学実習			
4) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。						
【室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)		環境 I	衛生薬学実習			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。						
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。						
4) シックハウス症候群について概説できる。						
【廃棄物】						
1) 廃棄物の種類を列挙できる。		環境 I				
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。						
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)				自)臨床検査実習		
4) マニフェスト制度について説明できる。						
5) PRTR法について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。		環境 I				
2) 環境基本法の理念を説明できる。						
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。						
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
[薬と疾病]						
G13 薬の効くプロセス						
【薬の作用】						
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。	薬理学 I					
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。						
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。						
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。						
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。						
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。						
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。						
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。						
【薬の運命】						
1) 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。	薬理学 I					
2) 薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。						
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。						
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。						
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。						
【薬の副作用】						
1) 薬物の主作用と副作用（有害作用）、毒性との関連について説明できる。	薬理学 I					
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。				医療情報 I		
【動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮する。（態度）			薬理学実習			
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。（技能）						
3) 実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる。（技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 薬の効き方I						
【中枢神経系に作用する薬】						
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学III				
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な中枢神経疾患（てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
5) 代表的な精神疾患（統合失調症、うつ病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。				薬理学実習		
【自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学II				
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能）△技能であるからCBTには馴染まない				薬理学実習		
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学II				
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能）				薬理学実習		
【循環器系に作用する薬】						
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学IV				
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【呼吸器系に作用する薬】						
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学V				
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。		薬理学II 薬理学III	薬理学IV 薬理学V	選)薬理学VI		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
(3) 薬の効き方II							
【ホルモンと薬】							
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			薬理学V	疾患と薬物治療VI			
2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。							
3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。							
【消化器系に作用する薬】							
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学V				
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。							
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。							
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。							
5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。							
【腎に作用する薬】							
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬理学IV				
【血液・造血器系に作用する薬】							
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理学IV				
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。							
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。							
【代謝系に作用する薬】							
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理学IV	疾患と薬物治療VI			
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。							
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。							
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。							
【炎症・アレルギーと薬】							
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬理学V				
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。							
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。				疾患と薬物治療IV			
【化学構造】							
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			薬理学IV 薬理学V	選)薬理学VI			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。			薬物動態学 I			
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。						
3) 受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴を説明できる。						
4) 能動輸送の特徴を説明できる。						
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。						
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。						
【分布】						
1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。			薬物動態学 I			
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。						
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。						
4) 薬物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。						
5) 薬物分布の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)について説明できる。						
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。						
7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)			薬物動態学実習			
【代謝】						
1) 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。			薬物動態学 III			
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。						
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。						
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。						
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。						
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。						
7) 薬物代謝酵素の変動要因(誘導、阻害、加齢、SNPsなど)について説明できる。						
8) 初回通過効果について説明できる。						
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。						
【排泄】						
1) 腎における排泄機構について説明できる。			薬物動態学 I			
2) 腎クリアランスについて説明できる。			薬物動態学 I 薬物動態学 II			
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。			薬物動態学 I			
4) 胆汁中排泄について説明できる。			薬物動態学 III			
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。						
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。						
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。			薬物動態学 I			
【相互作用】						
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			薬物動態学 III			
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(5) 薬物動態の解析						
【薬動学】						
1) 薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。			薬物動態学Ⅱ			
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。						
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)						
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)						
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。			薬物動態学Ⅲ			
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)			薬物動態学Ⅱ			
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)						
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。				プレ実務実習Ⅱ		
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。			薬物動態学Ⅱ			
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)						
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)						
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)						
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】						
1) 治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明できる。			薬物動態学Ⅱ			
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。						
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)				プレ実務実習Ⅱ		
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。			薬物動態学Ⅱ			
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)				プレ実務実習Ⅱ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C14 薬物治療						
(1) 体の変化を知る						
【症候】						
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい			病態検査学 I 選) 病態検査学 II		選) 症候学	薬物治療演習
【症候と臨床検査値】						
1) 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			病態検査学 I			薬物治療演習
2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
3) 代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			選) 臨床生理学	疾患と薬物治療 II		
4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			疾患と薬物治療 I			
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			選) 病態検査学 II			
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			病態検査学 I	疾患と薬物治療 VI		
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。						
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。			選) 病態検査学 II	疾患と薬物治療 II		
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。			病態検査学 I	疾患と薬物治療 II		
11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。			選) 臨床生理学	プレ実務実習 II		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)						
【薬物治療の位置づけ】						
1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療 (外科手術、食事療法など) の位置づけを説明できる。			疾患と薬物治療 I			薬物治療演習
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)						
【心臓・血管系の疾患】						
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。			疾患と薬物治療 I			
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック						
【血液・造血系の疾患】						
1) 血液・造血系における代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療 IV		
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓						
【消化器系疾患】						
1) 消化器系の部位別 (食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓) に代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療 II		
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)			生物系実習 II			薬物治療演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等)						
【腎臓・尿路の疾患】						
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療Ⅲ		
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石						
【生殖器疾患】						
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療Ⅲ		
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症						
【呼吸器・胸部の疾患】						
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療Ⅱ		
2) 閉塞性気道疾患 (気管支喘息、肺気腫) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎 (かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌						
【内分泌系疾患】						
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療Ⅵ		
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病						
【代謝性疾患】						
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅵ		
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【神経・筋の疾患】						
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療Ⅴ		
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。			生物系実習Ⅱ			薬物治療演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 疾患と薬物治療 (精神疾患等)						
【精神疾患】						
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療V		
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症						
【耳鼻咽喉の疾患】						
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療VII		
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎						
【皮膚疾患】						
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療VII		
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症						
【眼疾患】						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療VII		
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症						
【骨・関節の疾患】						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療VI		
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬理学V			
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症				疾患と薬物治療VI		
【アレルギー・免疫疾患】						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療IV		
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 自己免疫疾患 (全身性エリテマトーデスなど) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【移植医療】						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療III		
【緩和ケアと長期療養】						
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療VII		
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。 (技能)						薬物治療演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(5) 病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。		病原微生物学				
【抗菌薬】						
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。			化学療法学			
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。						
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
7) ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
8) サルファ薬 (ST合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。						
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。						
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。						
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。						
【抗原虫・寄生虫薬】						
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			化学療法学			
【抗真菌薬】						
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			化学療法学			
【抗ウイルス薬】						
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			ウイルス学			
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。						
【抗菌薬の耐性と副作用】						
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。			化学療法学			
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。			腫瘍学			
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。						
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【抗悪性腫瘍薬】						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。			化学療法学			
2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。						
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。						
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。						
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。			化学療法学 腫瘍学 医薬品化学			
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。			化学療法学			
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。				医薬品安全性学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C15 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【情報】						
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。				医療情報 I		
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。						
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。						
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。						
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。						
【情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。				医療情報 I		
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。						
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。						
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。						
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。（技能）						
【収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）				医療情報 I		
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。						
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。（技能）						
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。（知識・態度）						
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
【データベース】						
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。				医療情報 I		
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。（知識・技能）						
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。（技能）						
【EBM (Evidence-Based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。				医療情報 I		
2) EBM実践のプロセスを概説できる。						
3) 臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など）の長所と短所を概説できる。						
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。（知識・技能）						
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。						
6) 臨床適用上の効果指標（オッズ比、必要治療数、相対危険度など）について説明できる。						
【総合演習】						
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。				プレ実務実習 II		
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。（知識・技能）				プレ実務実習 II		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 患者情報						
【情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。				医療情報Ⅱ		
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						
【収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。				医療情報Ⅱ		
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)						
3) 患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。(技能)						
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。(知識・技能)						
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)						
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)						
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)						
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的素因】						
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				医療情報Ⅱ		
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
【年齢的要因】						
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				医療情報Ⅱ		
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【生理的要因】						
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				医療情報Ⅱ		
2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 栄養状態の異なる患者(肥満など)に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【合併症】						
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				医療情報Ⅱ		
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				医療情報Ⅱ		
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				プレ実務実習Ⅱ		
【投与計画】						
1) 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)				医療情報Ⅱ プレ実務実習Ⅱ		
2) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。						
3) 薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)						
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
[医薬品をつくる]						
C16 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。		製剤学 I				
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。						
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。						
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。						
【分散系】						
1) 界面の性質について説明できる。		製剤学 I				
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。						
3) 乳剤の型と性質について説明できる。						
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。						
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。						
【製剤材料の物性】						
1) 流動と変形 (レオロジー) の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。		製剤学 I				
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。						
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。						
4) 粉体の性質について説明できる。			製剤学 II			
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。						
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。						
7) 粉末 X線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。						
8) 製剤材料の物性を測定できる。(技能)				製剤学実習		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。	薬理学 I					
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。			製剤学 II			
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。			製剤学実習			
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。						
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。			製剤学 II			
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。						
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。						
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。						
【製剤化】						
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。			製剤学 II			
2) 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。(技能)			製剤学実習			
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			製剤学 II			
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。			製剤学実習			
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
【DDSの必要性】						
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。			製剤学Ⅲ			
2) DDSの概念と有用性について説明できる。						
【放出制御型製剤】						
1) 放出制御型製剤 (徐放性製剤を含む) の利点について説明できる。			製剤学Ⅲ			
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。			製剤学Ⅱ 製剤学Ⅲ			
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。			製剤学Ⅲ			
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。						
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる						
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。						
【ターゲティング】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。			製剤学Ⅲ			
2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。						
【プロドラッグ】						
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。			製剤学Ⅲ			
【その他のDDS】						
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。			製剤学Ⅲ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C17 医薬品の開発と生産						
(1) 医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。			医薬品開発 I			
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。						
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。			医薬品開発 I			
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。						
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。						
4) 希少疾病に対する医薬品（オーファンドラッグ）開発の重要性について説明できる。						
【非臨床試験】						
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。			医薬品開発 I	医療情報 I		
【医薬品の承認】						
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。			医薬品開発 I	医療情報 I 治験		
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。						
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。						
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション (ICH) について概説できる。						
【医薬品の製造と品質管理】						
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。			医薬品開発 I			
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。						
3) 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。						
【規範】						
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMSP (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。			医薬品開発 I	医療情報 I 治験		
【特許】						
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。			医薬品開発 I			
【薬害】						
1) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど）について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）			医薬品開発 I	医薬品安全性学 薬剤経済		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。			構造活性相関			
【標的生体分子との相互作用】						
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。			構造活性相関			
2) 医薬品と標的分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。						
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。						
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。						
【スクリーニング】						
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。			構造活性相関			
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。						
【リード化合物の最適化】						
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。			構造活性相関			
2) 生物学的等価性 (バイオアイソスター) の意義について概説できる。						
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			化学療法学 選) 分子生物学Ⅲ		選) 医薬品開発Ⅲ	
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。			化学療法学 選) 分子生物学Ⅲ			
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。				医薬品安全性学		
【遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			ウイルス学 選) 分子生物学Ⅲ		選) 医薬品開発Ⅲ	
【細胞を利用した治療】						
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			ウイルス学 選) 分子生物学Ⅲ		選) 医薬品開発Ⅲ	
【ゲノム情報の創薬への利用】						
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。			選) 分子生物学Ⅲ		選) 医薬品開発Ⅲ	
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。						
3) 遺伝子多型(欠損、増幅)の解析に用いられる方法(ゲノミックサザンブロット法など)について概説できる。						
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例(イマチニブなど)を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。			生体分子解析法Ⅰ 選) 分子生物学Ⅲ			
【疾患関連遺伝子】						
1) 代表的な疾患(癌、糖尿病など)関連遺伝子について説明できる。			化学療法学 腫瘍学		選) 医薬品開発Ⅲ	
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。			選) 分子生物学Ⅲ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目											
	1年	2年	3年	4年	5年	6年						
(4) 治験												
【治験の意義と業務】												
1) 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。									医薬品開発 I	治験 医療情報 I		
2) 医薬品創製における治験の役割を説明できる。												
3) 治験 (第 I、II、および III 相) の内容を説明できる。												
4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。												
5) 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。 (態度)												
6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。												
【治験における薬剤師の役割】												
1) 治験における薬剤師の役割 (治験薬管理者など) を説明できる。				治験 医療情報 I								
2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。												
3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。												
4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)												

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目											
	1年	2年	3年	4年	5年	6年						
(5) バイオスタティスティクス												
【生物統計の基礎】												
1) 帰無仮説の概念を説明できる。							医療統計					
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。												
3) 主な二群間の平均値の差の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)												
4) χ^2 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)												
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)												
6) 主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など) の概要を説明できる。												
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。												
【臨床への応用】												
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。							医療統計演習			治験 医療情報 I		
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。												
3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。												
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)										医療情報 I		
5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier曲線など) の特徴を説明できる。												

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C18 薬学と社会						
(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)				ヒューマニズムIV		
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)						
【法律と制度】						
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。				薬事関係法規 I		
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。						
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。						
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。						
7) 製造物責任法を概説できる。						
【管理薬】						
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				薬事関係法規 I		
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。						
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。						
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。						
【放射性医薬品】						
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準(放射性医薬品基準など)および制度について概説できる。				選)放射薬品学 選)放射薬品学実習		
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。				薬剤経済		
2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。						
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。						
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。						
【医療保険】						
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。				薬剤経済		
2) 医療保険のしくみを説明できる。						
3) 医療保険の種類を列挙できる。						
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。						
【薬剤経済】						
1) 国民医療費の動向を概説できる。				薬剤経済		
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。						
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。						
4) 医療費の内訳を概説できる。						
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。						
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) コミュニティファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1) 地域薬局の役割を列挙できる。				薬剤経済 薬局概論		
2) 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。						
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。						
【医薬分業】						
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。			ヒューマニズムⅢ	薬剤経済 薬局概論		
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)						
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。						
【薬局の業務運営】						
1) 保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。				薬剤経済		
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。				薬剤経済 薬局概論		
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。						
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。						
【OTC薬・セルフメディケーション】						
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)				薬局概論		
2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。						
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。						

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。
- 2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。
- 3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

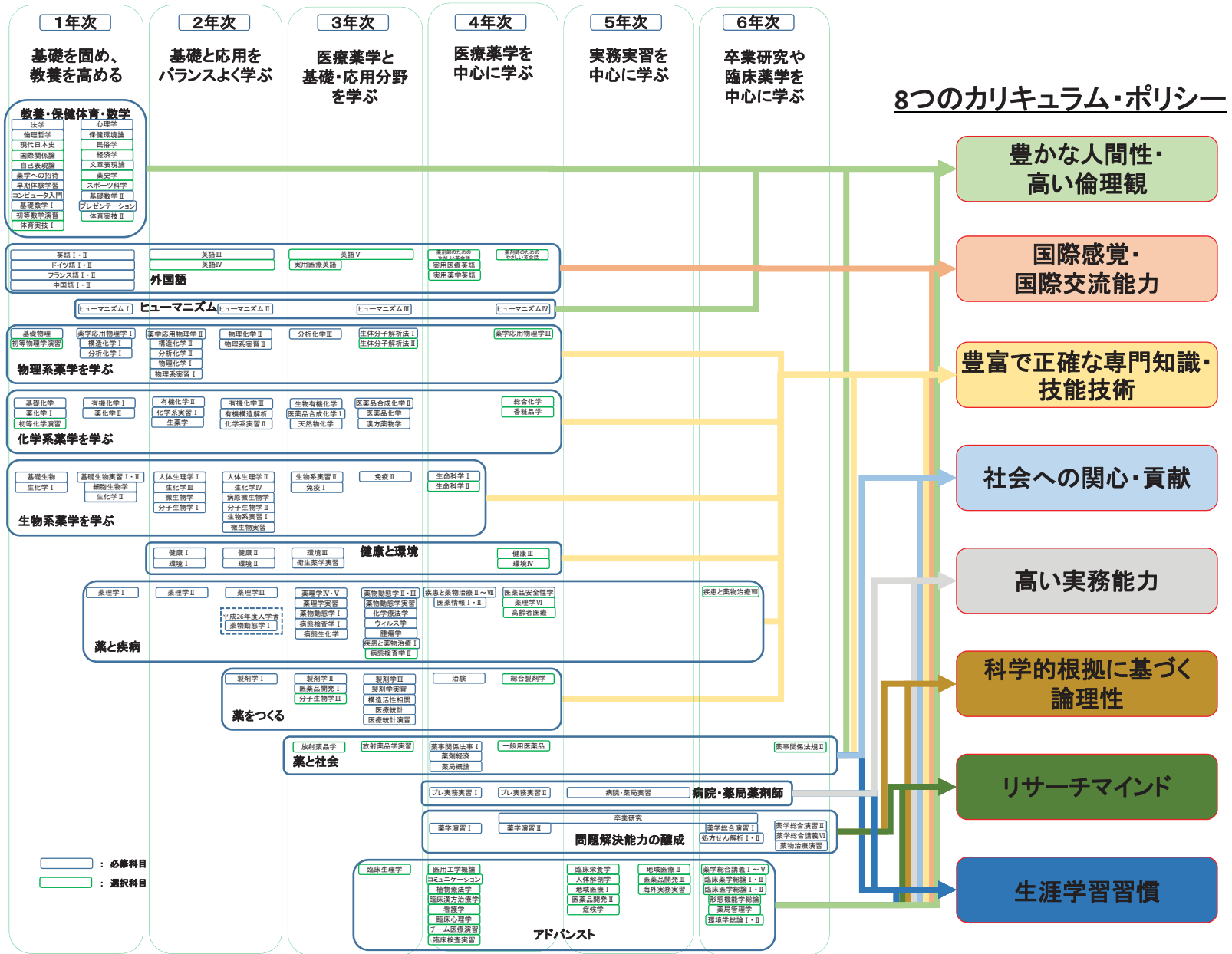
実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習) SBOs	該当科目		
	3年	4年	5年
D 実務実習教育			
(I) 実務実習事前学習			
(1) 事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。		プレ実務実習 I	
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。			
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)			
《チーム医療に注目する》			
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。		プレ実務実習 I	
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。			
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)			
《医薬分業に注目する》			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		プレ実務実習 I	
(2) 処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。		プレ実務実習 I プレ実務実習 II	
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。			
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。			
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。			
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)			
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。			
《医薬品の用法・用量》			
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。		プレ実務実習 I プレ実務実習 II	
8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)			
9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。			
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)			
11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。			

《服薬指導の基礎》			
12.	服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		プレ実務実習 I
《調剤室業務入門》			
13.	代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)		プレ実務実習 II
14.	処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)		
15.	処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)		
16.	調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)		
17.	処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)		
(3) 疑義照会			
《疑義照会の意義と根拠》			
1.	疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。		プレ実務実習 I
3.	特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。(技能)		プレ実務実習 II
4.	不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。		プレ実務実習 I
《疑義照会入門》			
5.	処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)		プレ実務実習 I
6.	代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。		
7.	代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。		
8.	代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。		
9.	疑義照会の流れを説明できる。		
10.	疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)		プレ実務実習 II
(4) 医薬品の管理と供給			
《医薬品の安定性に注目する》			
1.	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		プレ実務実習 I
2.	代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。		
《特別な配慮を要する医薬品》			
3.	毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。		プレ実務実習 I
4.	麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		
5.	血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。		
6.	輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。		
7.	代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。		
8.	生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		
9.	麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)		プレ実務実習 II
10.	代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。	選)放射薬品学 選)放射薬品学実習	プレ実務実習 I
11.	放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。	選)放射薬品学 選)放射薬品学実習	プレ実務実習 I

《製剤化の基礎》			
12.	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		プレ実務実習 I
13.	薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		
14.	代表的な院内製剤を調製できる。(技能)		プレ実務実習 II
15.	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)		
16.	抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)		
《注射剤と輸液》			
17.	注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。		プレ実務実習 I
18.	代表的な配合変化を検出できる。(技能)		プレ実務実習 II
19.	代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。		プレ実務実習 I
20.	体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)		
《消毒薬》			
21.	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。		プレ実務実習 I
22.	消毒薬調製時の注意点を説明できる。		
(5) リスクマネジメント			
《安全管理に注目する》			
1.	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。		
2.	誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。		プレ実務実習 I
3.	院内感染の回避方法について説明できる。		
《副作用に注目する》			
4.	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。		プレ実務実習 I
《リスクマネジメント入門》			
5.	誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。		プレ実務実習 I
6.	リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)		
7.	事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)		
(6) 服薬指導と患者情報			
《服薬指導に必要な技能と態度》			
1.	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。		プレ実務実習 I
2.	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。		
3.	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。		
4.	インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度)		プレ実務実習 II
5.	適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度)		
6.	医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)		
7.	患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。		

《患者情報の重要性に注目する》			
8.	服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。		
9.	患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）	プレ実務実習Ⅰ	
10.	医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。		
《服薬指導入門》			
11.	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）	プレ実務実習Ⅱ	
12.	共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）		
13.	患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）		
14.	代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）		
（7）事前学習のまとめ			
		プレ実務実習Ⅱ	

(基礎資料4 カリキュラムマップ)



(基礎資料5) 語学教育の要素

科目名	開講年生	要素			
英語Ⅰ	1	読	書	聞	
英語Ⅱ	1	読	書	聞	
英語Ⅲ	2	読	書	聞	
英語Ⅳ	2	読	書	聞	
英語Ⅴ	3	聞	話		
薬剤師のためのやさしい英会話	4	聞	話		
実用薬学英語	4	聞	話		
実用医療英語	3,4	聞	話		
ドイツ語Ⅰ	1	読	書	聞	話
ドイツ語Ⅱ	1	読	書	聞	話
フランス語Ⅰ	1	読	書	聞	話
フランス語Ⅱ	1	読	書	聞	話
中国語Ⅰ	1	読	書	聞	話
中国語Ⅱ	1	読	書	聞	話

[注] 要素欄は左記の識別区分にそって作成してください。

読	読み
書	書き
聞	聞く
話	話す

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成25年4月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
第1週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第2週	月	1日				S101~103講義		
	火							
	水							
	木							
	金							
第3週	月	2日				S104、S105講義		S107講義
	火							
	水							
	木							
	金							
第4週	土	3日				S201~204講義		
	月	4日				S205~208講義		
	火							
	水							
	木							
第5週	金							
	月		昭和の日					
	火							
	水							
	木							
	金		憲法記念日					

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成25年5月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
第1週	月							
	火							
	水							
	木							
	金		憲法記念日					
第2週	月		振り替え休日					
	火							
	水							
	木							
	金							
第3週	月	5日				S209～S211講義		
	火							
	水							
	木							
	金							
第4週	月	6日				S301～S306講義		
	火							
	水							
	木							
	金							
第5週	月	7日				S401～S407講義		
	火							
	水							
	木							
	金							

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成25年6月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
第1週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第2週	月	8日				S408～S411講義		
	火							
	水							
	木							
	金							
第3週	月		創立記念日					
	火							
	水							
	木							
	金							
第4週	土	9日				S412～414講義		
	月	10日				S501～S505講義		
	火							
	水							
	木							
第5週	金							
	月	11日				S601、S602、S604講義		
	火							
	水							
	木							

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成25年7月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
第1週	月	12日				S605、S606講義		
	火							
	水							
	木							
	金							
第2週	月	13日				(大学独自) TDM概要 講義		
	火							
	水							
	木							
	金							
第3週	月		海の日					
	火							
	水							
	木							
	金							
第4週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第5週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成25年9月				平成25年10月				平成25年11月				平成25年12月			
月日	曜日	日	13:30~	月日	曜日	日	13:30~	月日	曜日	日	13:30~	月日	曜日	日	13:30~
9月1日	日			10月1日	火	7日	S411、S412実習	11月1日	金			12月1日	日		
9月2日	月			10月2日	水			11月2日	土			12月2日	月	15日	S603、S606実習
9月3日	火			10月3日	木	8日	S411、S412実習	11月3日	日			12月3日	火	16日	S701実習
9月4日	水			10月4日	金			11月4日	月			12月4日	水		
9月5日	木			10月5日	土			11月5日	火	6日	S302、S305、S306実習	12月5日	木	16日	S701実習
9月6日	金			10月6日	日			11月6日	水			12月6日	金		
9月7日	土			10月7日	月	9日	S411、S412実習	11月7日	木			12月7日	土		
9月8日	日			10月8日	火	10日	S408実習	11月8日	金			12月8日	日		
9月9日	月			10月9日	水			11月9日	土			12月9日	月	17日	S701実習
9月10日	火			10月10日	木	11日	S408実習	11月10日	日			12月10日	火	17日	S701実習
9月11日	水	実習ガイダンス		10月11日	金			11月11日	月			12月11日	水		
9月12日	木	1日	S210、S211実習	10月12日	土			11月12日	火	7日	S411、S412実習	12月12日	木	18日	S701実習
9月13日	金			10月13日	日			11月13日	水			12月13日	金	18日	S701実習
9月14日	土			10月14日	月	体育の日		11月14日	木	8日	S411、S412実習	12月14日	土		
9月15日	日			10月15日	火	12日	S408実習	11月15日	金			12月15日	日		
9月16日	月	敬老の日		10月16日	水			11月16日	土			12月16日	月	19日	S701実習
9月17日	火	2日	S210、S211実習	10月17日	木	13日	S603、S606実習	11月17日	日			12月17日	火		
9月18日	水			10月18日	金	14日	S603、S606実習	11月18日	月	9日	S411、S412実習	12月18日	水		
9月19日	木	3日	S210、S211実習	10月19日	土			11月19日	火	10日	S408実習	12月19日	木	19日	S701実習
9月20日	金			10月20日	日			11月20日	水			12月20日	金		
9月21日	土			10月21日	月	15日	S603、S606実習	11月21日	木	11日	S408実習	12月21日	土		
9月22日	日			10月22日	火	1日	S210、S211実習	11月22日	金			12月22日	日	OSCE	
9月23日	月			10月23日	水			11月23日	土			12月23日	月		
9月24日	火	4日	S302、S305、S306実習	10月24日	木	2日	S210、S211実習	11月24日	日			12月24日	火		
9月25日	水			10月25日	金			11月25日	月	12日	S408実習	12月25日	水		
9月26日	木	5日	S302、S305、S306実習	10月26日	土			11月26日	火	13日	S603、S606実習	12月26日	木		
9月27日	金			10月27日	日			11月27日	水			12月27日	金		
9月28日	土			10月28日	月	3日	S210、S211実習	11月28日	木	14日	S603、S606実習	12月28日	土		
9月29日	日			10月29日	火	4日	S302、S305、S306実習	11月29日	金			12月29日	日		
9月30日	月	6日	S302、S305、S306実習	10月30日	水			11月30日	土			12月30日	月		
				10月31日	木	5日	S302、S305、S306実習					12月31日	火		

※青日程:Aグループ 120名、赤日程:Bグループ 120名

(基礎資料7) 学生受入状況

	学科名	入試の種類		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	募集定員数 に対する入 学者数の比 率(6年間 の平均)
				入試(20年 度実施)	入試(21年 度実施)	入試(22年 度実施)	入試(23年 度実施)	入試(24年 度実施)	入試(25年 度実施)	
薬 学 部	薬 学 科	一般入試	受験者数	960	774	784	791	1,071	1,029	112.1
			合格者数	137	154	163	153	174	198	
			入学者数(A)	37	43	53	61	63	82	
			募集定員数(B)	100	100	100	100	100	100	
			A/B*100(%)	37.0	43.0	53.0	61.0	63.0	82.0	
		大学入試セン ター 入試 (前期)	受験者数	901	837	923	967	1,078	874	
			合格者数	259	287	320	273	281	222	
			入学者数(A)	75	74	75	63	43	44	
			募集定員数(B)	20	20	20	20	20	20	
			A/B*100(%)	375.0	370.0	375.0	315.0	215.0	220.0	
		大学入試セン ター 入試 (後期)	受験者数	63	50	42	64	46	104	
			合格者数	15	10	11	10	15	21	
			入学者数(A)	7	3	4	3	2	8	
			募集定員数(B)	10	10	10	10	10	10	
			A/B*100(%)	70.0	30.0	40.0	30.0	20.0	80.0	
		指定校推薦	受験者数	62	57	76	71	82	79	
			合格者数	62	57	76	71	82	79	
			入学者数(A)	62	57	76	71	82	79	
			募集定員数(B)	50	50	50	50	50	50	
			A/B*100(%)	124.0	114.0	152.0	142.0	164.0	158.0	
		公募推薦入試	受験者数	170	121	110	75	115	116	
			合格者数	63	58	38	40	42	39	
			入学者数(A)	63	58	38	40	42	39	
			募集定員数(B)	38	38	38	38	38	38	
			A/B*100(%)	165.8	152.6	100.0	105.3	110.5	102.6	
		同窓生子女入試	受験者数	17	6	14	10	20	17	
			合格者数	4	1	4	6	5	7	
			入学者数(A)	4	1	4	6	5	7	
			募集定員数(B)	2	2	2	2	2	2	
			A/B*100(%)	200.0	50.0	200.0	300.0	250.0	350.0	
		社会人入試	受験者数	11	6	5	2	4	2	
			合格者数	4	4	1	1	3	0	
入学者数(A)	4		2	1	1	0	0			
募集定員数(B)	若干名		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名			
A/B*100(%)	—		—	—	—	—	—			
学 科 計			受験者数	2,184	1,851	1,954	1,980	2,416	2,221	
			合格者数	621	614	613	554	602	566	
			入学者数(A)	252	238	251	245	235	259	
			募集定員数(B)	220	220	220	220	220	220	
			A/B*100(%)	114.5	108.2	114.1	111.4	106.8	117.7	

- [注] 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な教員数	36名
②設置基準において、必要な実務家教員数	6名

(教員の部)	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育			1			
語学教育	1		1			
薬学基礎教育	1	1	1			
専門薬学教育	14	10	13	10		
実務実習教育	5(4)	5(2)	4(4)			実務家:10
小計	21	16	20	10		
専任教員数	67(10)					実務家:10
(事務職員の部)	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連			5	23(12)	12(4)	図書館、システム、薬草園技術員
法人業務関連		1	3	12(8)		
小計		1	8	35(20)	12(4)	
事務職員数	44(20)					

- [注] 1 「①設置基準において、必要な教員数」には、大学設置基準別表第一、第二をもとに算出した数値を記入してください。
- 2 主に担当する科目(業務)で算出し、重複しないように注意してください。
- 3 該当する場合は、()内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。(例示:6(2)=6名のうち2名が特任)
- 4 該当する場合は、()内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。(例示:3(1)=3名のうち1名が嘱託事務職員)
- 5 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
- 6 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教授	0	7	9	5(1)	0	0	21(1)
	0.0%	33.3%	42.9%	23.8%	0.0%	0.0%	100.0%
准教授	0	5(3)	6	4	1	0	16(3)
	0.0%	31.3%	37.5%	25.0%	6.3%	0.0%	100.0%
専任講師	0	1	2(1)	11(5)	6(2)	0	20(8)
	0.0%	5.0%	10.0%	55.0%	30.0%	0.0%	100.0%
助教	0	1	2	4(1)	2(1)	1	10(2)
	0.0%	10.0%	20.0%	40.0%	20.0%	10.0%	100.0%
合計	0	14(3)	19(1)	24(7)	9(3)	1	67(14)
	0.0%	20.9%	28.4%	35.8%	13.4%	1.5%	100.0%
定年年齢	65歳						

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 ()に女性の数を記入してください。(例示: 2(1) = 2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬剤学教室	教授	てらだ かつひで 寺田 勝英	男	62	1996. 4. 1	1996. 4. 1	薬学への招待	0.0						0.0	0.0	4.7	千葉大学 大学院 薬学研究科 修士課程 薬学博士
								製剤学Ⅱ	1.2					1.2	0.0			
								薬学総合講義Ⅲ	0.3					0.3	0.0			
								製剤学Ⅰ		2.4				0.0	2.4			
								製剤学Ⅲ		2.4				0.0	2.4			
								総合薬剤学		0.6				0.0	0.6			
								製剤学実習					2.4	0.0	2.4			
								計	1.5	5.4	0.0	0.0	0.0	2.4	1.5	7.8		
薬学科	生薬学教室	教授	こいけ かずお 小池 一男	男	57	1979. 4. 1	2006. 4. 1	生薬学	2.4					2.4	0.0	4.4	東邦大学 薬学部 薬学博士	
								薬学総合講義Ⅴ	0.3					0.3	0.0			
								漢方薬物学		1.2				0.0	1.2			
								化学系実習Ⅱ					4.8	0.0	4.8			
														0.0	0.0			
								計	2.7	1.2	0.0	0.0	0.0	4.8	2.7			6.0
薬学科	薬理学教室	教授	たなか よしお 田中 芳夫	男	52	1997. 5. 1	2009. 4. 1	薬理学実習				3.6		3.6	0.0	3.5	東京大学 大学院 薬学系研究科 修士課程 薬学博士	
								薬理学Ⅱ	1.2					1.2	0.0			
								薬学演習Ⅰ			0.0			0.0	0.0			
								薬学総合演習Ⅰ			0.0			0.0	0.0			
								薬学総合講義Ⅲ	0.3					0.3	0.0			
								薬理学Ⅰ		0.6				0.0	0.6			
								薬理学Ⅲ		1.2				0.0	1.2			
								薬学総合演習Ⅱ			0.0			0.0	0.0			
														0.0	0.0			
								計	1.5	1.8	0.0	0.0	3.6	0.0	5.1			1.8

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬品分析学教室	教授	ふくしま たけし 福島 健	男	49	2008. 4. 1	2008. 4. 1	分析化学Ⅱ	1.2						1.2	0.0	5.3	東京薬科大学 大学院 薬学研究科 博士前期課程 博士(薬学)
								分析化学Ⅲ	1.2						1.2	0.0		
								物理系実習Ⅰ				7.2			7.2	0.0		
								薬学総合講義Ⅲ	0.3					0.3	0.0			
								薬学応用物理学Ⅲ		0.6				0.0	0.6			
								計	2.7	0.6	0.0	0.0	7.2	0.0	9.9	0.6		
薬学科	生化学教室	教授	たかはし りょうや 高橋 良哉	男	53	1987. 4. 1	2007. 4. 1	生化学Ⅲ	1.2						1.2	0.0	5.6	東邦大学 大学院 薬学研究科 博士後期課程 薬学博士
								生命科学Ⅰ	1.2						1.2	0.0		
								生命科学Ⅱ	1.2						1.2	0.0		
								薬学総合講義Ⅳ	0.3					0.3	0.0			
								生化学Ⅱ		2.4				0.0	2.4			
								生物系実習Ⅰ					4.8	0.0	4.8			
														0.0	0.0			
								計	3.9	2.4	0.0	0.0	0.0	4.8	3.9	7.2		
薬学科	薬品製造学教室	教授	あずまや いさお 東屋 功	男	46	2013. 4. 1	2013. 4. 1	基礎化学	2.4						2.4	0.0	5.0	東京大学 大学院 薬学系研究科 博士課程 博士(薬学)
								化学系実習Ⅰ				3.6			3.6	0.0		
								薬学総合講義Ⅴ	0.3					0.3	0.0			
								医薬品合成化学Ⅱ		2.4				0.0	2.4			
								薬化学Ⅱ		1.2				0.0	1.2			
								計	2.7	3.6	0.0	0.0	3.6	0.0	6.3	3.6		
薬学科	薬品物理分析学教室	教授	たかはし てつお 高橋 哲郎	男	62	2001. 4. 1	2001. 4. 1	物理化学Ⅰ	1.2						1.2	0.0	6.2	東京大学 大学院 薬学系研究科 博士課程 薬学博士
								構造化学Ⅱ	1.2						1.2	0.0		
								薬学総合講義Ⅴ	0.3					0.3	0.0			
								初等物理学演習			2.4			2.4	0.0			
								物理化学Ⅱ		1.2				0.0	1.2			
								生体分子解析法Ⅱ		1.2				0.0	1.2			
								物理系実習Ⅱ					4.8	0.0	4.8			
								計	2.7	2.4	2.4	0.0	0.0	4.8	5.1	7.2		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬化学教室	教授	かとう けいすけ 加藤 恵介	男	48	2013. 4. 1	2013. 4. 1	有機化学Ⅱ	2.4						2.4	0.0	九州大学 大学院 薬学研究科 博士後期課程 博士(薬学)	
								医薬品合成化学Ⅰ	1.2						1.2	0.0		
								化学系実習Ⅰ				3.6			3.6	0.0		
								薬学総合講義Ⅴ	0.3						0.3	0.0		
								有機化学Ⅲ		2.4					0.0	2.4		
								総合化学		1.2					0.0	1.2		
								計	3.9	3.6	0.0	0.0	3.6	0.0	7.5	3.6		5.6
薬学科	衛生化学教室	教授	やまもと ちか 山本 千夏	女	45	2013. 4. 1	2013. 4. 1	生化学Ⅰ	2.4						2.4	0.0	北陸大学 薬学部 博士(薬学)	
								健康Ⅰ	1.2						1.2	0.0		
								衛生薬学実習				2.4			2.4	0.0		
								薬学総合講義Ⅳ	0.3						0.3	0.0		
								環境Ⅱ		2.4					0.0	2.4		
								計	3.9	2.4	0.0	0.0	2.4	0.0	6.3	2.4		4.4
薬学科	微生物学教室	教授	かとう ふみお 加藤 文男	男	63	1974. 4. 1	1996. 4. 1	微生物学	1.2						1.2	0.0	千葉大学 大学院 薬学研究科 修士課程 薬学博士	
								薬学総合講義Ⅳ	0.3						0.3	0.0		
								化学療法学		1.2					0.0	1.2		
								病原微生物学		2.4					0.0	2.4		
								微生物実習					4.8		0.0	4.8		
								計	1.5	3.6	0.0	0.0	0.0	4.8	1.5	8.4		5.0
薬学科	薬物学教室	教授	たなか ひかる 田中 光	男	52	1991. 4. 1	2007. 4. 1	人体生理学Ⅰ	2.4						2.4	0.0	東京大学 大学院 薬学系研究科 博士課程 薬学博士	
								薬理学実習				3.6			3.6	0.0		
								薬学総合講義Ⅲ	0.3						0.3	0.0		
								細胞生物学		0.6					0.0	0.6		
								人体生理学Ⅱ		1.2					0.0	1.2		
								計	2.7	1.8	0.0	0.0	3.6	0.0	6.3	1.8		4.1

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	公衆衛生学教室	教授	いのうえ よしお 井上 義雄	男	63	1995. 4. 1	1995. 4. 1	環境 I	2.4						2.4	0.0	3.8	東京大学 大学院 薬学系研究科 博士課程 薬学博士
								衛生薬学実習				2.4		2.4	0.0			
								薬学総合講義Ⅳ	0.3					0.3	0.0			
								環境学総論Ⅱ	0.0					0.0	0.0			
								健康Ⅱ		1.2				0.0	1.2			
								ウイルス学		1.2				0.0	1.2			
								計	2.7	2.4	0.0	0.0	2.4	0.0	5.1	2.4		
薬学科	薬物動態学教室	教授	みやうち せいじ 宮内 正二	男	51	2011. 4. 1	2011. 4. 1	薬物動態学Ⅰ	2.4						2.4	0.0	4.1	東京大学 大学院 薬学系研究科 博士課程 薬学博士
								薬学総合講義Ⅲ		0.3								
								構造化学Ⅰ		0.6								
								薬理学Ⅰ		0.6				0.0	0.6			
								薬物動態学Ⅱ		1.2				0.0	1.2			
								薬物動態学Ⅲ		0.6								
								薬物動態学実習					2.4					
								計	2.4	3.3	0.0	0.0	0.0	2.4	2.4	5.7		
薬学科	生物物理学教室	教授	ながはま たつふみ 長濱 辰文	男	61	2004. 4. 1	2004. 4. 1	基礎物理	2.4						2.4	0.0	6.2	北海道大学 大学院 薬学研究科 博士課程 薬学博士
								薬学応用物理学Ⅱ	1.2						1.2	0.0		
								薬学総合講義Ⅴ	0.3						0.3	0.0		
								初等物理学演習			2.4				2.4	0.0		
								薬学応用物理学Ⅰ		1.2				0.0	1.2			
								基礎生物実習Ⅰ					2.4	0.0	2.4			
								基礎生物実習Ⅱ					2.4	0.0	2.4			
								計	3.9	1.2	2.4	0.0	0.0	4.8	6.3	6.0		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬物治療学研究室	教授	たかはら あきら 高原 章	男	47	2007. 4. 1	2011. 4. 1	疾患と薬物治療Ⅱ	1.2						1.2	0.0	8.6	東北大学 大学院 薬学研究科 博士前期課程 博士(薬学)
								疾患と薬物治療Ⅵ	0.2						0.2	0.0		
								疾患と薬物治療Ⅶ	0.3						0.3	0.0		
								臨床薬学総論Ⅱ	0.6						0.6	0.0		
								疾患と薬物治療Ⅰ		1.2					0.0	1.2		
								薬物治療演習			1.2				0.0	1.2		
								プレ実務実習Ⅱ					12.4		0.0	12.4		
計	2.3	1.2	0.0	1.2	0.0	12.4	2.3	14.8										
薬学科	臨床薬剤学研究室	教授 (実務家)	おおばやし まさひこ 大林 雅彦	男	60	2004. 4. 1	2004. 4. 1	プレ実務実習Ⅰ				3.1		3.1	0.0	7.8	北海道大学 大学院 薬学研究科 博士課程前期 博士(薬学)	
								臨床薬学総論Ⅰ	0.0					0.0	0.0			
								プレ実務実習Ⅱ					12.4	0.0	12.4			
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	12.4	3.1			12.4
薬学科	臨床薬学研究室	教授 (実務家)	よしお たかし 吉尾 隆	男	57	2008. 4. 1	2008. 4. 1	疾患と薬物治療Ⅴ	0.6					0.6	0.0	7.6	名城大学 大学院 薬学研究科 博士課程 博士(薬学)	
								医療情報Ⅱ	0.4					0.4	0.0			
								処方せん解析Ⅰ	0.7					0.7	0.0			
								プレ実務実習Ⅰ				1.0		1.0	0.0			
								臨床薬学総論Ⅰ	0.0					0.0	0.0			
								ヒューマニズムⅠ			0.0			0.0	0.0			
								プレ実務実習Ⅱ					12.4	0.0	12.4			
計	1.7	0.0	0.0	0.0	1.0	12.4	2.7	12.4										
薬学科	臨床薬学研修センター	教授 (実務家)	やながわ ちゅうじ 柳川 忠二	男	62	2005. 4. 1	2005. 4. 1	早期体験学習				2.4		2.4	0.0	7.7	東邦大学 薬学部 博士(医学)	
								治験	0.6					0.6	0.0			
								ヒューマニズムⅢ			0.0			0.0	0.0			
								プレ実務実習Ⅱ					12.4	0.0	12.4			
								薬局実習				0.0	0.0	0.0	0.0			
								計	0.6	0.0	0.0	0.0	2.4	12.4	3.0			12.4

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	臨床薬学研修センター	教授 (実務家)	いしい としひろ 石井 敏浩	男	51	1991. 4. 1	2011. 4. 1	早期体験学習					2.4		2.4	0.0	7.7	東邦大学 薬学部 博士(薬学)
								臨床薬学総論Ⅱ	0.6						0.6	0.0		
								ヒューマニズムⅡ			0.0				0.0	0.0		
								ヒューマニズムⅣ			0.0				0.0	0.0		
								プレ実務実習Ⅱ					12.4		0.0	12.4		
								病院実習				0.0	0.0		0.0	0.0		
								計	0.6	0.0	0.0	0.0	2.4	12.4	3.0	12.4		
薬学科	薬学教育推進部門	教授	おおい ひろあき 大井 浩明	男	53	2013. 4. 1	2013. 4. 1							0.0	0.0	0.0	東京大学 大学院 薬学系研究科 修士課程 薬学博士	
														0.0	0.0			
														0.0	0.0			
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0
薬学科	英語教室	教授	はたけだ とよふみ 畠田 豊文	男	57	1992. 4. 1	2011. 4. 1	英語Ⅰ	1.2	1.2					1.2	1.2	7.2	筑波大学 大学院 教育学研究科 修士課程 修士(教育学)
								英語Ⅱ	1.2	1.2					1.2	1.2		
								英語Ⅲ	2.4	2.4					2.4	2.4		
								英語Ⅳ	1.2	1.2					1.2	1.2		
								再履修英語	1.2	1.2					1.2	1.2		
								計	7.2	7.2	0.0	0.0	0.0	0.0	7.2	7.2		
薬学科	生薬学教室	准教授	りぎ 李 巍	男	41	2000. 4. 1	2009. 3. 1	天然物化学	2.4						2.4	0.0	3.6	北里大学 大学院 薬学研究科 博士後期課程 博士(薬学)
								化学系実習Ⅱ						4.8	0.0	4.8		
														0.0	0.0			
								計	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	2.4	4.8		
薬学科	病態生化学教室	准教授	あずま ゆうたろう 東 祐太郎	男	51	1995. 4. 1	2008. 11. 1	病態検査学Ⅰ	1.2						1.2	0.0	6.8	浜松医科大学 大学院 医学研究科 博士後期課程 医学博士
								生物系実習Ⅱ					4.8		4.8	0.0		
								薬学総合講義Ⅳ	0.3						0.3	0.0		
								臨床検査総論実習					3.6		3.6	0.0		
								生化学Ⅳ		1.2					0.0	1.2		
								病態検査学Ⅱ		1.2					0.0	1.2		
								免疫Ⅱ		1.2					0.0	1.2		
								計	1.5	3.6	0.0	0.0	8.4	0.0	9.9	3.6		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	病態生化学教室	准教授	ひがい こうじ 椛貝 孝慈	男	41	1997. 4. 1	2011. 9. 1	病態生化学	1.2						1.2	0.0	6.0	東邦大学 大学院 薬学研究科 博士前期課程 博士(薬学)
								生物系実習Ⅱ				4.8		4.8	0.0			
								分子生物学Ⅲ	2.4					2.4	0.0			
								臨床検査総論実習				3.6		3.6	0.0			
								計	3.6	0.0	0.0	0.0	8.4	0.0	12.0	0.0		
薬学科	薬品製造学教室	准教授	すずき ひではる 鈴木 英治	男	55	1986. 4. 1	2010. 1. 1	生物有機化学	1.2					1.2	0.0	3.6	東邦大学 大学院 薬学研究科 博士前期課程 博士(薬学)	
								化学系実習Ⅰ				3.6		3.6	0.0			
								有機構造解析		2.4				0.0	2.4			
								計	1.2	2.4	0.0	0.0	3.6	0.0	4.8			2.4
薬学科	薬品物理分析学教室	准教授	いせき みねお 伊関 峰生	男	52	2011. 4. 1	2011. 4. 1	プレゼンテーション			2.4			0.0	2.4	4.8	東北大学 大学院 理学研究科 博士後期課程 理学博士	
								生体分子解析法Ⅰ		2.4				0.0	2.4			
								物理系実習Ⅱ					4.8	0.0	4.8			
								計	0.0	2.4	0.0	2.4	0.0	4.8	0.0			9.6
薬学科	微生物学教室	准教授	あんざい ようじろう 安齊洋次郎	男	48	1999. 4. 1	2010. 6. 1	分子生物学Ⅱ		2.4				0.0	2.4	3.6	東邦大学 大学院 薬学研究科 博士前期課程 博士(農学)	
								微生物実習				4.8		0.0	4.8			
								計	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0			7.2
薬学科	薬物動態学教室	准教授	しもの かずみ 下野 和実	男	39	2012. 12. 1	2012. 12. 1	初等物理学演習			2.4			2.4	0.0	3.0	北海道大学 大学院 薬学研究科 博士後期課程 博士(薬学)	
								構造化学Ⅰ		0.6				0.0	0.6			
								薬物動態学Ⅲ		0.6				0.0	0.6			
								薬物動態学実習					2.4	0.0	2.4			
								計	0.0	1.2	2.4	0.0	0.0	2.4	2.4			3.6
薬学科	病態解析学研究室	准教授	むとう さとし 武藤 里志	男	60	1978. 10. 1	2007. 4. 1	疾患と薬物治療Ⅲ	0.0					0.0	0.0	6.8	千葉大学 大学院 薬学研究科 修士課程 薬学博士	
								プレ実務実習Ⅱ				12.4		0.0	12.4			
								疾患と薬物治療Ⅳ		1.2				0.0	1.2			
								計	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	12.4	0.0			13.6

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬物区安全性学研究室	准教授	さとう みつとし 佐藤 光利	男	52	1990. 4. 1	2007. 4. 1	医薬品開発Ⅰ	1.2						1.2	0.0	8.0	東京大学 大学院 薬学系研究科 博士課程 薬学博士
								疾患と薬物治療Ⅲ	0.6						0.6	0.0		
								疾患と薬物治療Ⅴ	0.6						0.6	0.0		
								医薬品安全性学		1.2					0.0	1.2		
								プレ実務実習Ⅱ						12.4	0.0	12.4		
								海外実務実習							0.0	0.0		
								計	2.4	1.2	0.0	0.0	0.0	12.4	2.4	13.6		
薬学科	薬事法学研究室	准教授	あきもと よしお 秋本 義雄	男	62	1979. 4. 1	2007. 4. 1	薬事関係法規Ⅰ	2.4						2.4	0.0	9.2	東邦大学 薬学部 博士(薬学)
								薬剤経済	1.2						1.2	0.0		
								放射薬品学	1.2						1.2	0.0		
								薬事関係法規Ⅱ		1.2					0.0	1.2		
								プレ実務実習Ⅱ						12.4	0.0	12.4		
								計	4.8	1.2	0.0	0.0	0.0	12.4	4.8	13.6		
薬学科	臨床薬学研究室	准教授 (実務家)	わたなべ ともこ 渡辺 朋子	女	60	2008. 4. 1	2008. 4. 1	実用薬学英语	1.2						1.2	0.0	8.3	東邦大学 薬学部 薬学士
								地域医療Ⅰ	0.6						0.6	0.0		
								薬局管理学	1.2						1.2	0.0		
								プレ実務実習Ⅱ						12.4	0.0	12.4		
								高齢者医療		1.2					0.0	1.2		
								計	3.0	1.2	0.0	0.0	0.0	12.4	3.0	13.6		
薬学科	臨床薬学研究室	准教授 (実務家)	しのはら えつこ 篠原 悦子	女	62	1974. 4. 1	2008. 10. 1	疾患と薬物治療Ⅲ	0.2						0.2	0.0	7.1	東邦大学 薬学部 薬学士
								疾患と薬物治療Ⅶ	0.3						0.3	0.0		
								医療情報Ⅰ	0.6						0.6	0.0		
								処方せん解析Ⅱ	0.7						0.7	0.0		
								プレ実務実習Ⅱ						12.4				
								計	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	12.4	1.8	12.4		
薬学科	薬学教育推進部門	准教授	かねき ひろゆき 金木 弘之	男	57	1982. 6. 1	2013. 4. 1	分子生物学Ⅰ	2.4						2.4	0.0	3.0	東邦大学 薬学部 博士(薬学)
								免疫Ⅰ	2.4						2.4	0.0		
								健康Ⅲ		1.2					0.0	1.2		
								計	4.8	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	1.2		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬学総合教育部門	准教授	まきた みどり 牧田みどり	女	63	1972. 4. 1	2007. 4. 1	薬学総合演習Ⅰ			0.6				0.6	0.0	2.1	東邦大学 薬学部 薬学博士
								薬学総合講義Ⅱ	1.2						1.2	0.0		
								薬学演習Ⅱ							1.2	1.2		
								薬学総合演習Ⅱ							1.2	1.2		
								計	1.2	0.0	0.6	2.4	0.0	0.0	1.8	2.4		
薬学科	薬学総合教育部門	准教授	おくだいら かずほ 奥平 和穂	男	54	2000. 4. 1	2012. 9. 1	薬学演習Ⅰ			1.2				1.2	0.0	3.0	東京大学 大学院 薬学系研究科 博士課程 薬学博士
								薬学総合演習Ⅰ				0.6			0.6	0.0		
								薬学総合講義Ⅰ	1.2						1.2	0.0		
								薬学演習Ⅱ						1.2	1.2			
								薬学総合演習Ⅱ						1.2	1.2			
								総合薬剤学			0.6				0.6	0.6		
								計	1.2	0.6	1.8	2.4	0.0	0.0	3.0	3.0		
薬学科	数学教室	准教授	かねこ まさたか 金子 正隆	男	44	2013. 4. 1	2013. 4. 1	基礎数学Ⅰ	2.4					2.4	0.0	3.3	東京大学 大学院 数理科学研究科 博士課程 博士(数理学)	
								初等数学演習				0.6		0.6	0.0			
								基礎数学Ⅱ			2.4			2.4	2.4			
								医療統計			1.2			1.2	1.2			
								計	2.4	3.6	0.6	0.0	0.0	0.0	3.0			3.6
薬学科	生薬学教室	講師	さとう ただあき 佐藤 忠章	男	42	1996. 4. 1	2006. 2. 1	植物療法学	1.2					1.2	0.0	4.2	東京薬科大学 大学院 薬学研究科 博士前期課程 博士(薬学)	
								基礎生物実習Ⅰ					2.4	2.4				
								化学系実習Ⅱ					4.8	4.8				
								計	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	7.2	7.2			
薬学科	薬理学教室	講師	ちの だいすけ 茅野 大介	男	40	2011. 1. 1	2011. 1. 1	薬理学実習				3.6		3.6	0.0	2.7	静岡県立大学 大学院 薬学研究科 博士後期課程 博士(薬学)	
								薬理学Ⅴ	1.2					1.2	0.0			
								薬理学Ⅵ			0.6			0.6	0.6			
								計	1.2	0.6	0.0	0.0	3.6	0.0	4.8			0.6

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬品分析学教室	講師	いちば ひであき 一場 秀章	男	57	1978. 4. 1	2010. 1. 1	物理系実習Ⅰ					7.2		7.2	0.0	5.4	東邦大学 薬学部 博士(薬学)
								初等化学演習			0.6			0.6	0.0			
								分析化学Ⅰ		2.4				0.0	2.4			
								薬学応用物理学Ⅲ		0.6				0.0	0.6			
								計	0.0	3.0	0.6	0.0	7.2	0.0	7.8	3.0		
薬学科	生化学教室	講師	ふなこし ともこ 船越 智子	女	45	2013. 4. 1	2013. 4. 1	生物系実習Ⅰ					4.8	0.0	4.8	2.4	東京大学 大学院 総合文化研究 科 博士課程 博士(学術)	
													0.0	0.0				
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0			4.8
薬学科	薬品製造学教室	講師	ひかわ ひでまさ 氷川 英正	男	40	2009. 4. 1	2009. 4. 1	化学系実習Ⅰ				3.6		3.6	0.0	3.6	東邦大学 大学院 薬学研究科 博士後期課程 博士(薬学)	
								構造活性相関		2.4				0.0	2.4			
								医薬品化学		1.2				0.0	1.2			
								計	0.0	3.6	0.0	0.0	3.6	0.0	3.6			3.6
薬学科	薬化学教室	講師	くさかべ たいち 日下部太一	男	31	2010. 7. 1	2013. 4. 1	化学系実習Ⅰ				3.6		3.6	0.0	1.8	東邦大学 大学院 薬学研究科 博士後期課程 博士(薬学)	
													0.0	0.0				
								計						3.6	0.0			
薬学科	薬物学教室	講師	なめかた いゆき 行方衣由紀	女	32	2008. 4. 1	2008. 4. 1	薬理学Ⅳ	1.2					1.2	0.0	3.0	東邦大学 大学院 薬学研究科 博士後期課程 博士(薬学)	
								薬理学実習				3.6		3.6	0.0			
								細胞生物学		0.6				0.0	0.6			
								薬理学Ⅵ		0.6				0.0	0.6			
								計	1.2	1.2	0.0	0.0	3.6	0.0	4.8			1.2
薬学科	公衆衛生学教室	講師	なかはま たかゆき 中濱 隆之	男	61	1979. 4. 1	2001. 11. 1	環境Ⅲ	1.2					1.2	0.0	3.0	昭和大学 大学院 薬学研究科 博士前期課程 博士(薬学)	
								衛生薬学実習				2.4		2.4	0.0			
								環境Ⅳ		1.2				0.0	1.2			
								放射薬品学実習				1.2		1.2	0.0			
								計	1.2	1.2	0.0	0.0	3.6	0.0	4.8			1.2

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号					
								科目名	毎週授業時間数													
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計							
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期				
薬学科	公衆衛生学教室	講師	かんの ゆういちろう 菅野裕一朗	男	33	2007. 4. 1	2007. 4. 1	衛生薬学実習					2.4		2.4	0.0	1.2	東邦大学 大学院 薬学研究科 博士後期課程 博士(薬学)				
														0.0	0.0					0.0	0.0	
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	2.4	0.0						
薬学科	生物物理学教室	講師	なるすえ けんじ 成末 憲治	男	39	2007. 4. 1	2007. 4. 1	基礎生物	2.4						2.4	0.0	3.6	神戸大学 大学院 自然科学研究 科博士後期課 程 博士(理学)				
								基礎生物実習Ⅰ					2.4	0.0	2.4							
								基礎生物実習Ⅱ					2.4	0.0	2.4							
								計	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	2.4	4.8						
薬学科	臨床病態学研究室	講師 (実務家)	たかはし みずほ 高橋 瑞穂	女	41	2006. 7. 1	2006. 7. 1	疾患と薬物治療Ⅶ	0.4						0.4	0.0	7.6	東邦大学 大学院 薬学研究科 博士前期課程 修士(薬学)				
								实用薬学英语	1.2						1.2	0.0						
								薬学総合講義Ⅵ		1.2					0.0	1.2						
								プレ実務実習Ⅱ					12.4	0.0	12.4							
														0.0	0.0							
								計	1.6	1.2	0.0	0.0	0.0	12.4	1.6	13.6						
薬学科	臨床薬学研究室	講師 (実務家)	ささき ひでひさ 佐々木英久	男	44	1992. 5. 1	2008. 4. 1	疾患と薬物治療Ⅵ	0.8						0.8	0.0	7.2	東邦大学 薬学部 博士(薬学)				
								医療情報Ⅰ	0.6						0.6	0.0						
								処方せん解析Ⅰ	0.5						0.5	0.0						
								プレ実務実習Ⅱ					12.4	0.0	12.4							
														0.0	0.0							
								計	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	12.4	1.9	12.4						
薬学科	臨床薬学研究室	講師 (実務家)	まつお かずひろ 松尾 和廣	男	44	1996. 4. 1	2008. 4. 1	疾患と薬物治療Ⅲ	0.4						0.4	0.0	7.4	東邦大学 大学院 薬学研究科 博士前期課程 修士(薬学)				
								疾患と薬物治療Ⅶ	0.3						0.3	0.0						
								医療情報Ⅱ	0.8						0.8	0.0						
								処方せん解析Ⅱ	0.5						0.5	0.0						
								プレ実務実習Ⅰ					0.3	0.3	0.0							
								ヒューマニズムⅡ				0.0		0.0	0.0							
								プレ実務実習Ⅱ						12.4	0.0	12.4						
								計	2.0	0.0	0.0	0.0	0.3	12.4	2.3	12.4						

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	臨床薬学研修センター	講師 (実務家)	きのしたまさこ 木下 雅子	女	43	1995. 4. 1	2005. 5. 1	早期体験学習					2.4		2.4	0.0	7.7	東邦大学 大学院 薬学研究科 博士前期課程 博士(薬学)
								初等化学演習			0.6			0.6	0.0			
								プレ実務実習Ⅱ					12.4	0.0	12.4			
								計	0.0	0.0	0.6	0.0	2.4	12.4	3.0	12.4		
薬学科	薬学総合教育部門	講師	せきひろみ 関 広美	女	43	2006. 4. 1	2006. 4. 1							0.0	0.0	0.0	東京理科大学 大学院 薬学研究科 博士前期課程 博士(薬学)	
														0.0	0.0			
														0.0	0.0			
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0
薬学科	薬学総合教育部門	講師	ふじい みきお 藤井 幹雄	男	39	2006. 11. 1	2006. 11. 1	薬化学Ⅰ	2.4						2.4	0.0	4.2	京都大学 大学院 理学研究科 博士前期課程 博士(理学)
								化学系実習Ⅰ				3.6		3.6	0.0			
								有機化学Ⅰ		2.4				0.0	2.4			
								計	2.4	2.4	0.0	0.0	3.6	0.0	6.0	2.4		
薬学科	薬学総合実験部門	講師	ごろうまる みちこ 五郎丸美智子	女	48	2008. 1. 1	2008. 1. 1	衛生薬学実習					2.4		2.4	0.0	10.2	東邦大学 薬学部 博士(薬学)
								生物系実習Ⅱ				4.8		4.8	0.0			
								基礎生物実習Ⅰ					2.4	0.0	2.4			
								生物系実習Ⅰ					4.8	0.0	4.8			
								微生物実習					4.8	0.0	4.8			
								放射薬品学実習					1.2	0.0	1.2			
													0.0	0.0				
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	7.2	13.2	7.2	13.2		
薬学科	英語教室	講師	おおさわ まい 大澤 舞	女	31	2011. 4. 1	2011. 4. 1	英語Ⅰ	1.2	1.2				1.2	1.2	7.2	筑波大学 大学院 人文社会科学 研究科 博士課程 博士(言語学)	
								英語Ⅱ	2.4	2.4				2.4	2.4			
								英語Ⅲ	2.4	2.4				2.4	2.4			
								英語Ⅳ	1.2	1.2				1.2	1.2			
													0.0	0.0				
								計	7.2	7.2	0.0	0.0	0.0	0.0	7.2			7.2

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	スポーツ健康科学教室	講師	なかざわ かつえ 中沢 克江	女	58	1977. 4. 1	1996. 4. 1	体育実技 I					4.8		4.8	0.0	7.2	日本女子体育大学 体育学部 体育学士
								スポーツ科学		2.4					0.0	2.4		
								体育実技 II					2.4		0.0	2.4		
								基礎生物実習 I					2.4		0.0	2.4		
								基礎生物実習 II					2.4		0.0	2.4		
								計	0.0	2.4	0.0	0.0	4.8	7.2	4.8	9.6		
薬学科	中央機器室	講師	みつなが かつよし 満長 克祥	男	47	1990. 4. 1	2007. 7. 1							0.0	0.0	0.0	東邦大学 大学院 薬学研究科 博士前期課程 博士(薬学)	
														0.0	0.0			
														0.0	0.0			
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0
薬学科	薬剤学教室	助教	よしはし やすお 吉橋 泰生	男	57	1984. 4. 1	2007. 4. 1	製剤学実習					2.4	0.0	2.4	1.2	東邦大学 大学院 薬学研究科 博士前期課程 博士(薬学)	
														0.0	0.0			
														0.0	0.0			
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0			2.4
薬学科	薬理学教室	助教	おばら けいすけ 小原 圭将	男	25	2012. 4. 1	2012. 4. 1	薬理学実習				3.6		3.6	0.0	1.8	東邦大学 薬学部 学士(薬学)	
														0.0	0.0			
														0.0	0.0			
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	3.6			0.0
薬学科	薬品分析学教室	助教	いづか ひであき 飯塚 英昭	男	63	1974. 4. 1	2007. 4. 1	物理系実習 I				7.2		7.2	0.0	3.9	東邦大学 薬学部 薬学士	
								初等化学演習					0.6		0.6			0.0
														0.0	0.0			
								計	0.0	0.0	0.6	0.0	7.2	0.0	7.8			0.0
薬学科	生化学教室	助教	おおでら けいこ 大寺 恵子	女	33	2007. 4. 1	2007. 4. 1	生物系実習 I				4.8		4.8	0.0	2.4	東邦大学 大学院 薬学研究科 博士後期課程 博士(薬学)	
														0.0	0.0			
														0.0	0.0			
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0			4.8

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬品物理分析学教室	助教	くろだ じゅん 黒田 潤	男	51	1996. 7. 1	2007. 4. 1	物理系実習Ⅰ					7.2		7.2	0.0	5.4	東邦大学 大学院 薬学研究科 博士前期課程 博士(薬学)
								初等化学演習			0.6			0.6	0.0			
								薬物動態学実習					2.4		0.0	2.4		
								製剤学実習					2.4		0.0	2.4		
								物理系実習Ⅱ					4.8		0.0	4.8		
								放射薬品学実習					1.2		0.0	1.2		
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.8	0.0	10.8		
薬学科	衛生化学教室	助教	きりう みちあき 桐生 道明	男	45	1992. 4. 1	2007. 4. 1	衛生薬学実習					2.4		2.4	0.0	1.2	東邦大学 大学院 薬学研究科 博士前期課程 修士(薬学)
														0.0	0.0			
														0.0	0.0			
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	2.4	0.0		
薬学科	衛生化学教室	助教	みずおち しげき 水落 茂樹	男	47	1995. 4. 1	2007. 4. 1	コンピュータ入門			2.4				2.4	0.0	2.4	東京大学 大学院 薬学系研究科 博士課程 博士(薬学)
								衛生薬学実習					2.4		2.4	0.0		
														0.0	0.0			
								計	0.0	0.0	2.4	0.0	2.4	0.0	4.8	0.0		
薬学科	微生物学教室	助教	ふくもと あつし 福本 敦	男	34	2012. 4. 1	2012. 4. 1	コンピュータ入門			2.4				2.4	0.0	3.6	北里大学 大学院 感染制御科学府 博士後期課程 博士(生命科学)
								微生物実習					4.8		0.0	4.8		
														0.0	0.0			
								計	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	4.8	2.4	4.8		
薬学科	薬物動態学教室	助教	しみず まき 清水 真紀	女	40	1996. 3. 21	2007. 4. 1	薬物動態学実習					0.0		0.0	0.0	0.0	東邦大学 薬学部 学士(薬学)
														0.0	0.0			
														0.0	0.0			
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬学総合実験部門	助教	にしぐち よしかず 西口 慶一	男	49	2009. 4. 1	2009. 4. 1	化学系実習Ⅰ					3.6		3.6	0.0	8.1	東邦大学 大学院 理学研究科 博士前期課程 博士（理学）
								衛生薬学実習					2.4		2.4	0.0		
								初等化学演習			0.6				0.6	0.0		
								基礎生物実習Ⅰ					2.4		0.0	2.4		
								基礎生物実習Ⅱ					2.4		0.0	2.4		
								化学系実習Ⅱ					4.8		0.0	4.8		
															0.0	0.0		
計	0.0	0.0	0.6	0.0	6.0	9.6	6.6	9.6										

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。(例：実習科目「□□□□」は担当教員2名で前後期各6.0時間の場合、6.0時間を2で除す。) また、担当時間数が明らかな場合はそれを考慮して時間数を算出してください。(例：前期の講義科目「○○○○」で○○教員が担当時間3.0時間、◇◇教員が担当時間1.5時間と明らかな場合)
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。
- 7 卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況

5 年生の在籍学生数 240 名

6 年生の在籍学生数 240 名

	配属講座名	指導教員数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	配属学生1名当 たりの研究室の 広さ (㎡)
1	薬 剤 学 教 室	3	16	13	29	9.63
2	生 薬 学 教 室	3	16	13	29	10.16
3	薬 理 学 教 室	3	16	8	24	13.77
4	病 態 生 化 学 教 室	2	11	8	19	11.48
5	薬 品 分 析 学 教 室	3	18	10	28	10.55
6	生 化 学 教 室	3	9	7	16	17.23
7	薬 品 製 造 学 教 室	3	13	14	27	10.21
8	薬 品 物 理 分 析 学 教 室	3	2	15	17	12.65
9	薬 化 学 教 室	2	7	2	9	24.79
10	衛 生 化 学 教 室	3	14	14	28	9.23
11	微 生 物 学 教 室	3	16	14	30	9.98
12	薬 物 学 教 室	2	10	8	18	12.83
13	公 衆 衛 生 学 教 室	3	18	13	31	7.81
14	薬 物 動 態 学 教 室	3	16	13	29	9.52
15	数 学 教 室	1	0	0	0	-
16	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 教 室	1	2	1	3	34.20
17	生 物 物 理 学 教 室	2	10	8	18	14.49
18	薬 物 治 療 学 研 究 室	1	6	4	83	8.71
19	臨 床 薬 剤 学 研 究 室	1	8	6		
20	病 態 解 析 学 研 究 室	1	0	3		
21	薬 物 安 全 性 学 研 究 室	1	4	3		
22	臨 床 病 態 学 研 究 室	1	8	6		
23	薬 事 法 学 研 究 室	1	4	3		
24	臨 床 薬 学 研 究 室	5	13	10		
25	臨 床 薬 学 研 修 セ ン タ ー	2	3	2		
26	薬 学 総 合 教 育 部 門	4	0	42	42	10.11
合 計		60	240	240	480	237.34

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
 3 講座制をとってない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人当 たり面積(m ²) (A/B)	備考
習志野キャンパス	講義室	17	3,007.44	専用	2,955	1,439	2.09	
	基礎系実習室	5	2,445.09	専用	1,152	754	3.24	
	医療系実習室	9	1,071.16	専用	245	212	5.05	
	ゼミ室	6	298.41	専用	111	212	1.41	
	模擬薬局	1	41.91	専用	40	212	0.20	

- [注] 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
- 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
- 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名(学生数)を記載し、「利用学生総数(B)」欄にもその数を含めて記入してください。
- 4 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
- 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B）	収容定員に対する 座席数の割合（%） $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備 考
習志野メディアセンター	325	3,469	9.37				薬学部：1,360 薬学研究科：40 理学部：1880 理学研究科： 229
計	325	3,469	9.37				

- [注] 1 「学生収容定員（B）」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
- 2 「備考」欄には学生収容定員（B）の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
- 3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理末端をいくつ設置しているか等を記載してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (数)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書			平成23年度	平成24年度	平成25年度	
習志野メディアセンター	218,521 (視聴覚資料 所蔵数含む)	218,521	159	130	3,026	18,436	5,758	5,163	4,845	
計										

- [注] 1 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。
- 2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。
- 3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。
- 4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。
- 5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬剤学教室	教授	寺田 勝英
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		毎年実施	講義科目の授業アンケートの実施
2 作成した教科書、教材、参考書			製剤学関係の教科書および専門書につき多数執筆(改訂版も含め2007年より19冊)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		毎年実施	学会を通じて国内製薬企業の若手研究者への講演、国際厚生事業団を通じてアジア圏発展途上国の製剤研究者への製剤開発、製品品質に関する講演の実施
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表 の 年月(西暦でも 可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名 称
パートナー薬剤学	編集・共著	2007年4月	南江堂
物理薬剤学・製剤学 製剤化のサイエンス	編集・共著	2008年1月	朝倉書店
基礎から学ぶ製剤化のサイエンス	編集・共著	2008年12月	エルゼビアジャパン
熱量測定・熱分析ハンドブック	共著	2010年1月	丸善
薬学用語辞典 日本薬学会編	共著	2012年4月	東京化学同人
III 学会等および社会における主な活動			
2007年4月～現在	日本 PDA 製薬学会 会長		
2007年4月～現在	製剤機械技術学会 会長(～2008年4月まで)、理事(2008年4月～)		
2007年4月～現在	日本薬剤学会 評議員(2010年6月まで)、理事(2010年6月～)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	生薬学教室	教授	小池 一男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			生薬学(2年生春学期必修)の授業では、五感での体験を重視している。実物の生薬に触れ、煎じた液から日本薬局方記載の色・味・臭いの性状を修得する。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成 24 年秋季学期～ 平成 23 年春季学期～	症例実解漢方薬学(生薬学・漢方薬物学教科書) 漢方の世界へようこそ(生薬学・漢方薬物学教材)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 症例実解 漢方薬学	共著	2012 年 10 月	京都廣川書店
Evaluation of licorice flavonoids as protein tyrosine phosphatase 1B inhibitors	共著	2013 年 11 月	Bioorganic Medicinal Chemistry Letters
Chemical components, bioactivities, and utilization of health foods from Lycium species	共著	2013 年 11 月	Bioorganic Medicinal Chemistry Letters
Antioxidant lignoids from leaves of Ribes nigrum.	共著	2013 年 11 月	Phytochemistry
Limonoids from the fruits of Melia azedarach and their cytotoxic activities.	共著	2013 年 5 月	Phytochemistry
III 学会等および社会における主な活動			
2006～現在	日本生薬学会評議員		
2011～現在	日本薬学会代議員		
2012～現在	日本生薬学会関東支部役員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬理学教室	教授	田中 芳夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ■薬理学講義での演習の実践 ■薬学演習講義における確認試験の導入 ■薬理学講義の低学年次への移行		2008年4月 2009年4月 2010年4月	・薬理学講義において演習時間を設け、知識の定着、理解の向上を目指した。これにより本学の薬理学の成績は飛躍的に向上した。4年次・6年次の演習・総合演習でもこのシステムを導入し、学生・教員の負担を軽減させる一方で、学生の学力向上を実現した。薬理学講義を低学年次に移行することにより、学生の勉学のモチベーションを向上させた。
2 作成した教科書、教材、参考書 ■薬理学Ⅲ基礎問題集(2012年度版) ■薬理学Ⅰ基礎問題集(2012年度版) ■薬理学基礎問題集(2012年度版) ■パートナー薬理学(改定第2版)(南江堂) ■薬理学Ⅱ基礎問題集(2013年度版) ■薬理学Ⅴ基礎問題集(2013年度版) ■薬理学基礎問題集(2013年度版) ■薬理学Ⅰ基礎問題集(2013年度版) ■薬理学Ⅲ基礎問題集(2013年度版) ■病態・薬物治療国試問題集(自主学習用問題集)		2012年7月 2012年9月 2012年9月 2013年3月15日 2013年4月 2013年4月 2013年4月 2013年9月 2013年9月 2013年9月	・2年次生自主学習用(学内のみ) ・1年次生自主学習用(学内のみ) ・4年次生自主学習用(学内のみ) ・分担執筆(第15章) ・2年次生自主学習用(学内のみ) ・3年次生自主学習用(学内のみ) ・4年次生自主学習用(学内のみ) ・1年次生自主学習用(学内のみ) ・2年次生自主学習用(学内のみ) ・6年次生自主学習用(学内のみ)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ■第19回東邦大学薬学部教育ワークショップ		2012年8月20日	・低学年教育の現状・課題およびこれまでの対応 (3) ー薬理学講義を低学年に移行した経緯とその効果ー
4 その他教育活動上特記すべき事項 ■CBT・国家試験対策副委員長 ■CBT・国家試験対策委員長 ■第1回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ ■平成25年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップ		2009年4月 2011年4月 2011年12月26日~28日 2013年8月29日	・学内 ・学内 ・多摩永山情報教育センター ・慶應義塾大学薬学部芝共立キャンパス
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)薬学生・薬剤師のための知っておきたい医薬品選600	共著	2009年3月27日	じほう
(論文)Enhanced vascular contractility in $\alpha 1$ -adrenergic receptor-deficient mice.	共著	2009年5月	Life Sciences 84(5-6)
(論文)Thromboxane A_2 receptor and MaxiK-channel intimate interaction supports channel trans-inhibition independent of G-protein activation.	共著	2010年11月	Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America 107(44)
(論文) β 受容体の臓器分布と生理活性	単著	2011年10月	ICUとCCU 35(10)
(論文)Selective and potent inhibitory effect of docosahexaenoic acid (DHA) on U46619-induced contraction in rat aorta	共著	2013年12月	Journal of Smooth Muscle Research vol. 49

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2009/06/10～2009/10/31	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員
2009/07/15～	社団法人日本薬学会 「薬学生・薬剤師のための知っておきたい医薬品選600」編集委員
2010/06/10～2010/10/31	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員
2011/08/02～2011/08/04	第53回日本平滑筋学会総会 学術集会会長代理
2012/06/09～2013/03/31	公益社団法人日本薬学会 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム委員
2012/06/27～	日本薬理学会 JPS 編集委員会 Advisory Board
2012/09/05～2014/09/04	日本薬理学会評議員
2013/06/28～2014/03/31	公益社団法人日本薬学会 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム委員
2013/08/～2017/08/	日本平滑筋学会評議員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬品分析学教室	教授	福島 健
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			授業評価アンケートを年1回(2科目)実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年8月31日 平成24年2月16日	コアカリ分析化学第3版(丸善)を分担執筆した。 スタンダード薬学シリーズ第3版(東京化学同人)を分担執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成25年3月26日	第9回 千葉県分析化学交流会にて、学生実習(物理系実習I)の内容と様子を紹介した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Development of a fluorescent chelating ligand for gallium ion having a quinazoline structure with two Schiff base moieties.	共著	2009年	Elsevier, Analytica Chimica Acta 635: 207-213.
Changes in extracellular kynurenic acid concentrations in rat prefrontal cortex after D-kynurenine infusion: An in vivo microdialysis study.	共著	2010年	Springer, Neurochemical Research 35: 559-563.
Comparative study on kynurenic acid production in the rat striatum by tryptophan enantiomers: an in vivo microdialysis study.	共著	2011年	Springer, Chirality 23: E12-E15.
Alterations in extracellular tryptophan and dopamine concentrations in rat striatum following peripheral administration of D- and L-tryptophan: An in vivo microdialysis study.	共著	2012年	Elsevier, Neuroscience letters 526: 74-78.
Decreased L-tryptophan concentration in distinctive brain regions of mice treated repeatedly with phencyclidine.	共著	2013年	Springer, Analytical and Bioanalytical Chemistry 405: 8137-8141.
III 学会等および社会における主な活動			
平成23年4月～現在	トリプトファン研究会幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	生化学教室	教授	高橋 良哉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		平成 20 年以降 平成 21 年 4 月 平成 21 年 9 月	授業評価アンケートを毎年実施。 生命科学 I・II (4 年) に「問題提起型教育 (PPE)」を導入。 生物系実習 II (2 年) に「少人数対話型学習 (SGD)、問題解決型学習 (PBL)」を導入。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		平成 22 年 11 月 23 日 平成 23 年 8 月 17 - 19 日	日本薬学会第十四回薬学教育改革大学人会議アドバンスワークショップ「新薬学教育における学士力、博士力を考える」 平成 23 年度昭和大学薬学部アドバンスワークショップ「薬剤師の職域を広げる新しい薬学教育を全国規模で展開する基盤作り」(主催: 昭和大学、参加大学: 東邦大学、福岡大学)
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Hydrogen-rich pure water prevents superoxide formation in brain slices of vitamin C-depleted SMP30/GNL knockout mice.	共著	2008 年	Biochemical and Biophysical Research Communications, vol. 375, No. 3
(論文) Age-related difference of site-specific histone modifications in rat liver.	共著	2009 年	Biogerontology vol. 10, No. 4
(論文) 老化促進モデルマウス SAM を用いた抗老化研究	単著	2010 年 1 月	薬学雑誌 (第 130 巻 第 1 号)
(論文) Determination of dehydroascorbic acid in mouse tissues and plasma by using tris(2-carboxyethyl) phosphine hydrochloride as reductant in metaphosphoric acid/ethylenediaminetetraacetic acid solution.	共著	2010 年	Biological & Pharmaceutical Bulletin, vol. 33, No. 3
(著書) The Senescence-Accelerated Mouse (SAM), Achievements and Future Directions	共著	2013 年	Elsevier

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2003年4月～2012年3月	日本基礎老化学会 評議員
2003年4月～現在	老化促進モデルマウス SAM 研究協議会 評議員
2008年9月～2013年8月	日本生化学会関東支部 幹事
2009年4月～2012年3月	日本基礎老化学会 理事
2010年7月～現在	日本微量元素学会 評議員
2011年1月～2013年12月	Editorial Board of the Indian Journal of Biochemistry & Biophysics
2013年2月～現在	日本薬学会 代議員
2013年2月～現在	日本薬学会関東支部 幹事

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
東邦大学	薬品製造学教室	教授	東屋 功	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)	25年7月～8月	本試験終了後から再試験までの夏休み期間に約20コマ分の質問受付時間を設定し、学生からの質問を教室に集まった学生に解説するという形式の補講を行った。	
2	作成した教科書、教材、参考書	(該当なし)		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	(該当なし)		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	25年11月8日	近畿大学薬学部で実際に行われているTBL形式の講義を見学した。	
II 研究活動				
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Organic Crystals Bearing Both Channels and Cavities Formed from Tripodal Adamantane Molecules		共著	2013年8月	Elsevier; J. Mol. Struct., 2013, 23, 52-56.
Helicity Induction in Three pi-Conjugated Chromophores by Planar Chirality of Calixamide		共著	2013年9月	Wiley; Chem. Eur. J. 2013, 19, 11853-11857
Au(III)/TPPMS-Catalyzed Benzoylation of Indoles with Benzylic Alcohols in Water		共著	2013年11月	ACS Publications; J. Org. Chem. 2013, 78, 12128-12135.
Synthesis, Structure, and Thermal Stability of Silver(I) Coordination Polymers with Bis(pyridyl) Ligands Linked by an Aromatic Sulfonamide: One-Dimensional-Straight Chain, One-Dimensional-Columnar with Helical Components, and Two-Dimensional-Layer Network Structures		共著	2014年1月	ACS Publications; Cryst. Growth Des. 2014, 14, 199-206.
Benzoyl methyl phosphates as efficient reagents in the one-pot tandem approach for the synthesis of 2-phenylbenzimidazoles in water		共著	2014年2月	RSC Publishing; RSC Adv. 2014, 3, 12445-12446.
III 学会等および社会における主な活動				
2011年2月～		日本化学会有機結晶部会 準役員(広報委員)		
2004年12月～		シンポジウム モレキュラー・キラリティー 実行委員会 委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬品物理分析学教室	教授	高橋 哲郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		平成 23 年 10 月	平成 23 年度の「生体分子解析法Ⅱ」の選択科目化に伴い、量子化学のより根源的な理解のために、波の重ね合わせとフーリエ解析および波束の初歩的解説を取り入れた。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成 22 年 9 月	平成 17 年に刊行した物理化学教科書「わかりやすい物理化学」(共著・中村和郎編集)第 2 版発行に際して、執筆した 2 つの章の内容を若干改訂し、よりわかり易くした。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		平成 20 年 7 月 20 日 ~21 日 平成 20 年 8 月 23 日 ~24 日 平成 20 年 9 月 14 日 ~15 日 平成 20 年 12 月 21 日 23 日 平成 21 年 5 月 5 日 ~6 日 平成 21 年 8 月 22 日 ~23 日 平成 21 年 12 月 5 日 ~6 日 平成 22 年 5 月 1 日 ~2 日 平成 23 年 4 月 30 日 ~5 月 1 日 平成 23 年 8 月 23 日 ~24 日 平成 23 年 10 月 9 日 ~10 日 平成 24 年 8 月 18 日 ~19 日	第 3 回茨城県認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにタスクフォースとして参加 第 6 回関東・千葉ブロック認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにタスクフォースとして参加 第 5 回埼玉県認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにタスクフォースとして参加 第 7 回関東・千葉ブロック認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにタスクフォースとして参加 第 8 回関東・千葉ブロック認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにタスクフォースとして参加 第 9 回関東・千葉ブロック認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにタスクフォースとして参加 第 10 回関東・千葉ブロック認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにタスクフォースとして参加 平成 22 年度第 1 回関東地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにタスクフォースとして参加 第 2 回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにタスクフォースとして参加 平成 23 年度第 7 回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成 ws にタスクフォースとして参加 平成 23 年度第 12 回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成 WS (神奈川) にタスクフォースとして参加 第 10 回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにタスクフォースとして参加

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Identification of photoactivated adenylyl cyclases in <i>Naegleria australiensis</i> and BLUF-containing protein in <i>Naegleria fowleri</i>	共著	2013年11月	The Journal of General and Applied Microbiology vol. 59, No. 5
（論文） Involvement of glutamate 97 in ion influx through photo-activated channelrhodopsin-2	共著	2013年1月	Neuroscience Research vol. 75, No. 1
（論文） 光電変換タンパク質チャネルロドプシンの動作メカニズム	共著	2012年10月	生物物理（第52巻 第5号）
（論文） Differentiation of photocycle characteristics of flavin-binding BLUF domains of α - and β -subunits of photoactivated adenylyl cyclase of <i>Euglena gracilis</i>	共著	2010年10月	Photochemical and Photobiological Sciences vol. 9, No. 10
（論文） Molecular determinants differentiating photocurrent properties of two channelrhodopsins from <i>Chlamydomonas</i>	共著	2009年2月	Journal of Biological Chemistry vol. 284, No. 9
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬化学教室	教授	加藤 恵介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)	平成 22 年 4 月 1 日	事前に学生に配布したパワーポイントファイルを用いていることで、黒板を書き写す手間を最小限に抑え、内容の理解に集中できるよう工夫している。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成 22 年 4 月 1 日	教科書の内容から重要箇所のみ抽出したパワーポイントファイルを作成した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		毎年欠かさず、東邦大学教育ワークショップに参加している
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Total Synthesis of (+)-Gregatin B and E		共著	2013 年 9 月
(論文) Carbonylation of Propargyl Carbamates with Palladium(II)-Bisoxazoline Catalysts: Efficient Synthesis of 5-Methoxy-3(2H)-furanones		共著	2013 年 7 月
(論文) Cyclization-Carbonylation- Cyclization Coupling Reactions of Propargyl Acetates and Amides with Palladium(II)-Bisoxazoline Catalysts		共著	2011 年 4 月
(論文) Intermolecular Methoxy-carbonylation of Terminal Alkynes Catalyzed by Palladium(II) Bis(oxazoline) Complexes		共著	2009 年 4 月
(論文) <i>meso</i> -Phbox-Pd(II) Catalyzed Tandem Carbonylative Cyclization of 1-Ethynyl-1-propargyl Acetate		共著	2008 年 6 月
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
			米国化学会、Organic Letters (vol. 15, No19, P5102-5105)
			Wiley-VCH、Angew. Chem. Int. Ed. (vol. 52, No30, P7845-7849.
			Wiley-VCH、Angew. Chem. Int. Ed. (vol. 50, No17, P3912-3915.
			Wiley-VCH、Angew. Chem. Int. Ed. (vol. 48, No18, P3326-3328.
			王立化学会(英国)、Chem. Comm. (vol. 44, No31, P3687-3689.

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
平成 22 年 2 月～平成 26 年 2 月	有機合成化学協会関東支部幹事
平成 23 年 1 月～平成 27 年 1 月	厚生労働省 薬事・食品衛生審議会専門委員（毒物劇物調査会）
平成 25 年 2 月～平成 27 年 1 月	日本薬学会関東支部幹事
平成 25 年 2 月～平成 27 年 1 月	日本薬学会 代議員

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	衛生化学教室	教授	山本千夏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 コンパス 衛生薬学 ― 健康と環境 ― 衛生薬学サブノート		平成 23 年 4 月 15 日 平成 21 年 3 月 5 日	南江堂 編者 鍛冶利幸、佐藤雅彦 廣川書店 編者 岡野登志夫、山崎裕康、佐藤雅彦、鍛冶利幸
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Effect of a Congolese herbal medicine used in sickle cell anemia on the expression of plasminogen activators in human coronary aortic endothelial cells culture.	共著	平成 25 年 3 月	<i>J. Ethnopharmacology</i> , 146 : 895-900.
Bis(L-cysteinato)zincate(II) as a coordination compound that induces metallothionein gene transcription without inducing cell-stress-related gene transcription.	共著	平成 24 年 12 月	<i>J. Inorg. Biochem.</i> , 117 : 140-146.
A novel organobismuth compound, 1-[(2-di- <i>ptoly</i> bismuth anophenyl)diazenyl]pyrrolidine, induces apoptosis in the human acute promyelocytic leukemia cell line NB4 via reactive oxygen species.	共著	平成 24 年 12 月	<i>J. Inorg. Biochem.</i> , 117 : 77-84.
Bismuth protects against arsenite-induced inhibition of proteoglycan synthesis in cultured vascular endothelial cells.	共著	平成 24 年 8 月	<i>J. Toxicol. Sci.</i> , 37 : 837-843.
Lead induces the expression of endoplasmic reticulum chaperones GRP78 and GRP94 in vascular endothelial cells via the JNK-AP-1.	共著	平成 22 年 1 月	<i>Toxicol. Sci.</i> , 114 : 378-386.
III 学会等および社会における主な活動			
平成 24 年 4 月～現在	厚生労働省薬剤師国家試験委員		
平成 24 年 7 月～現在	日本毒性学会評議員		
平成 23 年 4 月～現在	日本薬学会 学術誌編集委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬物学教室	教授	田中 光
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Ellagic acid and gingerol, activators of the sarco-endoplasmic reticulum Ca ATPase, ameliorate diabetes mellitus-induced diastolic dysfunction in isolated murine ventricular myocardia.	共著	2013	European Journal of Pharmacology 120 巻 165-175 頁
Electrical activity of the mouse pulmonary vein myocardium.	共著	2012	Journal of Pharmacological Sciences 119 巻 287-292 頁
Blocking effect of NIP-142 on the KCNQ1/KCNE1 channel current expressed in HEK293 cells.	共著	2011	Biological and Pharmaceutical Bulletin 34 巻 153-155 頁
Effects of S(+)-efonidipine on the rabbit sinus node action potential and calcium channel subunits Cav1.2, Cav1.3 and Cav3.1.	共著	2010	European Journal of Pharmacology 120 巻 165-175 頁
Involvement of the Na ⁺ /Ca ²⁺ exchanger in the automaticity of guinea-pig pulmonary vein myocardium as revealed by SEA0400.	共著	2009	Journal of Pharmacological Sciences 110 巻 111-116 頁
III 学会等および社会における主な活動			
平成 21 年 4 月～現在	日本薬理学会学術評議員		
平成 21 年 4 月～現在	医薬品医療機器総合機構専門委員		
平成 21 年 4 月～現在	MR 認定センター試験委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	微生物学教室	教授	加藤 文男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書		平成 25 年 1 月	薬科微生物学 第 6 版 (丸善)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成 25 年 12 月 31 日	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
薬科微生物学 第 6 版	共著・編者	平成 25 年 1 月	丸善
Function of cytochrome P450 enzymes RosC and RosD in the biosynthesis of rosamicin macrolide antibiotic produced by <i>Micromonospora rosaria</i> .	共著	2013 年 3 月	Antimicrob Agents Chemother. 57(3):
Piericidins, Novel Quorum-Sensing Inhibitors against <i>Chromobacterium violaceum</i> CV026, from <i>Streptomyces</i> sp. TOHO-Y209 and TOHO-O348	共著	2013 年 12 月	Open J Medicinal Chem. 3(4)
Production of a hybrid 16-membered macrolide antibiotic by genetic engineering of <i>Micromonospora</i> sp. TPMA0041.	共著	2012 年 11 月	J Ind Microbiol Biotechnol 39(11)
Characteristics of cesium accumulation in the filamentous soil bacterium <i>Streptomyces</i> sp. K202.	共著	2011 年 2 月	J Environ Radioact. 102(2)
III 学会等および社会における主な活動			
2010 年 9 月	第 25 回日本放線菌学会大会大会長		
2010 年 4 月 - 2013 年 3 月	日本放線菌学会理事		
平成 24 年 3 月まで	(社)千葉県製薬協会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	公衆衛生学教室	教授	井上 義雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
新簡明衛生公衆衛生 改訂 6 版 1-263. (株) 南山堂, 東京		平成 22 年 1 月	共著、衛生・公衆衛生学の教科書
衛生試験法・注解 2010 1-1156. 金原出版(株), 東京		平成 22 年 2 月	編集、衛生試験法実務書・参考書
必携・衛生試験法 1-176. 金原出版(株), 東京		平成 23 年 3 月	編集、衛生試験法教科書
衛生薬学—新しい時代— 第 3 版 1-550. 廣川書店(株), 東京		平成 23 年 11 月	共著、衛生・公衆衛生学の教科書
健康と環境 第 2 版 1-479. (株)東京化学同人, 東京		平成 24 年 1 月	共著、衛生・公衆衛生学の教科書
薬学用語辞典 535. (株)東京化学同人, 東京		平成 24 年 3 月	共著、薬学用語辞典
第 6 版 薬科微生物学 1-333. 丸善出版(株), 東京		平成 25 年 1 月	共著、病原微生物学の教科書
グッドマン・ギルマン薬理書 下巻—薬物治療の基礎と臨床 第 12 版、1-2568、廣川書店(株), 東京		平成 25 年 4 月	共訳、薬理学の教科書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Selective androgen receptor modulator, YK11, regulates myogenic differentiation of C2C12 myoblasts by follistatin expression.	共著	2013年9月	Biol Pharm Bull. 36(9):1460-5
T0901317, a potent LXR agonist, is an inverse agonist of CAR.		2013年6月	J Toxicol Sci. 38(3):309-15
HER2 overexpression-mediated inflammatory signaling enhances mammosphere formation through up-regulation of aryl hydrocarbon receptor transcription.	共著	2013年3月	Cancer Lett. 330(1):41-8
DP97, a DEAD box DNA/RNA helicase, is a target gene-selective co-regulator of the constitutive androstane receptor.	共著	2012年9月	Biochem Biophys Res Commun. 426(1):38-42
Activation of the aryl hydrocarbon receptor represses mammosphere formation in MCF-7 cells.	共著	2012年4月	Cancer Lett. 317(2):192-8.
III 学会等および社会における主な活動			
2007年4月～2010年3月	(社)日本薬学会環境・衛生部会 試験法委員長		
2007年8月～2013年3月	厚生労働省薬剤師国家試験委員・副主任・主任		
2008年4月～現在に至る	日本トキシコロジー学会評議員		
2012年3月～2014年3月	厚生労働省医道審議会薬剤師部会 K-V 部会委員		
2009年6月～2012年5月	日本私立薬科大学協会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬物動態学教室	教授	宮内 正二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 理解度アップのための対話型授業 (薬物動態学 I から III)		平成 11 年 4 月 から現在	授業における毎回のアンケートを実施。アンケート内容に基づいて、理解度アップのための対話型授業を実施。授業プリントの作成および理解度を深める確認テストの作成。中間テスト実施および理解不足に対する受講生に対する勉強会の実施。
2 作成した教科書、教材、参考書 「製剤化のサイエンスー基礎と CMC」永井恒司、園部尚編 じほう (東京) コンパス「生物薬剤学」 岩城正宏、伊藤智夫編南江堂 (東京) 薬学系物理：I 物質の物理的性質第 2 版 日本薬学会編 東京化学同人 (東京) 「生物薬剤学演習」伊藤清美、荻原琢男、宮内正二 京都廣川書店 (東京) パートナー「薬剤学」 寺田勝英、伊藤智夫編南江堂 (東京)		平成 22 年 3 月 平成 22 年 4 月 平成 23 年 3 月 平成 23 年 3 月 平成 24 年 4 月	第 1 部製剤材料、 2 章「分散系」 第 2 章 生体膜の構造と薬物の生体膜透過機構 第 13 章物質の移動： 拡散、溶解速度、沈降現象について。 流動現象、粘度について。 吸収、薬物間相互作用に関する演習。 第 4 章 生物薬剤学と体内動態 5 節 薬物の排泄
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学教育 6 年制に対応した国家試験の円滑な実施のための問抱く作成のあり方に関する研究		平成 21 年 4 月 から平成 23 年 3 月	臨床にかかる実践的な能力を有する薬剤師を輩出する薬学教育 6 年制の趣旨を踏まえ、疑義照会、調剤、服薬指導など薬剤師の実践における、問題提起・解決を円滑にするために必要な知識および能力を問うモデル問題を作成し、精錬を行った。また、作成したモデル問題を通して、薬剤師の実践において必要とされる物理学的知識および能力を明確にした。

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Kinetic study of anti-viral ribavirin uptake mediated by hCNT3 and hENT1 in <i>Xenopus laevis</i> oocytes.	共著	2010年4月	<i>Biophysical Chemistry</i> , 147(1-2): 59-65
Sodium-coupled electrogenic transport of pyroglutamate (5-oxoproline) via SLC5A8, a monocarboxylate transporter	共著	2010年6月	<i>Biochim Biophys Acta</i> , 1798(6): 1164-1171
Crystal structure of the eukaryotic light-driven proton-pumping rhodopsin, Acetabularia rhodopsin II, from marine alga	共著	2011年9月	, <i>J Mol Biol</i> 411(5): 986-998.
Expression of salinarum halorhodopsin in Escherichia coli cells: solubilization in the presence of retinal yields the natural state	共著	2011年12月	<i>Biochim Biophys Acta</i> 1808(12): 2905-2912
Thermodynamic parameters of anion binding to halorhodopsin from Natronomonas pharaonis by isothermal titration calorimetry	共著	2013年2月	<i>Biophys Chem</i> 172(2): 61-67
III 学会等および社会における主な活動			
平成24年4月～現在	日本薬物動態学会評議委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	生物物理学教室	教授	長濱 辰文
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		平成 20-25 年 7 月 平成 21-24 年 10-12 月	毎年この時期に授業評価を受けている。 物理学の授業(波動)でインターネット上に公開されているアニメーション(作者許可済み)を利用している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成 23 年 11 月 25 日	授業用教科書として『基礎物理学』、薬学生のための基礎シリーズ3(培風館)を他大学教員と共同で執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成 24 年 3 月 28 日	日本薬学会第 132 年会で学生実習で行っている実践例を報告した。タイトル「薬学部基礎生物実習の実践例:ゾウリムシを使ってマンニトールの利尿作用を理解する」
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Effective amino acid composition of seaweeds inducing food preference behaviors in <i>Aplysia kurodai</i> .	共著	平成 21 年 7 月	Neuroscience Research, vol.64 (3)
(著書) アメフラシは学習研究の元祖?	単著	平成 21 年 8 月	『動物は何を考えているのか? : 学習と記憶の比較生物学』、共立出版
(論文) Nerve growth factor increases electrical activity of neural cells derived from murine bone marrow stromal cells.	共著	平成 24 年 5 月	Neuroendocrinology Letters, vol. 33(2)
(著書) アメフラシ	単著	平成 24 年 5 月	『研究者が教える動物飼育』第 1 巻、共立出版
(論文) Activity changes in jaw motor neurons induced by egg-laying hormone contribute to the feeding suppression during egg-laying behavior in <i>Aplysia kurodai</i> .	共著	平成 25 年 5-6 月	Neuroscience Research, vol.76 (1-2)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
平成 17 年 1 月-平成 21 年 12 月 平成 24 年 1 月-平成 25 年 12 月	日本比較生理生化学会評議員（前期：編集幹事を兼ねる）
平成 21 年 1 月-平成 23 年 12 月	第 8 回国際比較生理生化学会議 ICCP2011 広報委員
平成 23 年 4 月-現在	東京都老人総合研究所協力研究員

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬物治療学研究室	教授	高原 章
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)	2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013	授業評価アンケートの実施により、教育法 法の改善を毎年行っている
2	作成した教科書、教材、参考書	2013/04	「グッドマン・ギルマン薬理書」局所麻酔 薬の Chapter を日本語へ翻訳
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演 等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Chronic left atrial volume overload abbreviates the action potential duration of the canine pulmonary vein myocardium via activation of IK channel.		共著	2008/11 European Journal of Pharmacology, vol. 597 No. 1-3
(論文) Cilnidipine: a new generation Ca ²⁺ channel blocker with inhibitory action on sympathetic neurotransmitter release.		単著	2009/05 Cardiovascular Therapeutics vol.27 No. 2
(論文) Long-term blockade of L/N-type Ca ²⁺ channels by cilnidipine ameliorates repolarization abnormality of the canine hypertrophied heart.		共著	2009/11 British Journal of Pharmacology vol. 158 No. 5
(論文) Electrophysiological and pharmacological characteristics of triggered activity elicited in guinea-pig pulmonary vein myocardium.		共著	2011/02 Journal of Pharmacological Sciences vol.115 No. 2
(著書) Dual L/N-Type Ca ²⁺ Channel Blocker: Cilnidipine as a New Type of Antihypertensive Drug, Antihypertensive Drugs		単著	2012/03 「Antihypertensive Drugs」 InTech - Open Access Publisher
III 学会等および社会における主な活動			
平成 10 年 4 月～ 現在		日本薬理学会学術評議員、代議員	
平成 23 年 4 月～ 現在		日本薬学会 学術誌編集委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	臨床薬剤学研究室	教授	大林 雅彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
授業評価 (臨床薬剤学)		2008年1月	できる限り見やすいスライドづくりに心掛けています。図を多く用いるのも工夫の一つである。その成果授業評価はおおむね良好であると自負している。
授業評価 (プレ実務実習講義)		2009年7月	
授業評価 (プレ実務実習講義)		2010年7月	
授業評価 (プレ実務実習講義)		2011年7月	
授業評価 (プレ実務実習講義)		2012年7月	
授業評価 (プレ実務実習講義)		2013年7月	
2 作成した教科書、教材、参考書			
臨床薬剤学実習テキスト(学内)		2008年3月	
93 回薬剤師国家試験問題解答解説(評言社)		2008年5月	
実務実習事前学習テキスト(ネオメディカル)		2009年3月	
94 回薬剤師国家試験問題解答解説(評言社)		2009年5月	
プレ実務実習テキスト(学内)		2009年8月	
95 回薬剤師国家試験問題解答解説(評言社)		2010年5月	
プレ実務実習テキスト(学内)		2010年8月	
96 回薬剤師国家試験問題解答解説(評言社)		2011年5月	
臨床薬剤学実習テキスト(学内)		2011年8月	
97 回薬剤師国家試験問題解答解説(評言社)		2012年5月	
プレ実務実習テキスト(学内)		2012年8月	
98 回薬剤師国家試験問題解答解説(評言社)		2013年5月	
プレ実務実習テキスト(学内)		2013年8月	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			OSCE トライアルの検証他、本学のプレ実務実習、病院実習への取り組み方をはびょうしてきた。ほかに、北大2年生に臨床系学生の立場と臨床研究の取り組み方を講義した。
東邦大学薬学部 OSCE トライアル実施体制の確立と検証～無菌操作の準備および注射剤混合、(日本薬学会第128年会)		2008年3月	
東邦大学における薬学共用試験 OSCE トライアル—初回面談・服薬指導における評価のバラツキ要因に関する検討(日本薬学会第128年会)		2008年3月	
効果的な病院実習に向けた大学付属3病院共通実務実習テキスト作成への取り組み—大学付属病院薬剤部と薬学部との連携指導体制について(日本薬学会第130年会)		2010年3月	
薬剤師業務に対応した医薬品情報実習の構築と評価(日本薬学会第130年回)		2010年3月	
卒前教育 BSL～医学、薬学、看護学の実習を比較する～(第2回日本アプライド・セラピューティクス学会学術大会)		2011年6月	
薬剤師教育6年制と臨床薬学研究のすすめ(北大2年生への講義)		2012年7月	

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 臨床薬理学会指導薬剤師 医療薬学会指導薬剤師	2001年1月 ～現在 2000年1月 ～現在	2000年から臨床薬理学会、医療薬学会から指導薬剤師として嘱託を受けており、学生に還元している。	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
悪性リンパ腫患者におけるR-CHOP療法による好中球減少に対する顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)投与法の検討	共著	2008年8月	日病薬誌(第44巻第8号)
塩酸バンコマイシン後発品の安全性に関する臨床評価	共著	2008年12月	日病薬誌(第44巻第12号)
わかりやすい薬学生のための実務実習事前学習テキスト	共著	2009年3月	ネオメディカル
Population Pharmacokinetic Analysis of Pilsicainide in Patients with Cardiac Arrhythmias,	共著	2010年4月	TDM研究(第27巻第2号)
The Inhibitory Effect of All-Trans-Retinoic Acid on Aldose Reductase,	共著	2011年	Pharmacometrics(80巻第1号)
III 学会等および社会における主な活動			
平成12年4月～現在に至る	日本TDM学会評議員		
平成12年4月～現在に至る	日本臨床薬理学会評議員		
平成15年4月～平成24年3月	日本医療薬学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	臨床薬学研究室	教授	吉尾 隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書		平成 23 年 9 月 1 日 平成 25 年 2 月 10 日	薬物治療学 (南山堂) 改訂 2 版 薬物治療学 (南山堂)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Prescription profiles for pharmacological treatment of Japanese inpatients with schizophrenia: comparison between 2007 and 2009	共著	2012	Human Psychopharmacology: Clinical & experimental 2012 (27), 70-75 頁
(論文) 入院中の統合失調症患者における薬物療法の適正化のための抗パーキンソン薬の減量方法に関する研究	共著	2012	臨床精神薬理誌 15 (2), 217-225 頁
(論文) 国内における入院中の統合失調症患者の薬物療法に関する処方研究 2006	共著	2010	臨床精神薬理誌 13 (8), 1535-1545 頁
(論文) アドヒアランス改善のための薬剤師の役割	単著	2006	臨床精神薬理誌 12 (11), 2295-2301 頁
(論文) 「Pathway-based association analysis of genome-wide screening data suggest that genes associated with the γ -aminobutyric acid receptor signaling pathway are involved in neuroleptic-induced, treatment-resistant tardive dyskinesia.」	共著	2008	Pharmacogenetics and Genomics

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
平成 17 年 4 月～	精神科臨床薬学研究会 代表世話人
平成 18 年 4 月～	日本病院・地域精神医学会 評議員
平成 20 年 11 月～	日本神経精神薬理学会 評議員

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	臨床薬学研修センター	教授	柳川 忠二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 1. 治験薬学		平成 14 年 4 月 10 日	治験のプロセスとスタッフの役割と責任を中心にとまとめた。共著、南江堂
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成 25 年 12 月 31 日	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Efficacy of LDL-C/HDL-C ratio in elderly hyperlipidemic patients with diabetes For predicting carotid artery intima-media thickness.	共著	2012 年 6 月	Progress in Medicine VOL. 6
Effects of Oral Charcoal Adsorbents in Model Rats with Chronic Renal Failure and Potential Usefulness of Plasma Indoxylsulfate Concentration as an Indicator of Renal Function	共著	2012 年 6 月	Pharmacometrics VOL. 83
Obesity and arteriosclerotic risk factors in elderly dyslipidemic patients on therapy	共著	2013 年 8 月	Journal of Preventive Medicine VOL. 8
III 学会等および社会における主な活動			
昭和 63 年 4 月～現在に至る	有害・医療廃棄物研究会理事		
平成 22 年 4 月～現在に至る	禁煙、分煙を推進する神奈川会議理事		
平成 22 年 4 月～現在に至る	千葉県薬剤師会 学術倫理審査委員会副委員長		

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	臨床薬学研修センター	教授	石井 敏浩
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 医薬合同生命倫理チュートリアル授業の新規導入		平成 25 年 9 月 28 日より	薬学部・医学部の 2 年次生を対象に各キャンパスで実施する PBL チュートリアル（薬学部科目名はヒューマニズムⅡ）。
2 作成した教科書、教材、参考書 病院実務実習テキスト学生用、並びに同指導薬剤師用（2012 改訂版）		平成 24 年 3 月 1 日	本学付属病院用 実務実習用テキスト（学生用と指導薬剤師用）の編集責任を負う。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 医薬合同総合臨床講義の試験的導入（単位化に向け調整中）		平成 24 年 4 月 より現在まで （計 11 コマ）	医学部の総合臨床講義（5 年次カリキュラム）に薬学部 5 年次生を参加させ、同一症例に対し、医学生および薬学生双方の視点から検討させる。実践的な臨床能力向上を図ることを目的とする。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Development of an Enzyme-Linked Immunosorbent Assay System to Determine the Presence of Antibodies Specific for Taxane Structures	共著	2011 年 4 月	日本薬学会、 Biological & Pharmaceutical Bulletin 34(4)
（論文）パーキンソン病患者の上部消化管運動機能評価における ^{13}C 呼吸検査の応用	共著	2011 年 12 月	日本安定同位体・生体 ガス医学応用学会、 安定同位体と生体ガ ス 3(1)
III 学会等および社会における主な活動			
平成 19 年 1 月～平成 28 年 12 月	日本医療薬学会認定薬剤師		
平成 21 年 1 月～平成 28 年 12 月	日本医療薬学会指導薬剤師		

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬学教育推進部門	教授	大井 浩明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等も含む） 基礎薬学演習 基礎薬学準備演習		平成 24 年 4 月 23 日 ～12 月 14 日 平成 24 年 6 月 6 日～ 7 月 11 日	クリッカーを使用した演習 初年次学生を対象としたネットを利用した 基礎薬学準備演習
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学実務実習指導者必携（共著、戸部徹編、じ ほう） 構造式手帳（共著、伊藤喬編著、京都廣川書店）		平成 24 年 6 月 15 日 平成 25 年 1 月 6 日	実務実習指導者用参考書 薬物の化学構造学習用教材
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本薬学会第 129 年会 日本薬学会第 129 年会 日本薬学会第 130 年会 日本薬学会第 130 年会（一般シンポジウム） 日本薬学会第 132 年会		平成 21 年 3 月 26 日 平成 21 年 3 月 27 日 平成 22 年 3 月 28 日 平成 22 年 3 月 30 日 平成 24 年 3 月 29 日	教員の教育活動記録からみたカリキュラム 作成 基礎薬学演習の導入とその評価 学生による授業評価と講義の質の変化 学生の学習への目的意識を高める試み 1 年次学生への基礎薬学準備演習の導入
4 その他教育活動上特記すべき事項（FD を含む） 第 2 回昭和大学富士吉田教育部教育ワークショッ プ 第 3 回昭和大学薬学部アドバンスワークショップ 第 4 回昭和大学薬学部アドバンスワークショップ 第 1 回昭和大学リメディアル検討ワークショップ 第 2 回昭和大学リメディアル検討ワークショップ 第 5 回昭和大学薬学部アドバンスワークショップ 第 17 回昭和大学医学教育者のためのワークショ ップ 第 6 回昭和大学薬学部アドバンスワークショップ 第 7 回薬学教育者のためのワークショップ 第 3 回薬学教育者のためのアドバンスワークシ ョップ		平成20年7月22～24日 平成20年8月19～21日 平成21年8月19～21日 平成22年2月22日 平成22年5月6日 平成22年8月18～20日 平成23年7月30～31日 平成23年8月17～19日 平成24年7月29～30日 平成25年10月12～14日	初年次教育（成績不良対策、早期体験学習、 コミュニケーションなど）に関して 昭和大学として特色ある 4～6 年次カリキュ ラムの構築 6 年制薬学教育 5 年次生の指導・支援体制の 構築 理科系科目未履修者への入学前対策 初年次の理科系科目のリメディアル 基礎薬学強化への対応策 入学試験における面接試験のあり方につい て 薬剤師の職域を拓げる新しい薬学教育を全 国規模で展開する基盤作り（タスク） コンピテンシーに基づくらせん形カリキュ ラムの検討と適正な評価方法（タスク） 学 習 成 果 基 盤 型 教 育 (Outcome-Based Education) に基づいて 6 年制薬学教育の学習 成果を考える

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Development of patient-oriented participatory clinical clerkship-Individual patient management and innovatory evaluation scale	共著	平成 21 年 10 月	Jpn. J. Pharm. Health Care Sci. (Vol. 35 No. 10)
高校時の理科室科目の履修状況と大学 1 年時の理科室科目の学生による自己評価の調査	共著	平成 22 年 3 月	昭和大学薬学雑誌（1 巻 1 号）
睡眠改善薬に関する消費者の現状および販売時における薬剤師のかかわり	共著	平成 22 年 12 月	昭和大学薬学雑誌（1 巻 2 号）
学生の学習への目的意識を高める試み.	共著	平成 22 年 12 月	薬学雑誌（130 巻 12 号）
基礎薬学演習の導入.	共著	平成 24 年 12 月	昭和大学薬学雑誌（3 巻 2 号）
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	英語教室	教授	畠田 豊文
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 2年生を対象に新たな教材開発		平成25年4月	学生の学力・専攻・興味関心を考慮して、 環境と病気・薬剤に関する教材を新たに開 発中
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成25年12月31日	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Lady Macbeth and the Letter	単著	平成20年3月	東邦大学教養紀要第 39号
Soliloquies and the Tragic Irony in <i>Othello</i>	単著	平成21年3月	東邦大学教養紀要第 40号
『ジュリアス・シーザー』の悲劇	単著	平成22年3月	東邦大学教養紀要第 41号
<i>King Lear</i> に見る「道化」と「狂気」	単著	平成24年3月	東邦大学教養紀要第 44号
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	生薬学教室	准教授	李 巍
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Evaluation of licorice flavonoids as protein tyrosine phosphatase 1B inhibitors	共著	2013年9月	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters, 23
(論文) Clerodane Diterpenoids from <i>Tinospora sagittata</i>	共著	2011年9月	Planta Medica, 78
(論文) Bioassay-guided isolation and qualification of the α -glucosidase inhibitory compound, glycyrrhisoflavone, from <i>Glycyrrhiza uralensis</i>	共著	2010年7月	Natural Product Communications, 5 (7)
(論文) Triterpenoid saponins from <i>Rubus ellipticus</i> var. <i>obcordatus</i>	共著	2009年10月	Journal of Natural Products, 72
(論文) Triterpenoid saponins from <i>Impatiens sicutifera</i>	共著	2009年4月	Phytochemistry, 70
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	病態生化学教室	准教授	東 祐太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む) 授業評価アンケート		平成 25 年 6 月 6 日 (病態検査学 I) 11 月 12 日 (生化学 IV) 11 月 13 日 (病態検査学 II) 11 月 15 日 (免疫 II)	授業評価アンケートの実施
2 作成した教科書、教材、参考書 生物系実習 II 実習書		平成 25 年 5 月 10 日	生化学・免疫学的分析法を用いた 生体成分の解析と評価法に関する 実習テキスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
NKG2D and CD94 bind to heparin and sulfate-containing polysaccharides.	共著	2009	Biochem. Biophys. Res. Commun. (386)
Altered expression of glycoproteins on the cell surface of Jurkat cells during etoposide-induced apoptosis: Shedding and intracellular translocation of glycoproteins.	共著	2009	Biochim. Biophys Acta. (1790)
Binding of natural cytotoxicity receptor NKp46 to sulfate- and α 2,3-NeuAc-containing glycans and its mutagenesis.	共著	2011	Biochem. Biophys. Res. Commun. (406)
Decreases in CD31 and CD47 levels on the cell surface during etoposide-induced Jurkat cell apoptosis.	共著	2011	Biol. Pharm. Bull. (34)
Unlike Natural Killer (NK) p30, Natural Cytotoxicity Receptor NKp44 Binds to Multimeric α 2,3-NeuNAc-Containing N-Glycans.	共著	2012	Biol. Pharm. Bull. (35)
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	病態生化学教室	准教授	桧貝 孝慈
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)	平成 22 年 5 月 24 日	TOPICS の紹介 (毎週)、授業評価アンケートの実施・揭示、: 分子生物学Ⅲ)	
	平成 23 年 5 月 24 日	TOPICS の紹介 (毎週)、授業評価アンケートの実施・揭示、: 分子生物学Ⅲ)	
	平成 24 年 5 月 25 日	TOPICS の紹介 (毎週)、授業評価アンケートの実施・揭示、: 分子生物学Ⅲ)	
	平成 24 年 4 月 1 日	授業評価アンケートの実施・揭示 (病態生化学)	
	平成 25 年 5 月 22 日	TOPICS の紹介 (毎週)、授業評価アンケートの実施・揭示、: 分子生物学Ⅲ)	
	平成 25 年 4 月 1 日	授業評価アンケートの実施・揭示 (病態生化学)	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成 22 年 4 月 1 日	講義用資料 (分子生物学Ⅲ)	
	平成 23 年 4 月 1 日	講義用資料 (分子生物学Ⅲ)	
	平成 24 年 4 月 1 日	講義用資料 (分子生物学Ⅲ)	
	平成 24 年 4 月 1 日	病態と検査、講義用資料 (病態生化学)	
	平成 25 年 4 月 1 日	病態と検査、講義用資料 (病態生化学)	
	平成 25 年 4 月 1 日	講義用資料 (分子生物学Ⅲ)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		特になし	

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Prolonged culture in high glucose suppresses phorbol 12-myristate 13-acetate and ionomycin-induced interleukin-2 mRNA expression in Jurkat cells via accumulation of inducible cAMP early repressor.	共著	2009年1月	Biochim. Biophys. Acta -General Subjects-, Vol.1790 :8-15
(論文) NKG2D and CD94 bind to multimeric α 2,3-linked N-acetylneuraminic acid.	共著	2009年3月	Biochem. Biophys. Res. Commun. Vol.382:604-608
(著書) 組換え蛋白質：組換え蛋白質の発現と糖鎖修飾	共著	平成22年11月	日本医学館・バイオマテリアルの基礎 202-208
(論文) NKG2A and NKG2C bind to sulfated glycans and α 2,3-NeuAc-containing glycoproteins.	共著	平成23年4月	Biol. Pharm. Bull. Vol.34 No.4:480-485
(論文) Unlike NKp30, natural cytotoxicity receptor NKp44 binds to multimeric α 2,3-NeuNAc-containing N-glycans.	共著	平成24年4月	Biol. Pharm. Bull. Vol.35 No.4, 1-7
III 学会等および社会における主な活動			
平成25年度～	独立行政法人 物質・材料研究機構 並木地区遺伝子組換え実験安全委員会外部委員(平成25年度～現在)		
平成25年度～	・独立行政法人 物質・材料研究機構 並木地区微生物実験安全委員会外部委員(平成25年度～現在)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬品製造学教室	准教授	鈴木 英治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		H20年4月～ H25年12月	授業評価 2回/年 春学期：有機構造解析 秋学期：生物有機化学 (H22～)
2 作成した教科書、教材、参考書		H20年4月～ H25年12月	有機構造解析学 授業用プリント 生物有機化学 授業用プリント
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成25年12月31日	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDも含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Synthesis and evaluation of 4- aryl- 2(1H) - quinolinones as potent amyloid β fibrillogenesis inhibitors.	共著	2012	<i>Heterocycles</i> 2012 , 85, 1933-1940.
(論文) Development of a New Distyrylbenzene-Derivative Amyloid- β - aggregation and Fibril Formation Inhibitor.	共著	2012	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> 2012 , 61, 1184-1187.
(論文) Synthesis and biological evaluation of novel tryptoline derivatives as indoleamine 2, 3- dioxygenase (IDO) inhibitors.	共著	2013	<i>Bioorganic & Medicinal Chemistry</i> 2013 , 21, 1159-1165.
(論文) Synthesis of VIP- lipopeptide using a new linker to modify liposomes: towards the development of a drug delivery system for active targeting.	共著	2013	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> 2013 , 60, 1164-1170.
(論文) A Practical Regioselective Synthesis of Alkylthio- or Arylthioindoles without the Use of Smelly Compounds Such as Thiols.	共著	2013	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> 2013 , 61, 292-303.
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬品物理分析学教室	准教授	伊関 峰生
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		平成 23 年 10 月 18 日 平成 24 年 10 月 15 日 平成 25 年 10 月 15 日 平成 25 年 4 月 22 日	生体分子解析法 I において授業評価アンケートを行った。 薬学総合演習 I において授業評価アンケートを行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		平成 23 年 4 月 30 日～ 5 月 1 日 平成 24 年 7 月 15 日～ 16 日	実務実習指導薬剤師養成ワークショップ (日大) 実務実習指導薬剤師養成ワークショップ (新潟薬科大)
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Vibrational microspectroscopy of single proteins.	共著	2010 年 8 月	J. Phys. Chem. Lett., 1, 2541–2545
Differentiation of photocycle characteristics of flavin-binding BLUF domains of α - and β -subunits of photoactivated adenylyl cyclase of <i>Euglena gracilis</i> .	共著	2010 年 10 月	Photochem. Photobiol. Sci. 9, 1327–1335
Structural change of a cofactor binding site of flavoprotein detected by single-protein fluorescence spectroscopy at 1.5 k	共著	2011 年 2 月	Phys Rev Lett. 106:078101
Strong Donation of the Hydrogen Bond of Tyrosine during Photoactivation of the BLUF Domain	共著	2011 年 4 月	J. Phys. Chem. Lett. 2, 1015-1019
Photomanipulation of antibiotic susceptibility and biofilm formation of <i>Escherichia coli</i> heterologously expressing photoactivated adenylyl cyclase.	共著	2012 年 8 月	J Gen Appl Microbiol. 58, 183-190
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	微生物学教室	准教授	安齊洋次郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 授業評価アンケート		平成 25 年 1 月 16, 18 日	担当している科目を受講している学生を 対象にアンケートを実施した。
2 作成した教科書、教材、参考書 「分子生物学Ⅱ」参考資料 「微生物実習」テキスト		平成 24 年 9 月 平成 24 年 11 月	「分子生物学Ⅱ」参考資料 A4 50 頁 (改訂版) 「微生物実習」テキスト B5 30 頁
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
第 6 版 薬科微生物学	共著	2013 年 1 月	丸善出版株式会社
微生物の事典	共著	2008 年 9 月	朝倉書店
Function of the cytochrome P450 enzymes MycG1 and MycG in <i>Micromonospora griseorubida</i> , a producer of the macrolide antibiotic mycinamicin	共著	2012 年 7 月	Antimicrobial agents and chemotherapy
Production of rosamicin derivatives in <i>Micromonospora rosaria</i> by introduction of D-mycinose biosynthetic gene with phiC31-derived integration vector pSET152.	共著	2009 年 8 月	Journal of industrial microbiology & biotechnology
Functional analysis of MycG1 and MycG, cytochrome P450 enzymes involved in biosynthesis of mycinamicin macrolide antibiotics.	共著	2008 年 9 月	Chemistry & biology
III 学会等および社会における主な活動			
1999/04~	日本放線菌学会 学術企画委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
東邦大学	薬物動態学教室	准教授	下野 和実	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)	平成 25 年 5 月 7 日, 6 月 11 日	初等物理学演習にて学生の理解度を知るために確認試験を実施	
2	作成した教科書、教材、参考書			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動				
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) オプトジェネティックス(光遺伝学)		単著	平成 25 年 4 月	エヌティーエス, 第 1 編第 2 章第 1 節
(論文) Photochemistry of Acetabularia Rhodopsin II from a Marine Plant, Acetabularia acetabulum		共著	平成 23 年 10 月	Biochemistry, 50 (41), 8888-8898.
(論文) Crystal structure of the eukaryotic light-driven proton pumping rhodopsin, Acetabularia rhodopsin II from marine alga		共著	平成 23 年 9 月	J. Mol. Biol., 411, (5), 986-998.
(論文) 無細胞タンパク質合成系を活用した膜 タンパク質合成方法		共著	平成 22 年 7 月	実 験 医 学, 28, 1775-1780.
(論文) Production of functional bacteriorhodopsin by an Escherichia coli cell-free protein synthesis system supplemented with steroid detergent and lipid		共著	平成 21 年 10 月	Protein Sci., 18, (10), 2160-2171.
III 学会等および社会における主な活動				
平成 23 年 1 月～平成 24 年 12 月	日本生物物理学会委員			
平成 22 年 8 月～現在	トランスポーター研究会薬学系幹事			
平成 20 年 9 月～平成 21 年 11 月	日本生物物理学会第 47 回年会実行委員			

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	病態解析学研究室	准教授	武藤 里志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)	2009年9月～ 現在	模擬患者の参加するプレ実務実習およびOSCEを開始
2	作成した教科書、教材、参考書	2009年9月～ 現在	プレ実務実習テキストの作成
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2007年11月 2008年10月 2009年9月 2012年3月	模擬患者養成ワーキンググループを設置 東邦大学薬学部模擬患者会を設立 第4回千葉県7大学模擬患者合同研修会を東邦大学で開催 東邦大学より教育賞を受賞
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) 薬局における訪問薬剤管理指導業務の現状と今後の展望に関する研究		共著	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称 日本褥瘡学会誌, 10(2), 111-116(2008)
(論文) Effect of lipid-soluble and water-soluble statins on the prevention of restenosis and the proliferation of smooth muscle cells.		共著	2008年6月 Progress in Medicine, 30(9), 2443-2449(2010)
(論文) Development of an enzyme-linked immunosorbent assay system to determine the presence of antibodies specific for taxane structures.		共著	2010年9月 Biol. Pharm. Bull., 34(4), 562-6(2011)
(論文) 薬局における訪問薬剤管理指導業務の現状と今後の展望に関する研究		共著	2011年4月 日本社会薬学会, 31, 47-56(2012)
(論文) The role of TNF- α in a murine model of Kawasaki disease arteritis induced with a Candida albicans cell wall polysaccharide.		共著	2012年7月 Mod Rheumatol., 24(1), 120-8(2014)
III 学会等および社会における主な活動			
2011年4月～現在		日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会理事	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
東邦大学	薬物安全性学研究室	准教授	佐藤 光利	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		平成 22 年～25 年 平成 23 年～25 年 平成 25 年 9 月 10 日	コンピュータを用いて TDM 演習を実施し理解度が向上した 海外実務実習をアルバータ大学との実施で教育効果を得ている 「医薬品開発 I」授業アンケートを実施して講義に反映させた	
2 作成した教科書、教材、参考書		平成 25 年 9 月 10 日 平成 25 年 9 月 11 日	「新薬創製への招待・創薬から市販後臨床試験まで」 共立出版 プレ実務実習テキスト 東邦大学医療薬学教育センター	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成 19 年 12 月 2 日 平成 20 年 3 月 28 日 平成 20 年 3 月 28 日 平成 21 年 10 月 25 日	効果的な病院薬局実習に向けた大学における取り組み. 教育フォーラム 2007 東邦大学における薬学共用試験 OSCE トライアル. 日本薬学会第 128 年会 東邦大学薬学部 OSCE トライアル実施体制の確立と検証. 日本薬学会第 128 年会 千葉 7 大学合同 SP 研修会のこれまでの取り組み. 第 19 回日本医療薬学会年会	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		平成 23 年 7 月 9 日 平成 25 年 6 月 13 日	生命倫理シンポジウム「治験」にて座長を担当 早期体験学習の引率(第一三共製薬研究所)	
II 研究活動				
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) AW551984: a novel regulator of cardiomyogenesis from pluripotent embryonic cells.		共著	平成 23 年 5 月	<i>Biochem. J.</i> , 437, 345-355.
(論文) Correlation between cyclosporin A concentration and lipid concentration in patients with ulcerative colitis.		共著	平成 23 年 5 月	<i>Pharmacometrics</i> , 80, 53-58.
(論文) Assessment of combined therapy with purine derivatives and infliximab in patients with refractory Crohn's disease.		共著	平成 24 年 1 月	<i>Pharmacometrics</i> , 82, 1-8.
(論文) Plasma levodopa peak delay and impaired gastric emptying in Parkinson's disease.		共著	平成 24 年 8 月	<i>J. Neurol. Sci.</i> , 319, 86-88.
(論文) Evaluation of renal adverse effects of combination anti-retroviral therapy including tenofovir in HIV-infected Patients.		共著	平成 25 年 5 月	<i>J. Pharm. Pharmaceut. Sci.</i> , 16, 405-413.
III 学会等および社会における主な活動				
平成 7 年 4 月～平成 25 年 12 月	日本薬理学会学術評議員			
平成 18 年 4 月～平成 25 年 12 月	日本予防医学リスクマネジメント学会評議員			
平成 25 年 4 月～平成 25 年 12 月	日本医療安全学会評議員			

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬事法学研究室	准教授	秋本 義雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 薬事関連法規 第1版 薬事関連法規 改訂第2版 これからの社会薬学—社会の変化と、対応する薬剤師への期待 第1版 薬事関連法規 改訂第3版 これからの社会薬学—社会の変化と、対応する薬剤師への期待 改訂第2版		平成 18 年 5 月 平成 20 年 4 月 平成 21 年 4 月 平成 23 年 4 月 平成 25 年 3 月	薬剤師に必要な法律の解説 薬剤師に必要な法律の解説 薬剤師と社会のかかわりと薬剤師の役割 薬剤師に必要な法律の解説 薬剤師と社会のかかわりと薬剤師の役割
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「スキルミックス」を考える		平成 21 年 11 月	薬剤師教育、社会薬学会において
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む) 共立薬科大学非常勤講師 東京薬科大学非常勤講師		平成 20 年 3 月 平成 18 年 4 月 ～	医療と法律：学部学生 医療裁判と薬剤師：大学院生 薬事関係法規 ゼミナール
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
判例から学ぶ! 薬剤師と医療コミュニケーション	共著	平成 21 年 9 月	薬ゼミ情報教育センター
医療事故事件から学ぶ薬剤師の失敗学 13 回 裁判例から示されたい行為と薬剤師の関係	単著	平成 25 年 3 月	南山堂 薬局 Vol. 64 No. 3
医療事故事件から学ぶ薬剤師の失敗学 14 回 介護行為と薬剤師	単著	平成 25 年 4 月	南山堂 薬局 Vol. 64 No. 5
医療事故事件から学ぶ薬剤師の失敗学 15 回 医政局長通知に示された薬剤師業務と医行為 の関係	単著	平成 25 年 5 月	南山堂 薬局 Vol. 64 No. 6
医療過誤事件から学ぶ 薬剤師の失敗学	単著	平成 25 年 7 月	南山堂

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
司法薬学研究会	常任幹事
セルフメディケーション学会	学会実行委員
日本社会薬学会	常任幹事
厚生労働省 薬剤師試験委員	薬剤師国家試験出題

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
東邦大学	臨床薬学研究室	准教授	渡辺 朋子	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)				
2 作成した教科書、教材、参考書				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第 130 回日本薬学会 第 12 回日本医療マネジメント学会 第 14 回日本医療マネジメント学会		平成 21 年 3 月 平成 22 年 6 月 平成 23 年 10 月	本邦大学薬学部及び薬科大学における「薬局管理学」講義の状況及び講義内容を調査し、欧米での「薬局管理学」の内容と比較検討し、本邦の医療制度に見合った内容を提案した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)				
II 研究活動				
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
薬学生・薬剤師のための英会話ハンドブック		共著	平成 21 年 3 月	東京化学同人
薬物治療学		共著	平成 23 年 9 月	南山堂
薬物治療学 第 2 版		共著	平成 25 年 2 月	南山堂
薬物治療学 第 3 版		共著	平成 26 年 4 月	南山堂
III 学会等および社会における主な活動				
平成 18 年 9 月～平成 20 年		The Medical Science Monitor Reviewer		

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	臨床薬学研究室	准教授	篠原 悦子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		平成25年6月20日	医療情報Ⅰの授業では臨床現場で必要とされる知識の活用方法を修得させるために添付文書を配付して各項目を解説している。さらに実習では臨床現場の質問を提示し、PCを用いて医中誌や Pub Med、医薬品医療機器情報提供HPなどを検索し回答を作成させている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年7月20日 平成23年9月1日 平成25年2月1日	新薬剤師国家試験対策精選問題集Ⅹ：実務薬物治療学 薬物治療学 改訂2版
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成21年3月28日	薬剤師業務に対応した医薬品情報実習の構築と評価 (薬学会 130 年会)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 新薬剤師国家試験対策精選問題集Ⅹ：実務	共著	2011年7月20日	評言社
(著書) 薬物治療学	共著	2011年9月1日	南山堂
(解説) 東邦大学薬学部における医薬品情報教育の取り組み	単著	2012年1月12日	薬事新報社、薬事新報、No. 2716
(著書) 薬物治療学 改訂2版	共著	2013年2月1日	南山堂
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬学教育推進部門	准教授	金木 弘之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		平成 20 年 4 月 ～ 平成 25 年 7 月	「分子生物学」「免疫」の授業において、低学年の内容を復習しながら説明することにより教科間の結びつきを明らかにし、知識の構築を支援した。学生の理解度が高く、授業評価は 4.5 以上であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成 20 年 4 月 ～ 平成 25 年 7 月	「分子生物学」「免疫」の授業プリントおよび問題集を各年度 4 月に印刷、配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) The receptor attributable to C-type natriuretic peptide-induced differentiation of osteoblasts is switched from type B- to type C-natriuretic peptide receptor with aging.		共著	2008 Feb Journal of Cellular Biochemistry, Vol. 103, No.3
(論文) Prostaglandin E ₂ enhances B-Type natriuretic peptide receptor expression in calvarial osteoblasts through EP1 subtype of prostaglandin E ₂ receptor.		共著	2009 Mar Journal of Health Science, Vol. 55, No.2
(論文) Prostaglandin E ₂ increases the expression of B-type natriuretic peptide receptor through EP1 receptor, Ca ²⁺ mobilization and protein kinase C signaling pathway in rat calvarial osteoblasts		共著	2009 May Journal of Health Science, Vol. 55, No.3
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬学総合教育部門	准教授	牧田みどり
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成 25 年 12 月 31 日	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
III 学会等および社会における主な活動			
平成 15 年 4 月 1 日～現在まで	独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員 日本薬局方原案審議委員会医薬品添加物委員		
平成 21 年 4 月 1 日～現在まで	千葉県学校薬剤師会 船橋市立芝山東小学校 学校薬剤師		

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬学総合教育部門	准教授	奥平 和穂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			特別なことはしていない。学生の考える速度に合わせてるように板書を多用している。現在は、2 クラス学生用に SGD 等を取り入れた効果的な学習方法の開発を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書			特になし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			特になし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Sonodynamically induced apoptosis and active oxygen generation by gallium-porphyrin complex, ATX-70.	共著	2010 年 2 月	<i>Cancer Chemother Pharmacol.</i> , 66: 1071-1078.
(論文) Contribution of Rat Pulmonary Metabolism to the Elimination of Lidocaine, Midazolam, and Nifedipine.	共著	2010 年 4 月	<i>Drug Metab. Dispos.</i> , 38: 1183-1188.
(論文) Species difference of metabolic clearance of bisphenol A using cryopreserved hepatocytes from rats, monkeys and humans.	共著	2010 年 7 月	<i>Toxicol. Lett.</i> , 198: 210-215.
(論文) Sonodynamically-induced antitumor effect of mono-l-aspartyl chlorin e6 (NPe6).	共著	2011 年 2 月	<i>Anticancer Res.</i> , 31: 501-506.
(論文) Involvement of reactive oxygen species in sonodynamically induced apoptosis using a novel porphyrin derivative.	共著	2012 年 9 月	<i>Theranostics.</i> 2:880-8.
III 学会等および社会における主な活動			
特になし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	数学教室	准教授	金子 真隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)	2013/11/28	「基礎数学」「医療統計」の授業で高精細な TeX 描画による 3 次元図形等の提示を行い、授業評価において比較的高い支持を得た。
2	作成した教科書、教材、参考書	2012/11/1	「新線形代数」(大日本図書・共著)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2012/3/14	「特別研究(ミクロ経済学)での取り組み」 (木更津高専一般教育研究会発表会)
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		特になし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) A simple method of TeX surface drawing suitable for teaching materials with the aid of CAS		共著	2008
(論文) Handier use of Scilab to draw fine LaTeX figures		共著	2010
(論文) The effective use of LaTeX drawing in linear algebra		共著	2011
(論文) 光トポグラフィーを用いた数値・文字式タスクにおける脳血流動態の追跡		共著	2013
(論文) A scheme for demonstrating and improving the effect of CAS use in mathematics education		共著	2013
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	生薬学教室	講師	佐藤 忠章
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		平成 25 年 春学期	2 年生 生薬学実習(生薬に関連する項目をより多く学習できるように工夫) 4 年生 植物療法学(自分で考えることに重点を置き, 毎回レポートを提出)
2 作成した教科書、教材、参考書		平成 25 年 秋学期	学内 2 年生 生薬学実習の実習書 (共著) 4 年生 植物療法学の教科書 (共著) 学外 薬剤師国家試験対策 必修問題集 I (共著)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Effect of aromatherapy massage on elderly patients under long-term hospitalization in Japan. Satou, Tadaaki; Chikama, Mizuki; Chikama, Yoshiko; Yachigo, Masato; Urayama, Haruna; Murakami, Shio; Hayashi, Shinichiro; Koike, Kazuo.	共著	2013	<i>Journal of alternative and complementary medicine</i> . 19, 235-237.
Organ accumulation in mice after inhalation of single or mixed essential oil compounds. Satou, Tadaaki; Takahashi, Mizuho; Kasuya, Hikaru; Murakami, Shio; Hayashi, Shinichiro; Sadamoto, Kiyomi; Koike, Kazuo.	共著	2013	<i>Phytotherapy research</i> . 27, 306-311.
Anxiolytic-like effect of Shigyakusan extract with low side effects in mice. Tanaka, Machiko; Satou, Tadaaki; Koike, Kazuo.	共著	2013	<i>Journal of Natural Medicines</i> . 67, 862-866.
Prolonged anxiolytic-like activity of sandalwood (<i>Santalum album</i> L.) oil in stress-loaded mice. Satou, Tadaaki; Miyagawa, Michiyo; Seimiya, Haruna; Yamada, Hideo; Hasegawa, Toshio; Koike, Kazuo.	共著	2013	<i>Flavour and Fragrance Journal</i> . in press.
Effect on emotional behavior and stress by inhalation of the essential oil from <i>Chamaecyparis obtusa</i> . Kasuya, Hikaru; Hata, Erika; Satou, Tadaaki; Yoshikawa, Masaki; Hayashi, Shinichiro; Masuo, Yoshinori; Koike, Kazuo.	共著	2013	<i>Natural Product Communications</i> . 8, 515-518.

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
平成 24 年 12 月～現在	日本ハーブ療法研究会 世話人

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬理学教室	講師	茅野 大介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		平成 25 年 4 月 10 日	授業評価アンケートの記述内容や講義後の学生からの意見・質問を参考に説明方法や講義資料を毎年バージョンアップしている
2 作成した教科書、教材、参考書		平成 25 年 4 月 5 日 平成 25 年 4 月 10 日 平成 25 年 9 月 19 日	薬理学実習の教材作成 薬理学Vの教材作成 薬理学VIの教材作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成 24 年 8 月 5 日	オープンキャンパスでの体験授業 テーマ：風邪薬でも起こる薬物アレルギー
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			特になし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
H ₂ receptor-mediated positive inotropic effect of histamine in neonatal guinea-pig left atria.	共著	平成 22 年	Biological & Pharmaceutical Bulletin vol. 33 No. 12
食品に含まれるトランス脂肪酸は、うつ病の危険因子となり得る.	単著	平成 23 年 11 月	ファルマシア 47 巻
Water Extract of Astragalus membranaceus Bunge Leaves Induces Endothelium-Dependent Relaxation in Rat Aorta via Nitric Oxide Production.	共著	平成 25 年 2 月	Journal of Traditional Medicines vol.30 No.1
薬の効くプロセス 改定 2 版：第 16 章	共著	平成 25 年 3 月	有限会社ネオメディカル
Selective and potent inhibitory effect of docosahexaenoic acid (DHA) on U46619-induced contraction in rat aorta.	共著	In press	Journal of Smooth Muscle Research
III 学会等および社会における主な活動			
平成 23 年 8 月 3・4 日	第 53 回日本平滑筋学会総会実行委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬品分析学教室	講師	一場 秀章
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		毎年 9 月 毎年 11 月	・教科書の補足資料や練習問題を web にて 掲示し、授業に活用している。 ・授業評価アンケート実施、授業で結果公 表&フィードバック
2 作成した教科書、教材、参考書		2011 年 8 月 毎年 4, 9 月	・分析化学コアカリ対応 第 3 版 (丸善出版) ・問題集作成 (試験の過去問集)、web にて 公表、演習で解答・解説を行う。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		2010 年 4 月～ 毎年 8 月	・薬学部国試・C B T 対策委員 ・学部主催教育ワークショップ毎年参加
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)
A novel flow-injection analysis system for evaluation of antioxidants by using sodium dichloroisocyanurate as a source of hypochlorite anion.		共著	2012
Development of a fluorescent chelating ligand for scandium ion having a Schiff base moiety.		共著	2012
Fluorimetric assay for D-amino acid oxidase activity in rat brain homogenate by using D-kynurenine as a substrate.		共著	2011
Analysis of oxidation process of cholecystokinin octapeptide with reactive oxygen species by high-performance liquid chromatography and subsequent electrospray ionization mass spectrometry.		共著	2010
Feasibility of bioavailability testing by simultaneous determination of serum concentrations of tegafur and 5-fluorouracil after TS-1 oral or tube administration for chemotherapy in oral cancer patients.		共著	2010
III 学会等および社会における主な活動			
平成 20 年 4 月 ~ 現在		千葉県船橋市教育委員会より学校薬剤師を委嘱	

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	生化学教室	講師	船越（石井）智子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		平成 25 年 8 月 24～25 日	平成 25 年度第 9 回関東地区調整機構主催・ 認定実務実習薬剤師養成ワークショップ千 葉（薬学教育ワークショップ）に参加
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Nuclear pore formation but not growth is governed by cyclin-dependent kinase (Cdks) during interphase.		共著	2010 年 9 月 <i>Nat Struct Mol Biol</i> , vol. 17, No. 9
(論文) Localization of Pom121 to the inner membrane is required for an early step of interphase nuclear pore complex assembly.		共著	2011 年 4 月 <i>Mol Biol Cell</i> , vol.22, No. 7
(論文) The nucleoporin ELYS/Mel28 regulates nuclear envelope subdomain formation in HeLa cells.		共著	2012 年 3 月 <i>Nucleus</i> , vol. 3, No. 2
(総説) Nuclear pore dynamics the cell cycle.		共著	2012 年 8 月 <i>Curr Opin Cell Biol</i> , vol. 24, No. 4
(論文) Regulation and coordination of nuclear envelope and nuclear pore complex assembly.		共著	2013 年 4 月 <i>Nucleus</i> , vol. 4, No. 2
III 学会等および社会における主な活動			
平成 18 年 1 月～平成 20 年 3 月	日本細胞生物学会 庶務幹事補佐		

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬品製造学教室	講師	氷川 英正
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		平成 25 年 10 月	医薬品化学において授業評価を実施し、学生からの意見を講義にできるだけ反映した。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成 25 年 1 月 17 日	医薬品化学のまとめを作成し、講義で使用した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成 25 年 12 月 31 日	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		なし	なし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) <i>N</i> -Benzylation/benzylic C-H amidation cascade by the (η^3 -benzyl) palladium system in aqueous media: an effective pathway for the direct construction of 3-phenyl-3,4-dihydro-(2 <i>H</i>)-1,2,4-benzothiadiazine-1,1-dioxides		共著	2013 <i>Adv. Synth. Catal.</i> , 355 , 11-12
(論文) Chemoselective benzylation of unprotected anthranilic acids with benzhydryl alcohols by water-soluble Au(III)/TPPMS in Water		共著	2013 <i>J. Org. Chem.</i> , 78 , 13
(論文) Pd-catalyzed benzylic C-H amidation with benzyl alcohols in water: A strategy to construct quinazolinones		共著	2012 <i>J. Org. Chem.</i> , 77 , 16
(論文) Palladium-catalyzed mono- <i>N</i> -allylation of unprotected anthranilic acids with allylic alcohols in aqueous media		共著	2011 <i>J. Org. Chem.</i> , 76 , 20
(論文) Palladium-catalyzed benzylation of unprotected anthranilic acids with benzyl alcohols in water		共著	2011 <i>Org. Lett.</i> , 13 , 24
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬化学教室	講師	日下部太一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成22年10月2日~3日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Total Synthesis of (+)-Gregatin B and E	共	2013年9月	Org. Lett, vol.15, No.19.
(論文) Cyclization-carbonylation-cyclization coupling reaction of α , β -alkynic hydrazones with palladium(II)-bisoxazoline catalyst	共	2013年8月	Org. Biomol. Chem., vol.11, No.30
(論文) Carbonylation of Propargyl Carbamates with Palladium(II) Bisoxazoline Catalysts: Efficient Synthesis of 5-Methoxy-3(2H)-furanones	共	2013年7月	Angew. Chem. Int. Ed. vol.52, No.30
(論文) Cyclization-carbonylation-cyclization coupling reaction of γ -propynyl-1,3-diketones with palladium(II)-bisoxazoline catalyst	共	2012年4月	Org. Biomol. Chem., vol.10, No.16
(論文) Cyclization-Carbonylation-Cyclization Coupling Reactions of Propargyl Acetates and Amides with Palladium(II)-Bisoxazoline Catalysts	共	2011年4月	Angew. Chem. Int. Ed. vol.50, No.17
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬物学教室	講師	行方衣由紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		平成 20 年 4 月 から	特定の分野だけを狭く講義するのではなく、関連した分野にも繋げた、視野の広い教育を目指している。その際、重要なポイントは見失わないよう、スクリーンなどを利用して、視聴的に強調し学生に伝えるよう工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成 20 年 4 月 から	講義ごとに、様々な教科書から要点をまとめたプリントを独自に作成し、学習のポイントがわかりやすくなるような教材の作成を目指している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		平成 21 年 8 月 22 日、23 日	第 9 回関東・千葉ブロック認定実務実習 指導薬剤師養成ワークショップ
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Involvement of the Na ⁺ /Ca ²⁺ exchanger in the automaticity of guinea-pig pulmonary vein myocardium as revealed by SEA0400.	共著	2009	J. Pharmacol. Sci. 110(1): 111-116.
(論文) Intracellular calcium and membrane potential oscillations in the guinea-pig and rat pulmonary vein myocardium.	共著	2010	Bioimages 18:11-22.
(論文) Blocking effect of NIP-142 on the KCNQ1/KCNE1 channel current expressed in HEK293 cells.	共著	2011	Biol. Pharm. Bull. 34(1):153-155.
(論文) Electrical activity of the mouse pulmonary vein myocardium.	共著	2012	J. Pharmacol Sci. 119(3):287-292.
(論文) Ellagic acid and gingerol, activators of the sarco-endoplasmic reticulum Ca ²⁺ -ATPase, ameliorate diabetes mellitus-induced diastolic dysfunction in isolated murine ventricular myocardia.	共著	2013	Eur J Pharmacol. 706(1-3):48-55.

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2009年4月～	日本薬学会薬理系薬学部会 若手世話人
2009年4月～	日本薬理学会 学術評議員
2009年4月～	日本解剖学会会員
2008年4月～	日本循環薬理学会会員
2007年4月～	日本心電学会会員
2005年4月～	International Society of Heart Research 会員
2004年4月～	日本バイオイメーjing学会会員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	公衆衛生学教室	講師	中濱 隆之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表 の 年月 (西暦でも 可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Expression analysis of estrogen-responsive genes vitellogenin 1 and 2 in liver of male medaka (<i>Oryzias latipes</i>) exposed to selective ligands of estrogen receptor subtypes	共著	2009年12月	Journal of Health Science 55(6):930-938
(17 α ,20E)-17,20-[(1-methoxyethylidene)bis(oxy)]-3-oxo-19-norpregna-4,20-diene-21-carboxylic acid methyl ester (YK11) is a partial agonist of the androgen receptor.	共著	2011年3月	Biological & Pharmaceutical Bulletin 34(2):318-323
日常行われる水道水の遊離残留塩素測定 —水道水の保存法やたまり水についての考察—	共著	2013年5月	医学と生物学, 157(5) 696-700
III 学会等および社会における主な活動			
平成20年～平成25年	学校薬剤師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	公衆衛生学教室	講師	菅野裕一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成 25 年 12 月 31 日	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
HER2 overexpression-mediated inflammatory signaling enhances mammosphere formation through up-regulation of aryl hydrocarbon receptor transcription.	共著	2013	Cancer Lett. 330:41-48.
DP97, a DEAD box DNA/RNA helicase, is a target gene-selective co-regulator of the constitutive androstane receptor.	共著	2012	Biochem Biophys Res Commun. 2012 426:38-42.
Activation of the aryl hydrocarbon receptor represses mammosphere formation in MCF-7 cells.	共著	2012	Cancer Lett.317(2):192-8
The nuclear import of the constitutive androstane receptor by importin/Ran-GTP systems	共著	2010	Biochim. Biophys. Acta. 1803:968-974
Dependence on the microtubule network and heat shock protein 90 of phenobarbital-induced nuclear translocation of the rat constitutive androstane receptor	共著	2009	Mol Pharmacol. 77:311-316
III 学会等および社会における主な活動			
平成 20 年度	(社)日本薬学会・トピックス小委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	生物物理学教室	講師	成末 憲治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 マルチメディア機器を活用した授業 学生による授業評価の採用		平成 20 年 4 月 1 日 ~現在に至る	板書に加えてパワーポイント等のスライド映像を取り入れた授業を行う。 アンケートを用いた授業評価を年1回行う。
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 平成 21 年度日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンス：「くすりの効きかた、造りかた (HT21072)」		平成 21 年 8 月 21 日	科研費研究成果の社会還元普及事業「ひらめき☆ときめきサイエンス」の実施代表者を務めた。科研費の研究成果を中高生対象に紹介するプログラム。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Alantrypinone and its derivatives: synthesis and antagonist activity toward insect GABA receptors	共著	2009 年 1 月	Bioorganic & Medicinal Chemistry 17 巻 1 号
(論文) Effective amino acid composition of seaweeds inducing food preference behaviors in <i>Aplysia kurodai</i>	共著	2009 年 7 月	Neuroscience Research 64 巻 3 号
(論文) 植物色素の抽出条件の検討と可視吸収 スペクトルの測定	共著	2011 年 4 月	医学と生物学 155 巻 4 号
(論文) Activity changes in jaw motor neurons induced by egg-laying hormone contribute to the feeding suppression during egg-laying behavior in <i>Aplysia kurodai</i>	共著	2013 年 5 月	Neuroscience Research 64 巻 3 号
(論文) Neuronal major histocompatibility complex class I molecules are implicated in the generation of asymmetries in hippocampal circuitry	共著	2013 年 10 月	Journal of Physiology-London 591 巻 19 号
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	臨床病態学研究室	講師	高橋 瑞穂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		平成 22 年～25 年 平成 22 年～25 年 平成 25 年 10 月 16 日	・実症例(処方)を用いブレ実務実習【疑義照会】において医療現場の臨場感を創出し教育効果を向上させている。 ・米国薬剤師(大学講師兼任)を講師に迎え TV 会議形式講義(実用薬学英語)で、医療現場における英語の理解を深めている。 ・『薬学総合講義 VI』授業評価アンケートを実施し、講義に反映させている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成 22 年～25 年 平成 22 年～25 年 平成 24 年～25 年 平成 25 年 2 月 10 日 平成 25 年 4 月 1 日	・『ブレ実務実習テキスト』(東邦大学医療薬学教育センター) ・『病院実務実習テキスト』(東邦大学医療センター・東邦大学医療薬学教育センター共著) ・『ブレ実務実習テキスト(疑義照会用症例集)』 ・『薬物治療学 改訂 2 版』(南山堂) ・『植物療法学』(東邦大学薬学部生薬学教室編)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成 19 年 12 月 2 日 平成 20 年 3 月 28 日 平成 21 年 10 月 25 日	・効果的な病院薬局実習に向けた大学における取り組み(教育フォーラム 2007) ・東邦大学における薬学共用試験 OSCE トライアル ・東邦大学薬学部 OSCE トライアル実施体制の確立と検証(日本薬学会第 128 年会) ・千葉 7 大学合同 SP 研修会のこれまでの取り組み(第 19 回日本医療薬学会年会)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		平成 19 年～平成 25 年 平成 21 年～平成 22 年 平成 20 年～平成 23 年 平成 19 年～平成 25 年 平成 22 年～平成 24 年 平成 25 年～	・東邦大学付属東邦高校『薬物乱用防止講義』 ・4 大学連携他職種連携教育プログラム『チーム医療演習』引率 ・早期体験実習(不自由体験)補助 ・早期体験実習(施設見学)引率 ・東邦大学生涯学習講座 企画実行委員 ・東邦大学生涯学習講座 認定評価委員
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Clinical effectiveness of KSS formula, a traditional folk remedy on alcohol hangover symptoms	共著	平成 22 年 9 月	Journal of Natural Medicines 64
Interspecies comparison of chemical composition and anxiolytic-like effects of lavender oils upon inhalation.	共著	平成 23 年 9 月	Natural Product Communications 6(11)
Organ accumulation in mice after inhalation of single or mixed essential oil compounds	共著	平成 24 年 11 月	Phytotherapy Research 27(2)
Effects of inhaled lavender essential oil on stress-loaded animals: changes in anxiety-related behavior and expression levels of selected mRNAs and proteins.	共著	平成 24 年 11 月	Natural Product Communications 7(11)
Enantiomeric separation of tolperisone and eperisone by reversed-phase HPLC with cellulose tris(3-chloro-4-methylphenylcarbamate)-coated chiral column	共著	平成 25 年 3 月	Biomedical chromatography (Online)
III 学会等および社会における主な活動			
平成 21 年 4 月～平成 25 年 12 月	日本緩和医療学会会員		
平成 22 年 4 月～平成 25 年 12 月	日本プライマリ・ケア連合学会会員		
平成 23 年 4 月～平成 25 年 12 月	日本社会薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	臨床薬学研究室	講師	佐々木英久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)	平成 20 年～ 平成 20 年～ 平成 21 年～ 平成 22 年～	医療情報 プレ実務実習 疾患と薬物治療 処方せん解析
2	作成した教科書、教材、参考書	平成 23 年 9 月 1 日 平成 25 年 2 月 10 日	薬物治療学改訂 1 版 薬物治療学改訂 2 版
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 22 年 10 月 24 日	糖尿病の病態と薬剤選択方法(東邦大学薬学部生涯学習講座)
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Protective effects of efonidipine, a T- and L-type calcium channel blocker, on renal function and arterial stiffness in type 2 diabetic patients with hypertension and nephropathy.		共著	平成 21 年 6 月
(論文) Sakura Study 糖尿病性腎症へのプロボコール長期介入試験		共著	平成 22 年 9 月
(著書) 脂質異常症とその服薬指導		単著	平成 23 年 3 月
(著書) 病気と薬パーフェクトブック 2012		共著	平成 24 年 3 月
(著書) 入院・外来薬物治療プラクティス		共著	平成 25 年 3 月
III 学会等および社会における主な活動			
平成 7 年～		日本薬学会	
平成 11 年～		日本医療薬学会	
平成 15 年～		日本糖尿病学会	

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	臨床薬学研究室	講師	松尾 和廣
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 抗真菌薬ポリコナゾールを安全に使用 するための薬物動態パラメータの検討	共著	平成 25 年 10 月	医療薬学(39 巻 10 号)
(論文) Effects of the fluoroquinolone antibacterial drug ciprofloxacin on ventricular repolarization in the halothane-anesthetized guinea pig.	共著	平成 25 年 7 月	Journal of pharmacological sciences (122)
(論文) Investigation of the clinical efficacy and dosage of intravenous ciprofloxacin in patients with respiratory infection.	共著	平成 21 年 1 月	J Pharm Pharm Sci (11 巻 2 号)
(論文) 東京都病院薬剤師会における感染制御 専門薬剤師の養成への取り組み 2006 年度感 染領域薬剤師研究会の内容と運営方法のアン ケート調査	共著	平成 21 年 1 月	日本環境感染学会誌 (24 巻 1 号)
(著書) 薬剤師に役立つ医療安全管理の考え方 ～病院・薬局に活かせる新しい取り組み～ 抗菌薬の適正使用による薬剤耐性菌制御	共著	平成 25 年 12 月	医薬ジャーナル
III 学会等および社会における主な活動			
平成 16 年 5 月～現在	東京都病院薬剤師会 感染制御領域薬剤師養成特別委員会特別委員		
平成 19 年 1 月～現在	日本中毒学会編集委員会委員		
平成 19 年 9 月～現在	薬物治療モニタリング研究会幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	臨床薬学研修センター	講師	木下 雅子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		平成 25 年 6 月	早期体験学習で、施設見学前の SGD を導入。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			東邦大学薬学部 WS に参加 認定実務実習指導薬剤師養成 WS に参加
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Acid-Promoted Rearrangement of Dripane Type Epoxy Compounds and Their Application in Natural Product synthesis	共著	2012 年 4 月	Chem. Pharm. Bull., 60(4)
(論文) Concise Syntheses of Coronarin A, Coronarin E, Austrochaparol and Pacovatinin A	共著	2008 年 3 月	Chem. Pharm. Bull., 56(3)
(論文) Chemoenzymatic Synthesis of (+)- α -Polypodatetraene and Methyl (5 <i>R</i> , 10 <i>R</i> , 13 <i>R</i>)-Labda-8-en-15-oate	共著	2008 年 1 月	Chem. Pharm. Bull., 56(1)
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬学総合教育部門	講師	関 広美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

※平成25年度は休職のため、本票未提出。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬学総合教育部門	講師	藤井 幹雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 有機化学の自己学習を支援するための レポートの作成と模範解答作成		平成 23 年 4 月 8 日～	講義の内容を理解するためと、また、アドバンスの知識を得るために、ドリル形式のレポートを作成し、理解度向上、並びに有機化学への興味を引く工夫を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 薬化学 I、有機化学 I 講義プリント 薬化学 I、有機化学 I 確認レポート 化学自己学習問題集		平成 23 年 4 月 8 日～	講義数とモデルコアカリキュラム SB0s に対応した講義用プリントの作成 講義内容に応じた理解度確認用課題作成 国試対策用自己学習問題集
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Efficient Synthesis of a Water-Soluble Glucoamide Inhibitor Against Human Aldose Reductase by Click Chemistry	共著	2013.11	<i>J. Carbohydr. Chem.</i> (32 巻)
Enzymatic resolution of methyl (2 <i>E</i> ,4 <i>R</i> *,5 <i>S</i> *)-4-(<i>N</i> -benzyl- <i>N</i> -methyl) amino-5-hydroxyhex-2-enoate	共著	2011.4	<i>J. Mol. Cat. B:Enzymatic</i> , (69 巻)
Isolation of (<i>S</i>)- <i>N</i> -feruloyl normetanephrine from <i>Achyranthes fauriei</i> and determination of its absolute configuration	共著	2010.1	<i>Shoyakugaku Zasshi</i> , (64 巻)
Total synthesis of (+)-piericidin A ₁ and (-)-piericidin B ₁	共著	2009.7	<i>Tetrahedron: Asymmetry</i> (20 巻)
Preparation of all stereoisomers of 2-allyl-2-methyl-3-hydroxycyclopentanone by desymmetric processes based on a microbial oxidation and reduction system	共著	2009.6	<i>Tetrahedron Lett.</i> (50 巻)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
日本化学会	学会員
日本薬学会	学会員
生体触媒化学研究会	会員、平成 25 年 4 月～ 幹事

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬学総合実験部門	講師	五郎丸（新海）美智子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)	平成 23 年 4 月	実技と講義の、どちらを先にすると理解度、満足度が高いかを検証したところ、満足度は講義を先にした方が高かった。しかし、理解度には差がなく、実技を先に行うことになっても、実習効果は十分高く、有効な実習方法であることを明らかにした。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成 21 年 9 月 平成 23 年 4 月 平成 21 年 7 月	ゾウリムシを使って浸透圧性利尿薬の作用機序を学ぶ教材を作成した。 パブリカから抽出した色素を使って、色が認識される仕組みを学ぶ実験教材を作成した。 ブロッコリーを使った実験で、子どもは大人よりもタバコの影響を受けやすいことを理解する教材を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 23 年 4 月 平成 25 年 2 月 24 日	実験の前、後ろに説明をした場合の理解度と満足度の違い 薬剤師が小・中学生に薬の教育を行うための実験材料などを紹介したもの	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)	平成 21 年 11 月 16 日 平成 24 年 2 月 25 日 平成 25 年 3 月 2 日	理科実験講座の実施 千葉県船橋市立三山東小学校 千葉県習志野市総合教育センター 東京都江戸川区子ども未来館共催	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
The effect of cigarette extract on plants: special focus on its effect upon plant growth.	筆頭著者	平成 21 年年 7 月	Journal of Research in Science Education 2009;50(1):29-34
Development of method for measurement of visible absorption spesorum using pigments extracted from colored vegetable.	筆頭著者	平成 23 年年 4 月	Medical and Biology 2011; 155(4):169-174
実技と実習の順序と薬学部学生の理解度について	筆頭著者	平成 23 年 4 月	医学と生物学 2011;155(4):175-181
Condition being measured of free chlorine residue.	筆頭著者	平成 25 年 5 月	Medical and Biology 2013; 157(5) 696-700
Biological practice for students of Pharmaceuticals: Understanding of diuretic effect of mannitol using <i>Paramecium caudatum</i> .	筆頭著者	平成 21 年 9 月	Medical and Biology 2009;153(9):407-415
III 学会等および社会における主な活動			
平成 7 年 4 月	日本薬理学会学術評議員		
平成 18 年 4 月～現在	千葉県船橋市学校薬剤師		
平成 21 年 4 月～24 年 3 月	東邦大学男女共同参画推進委員会 委員		
平成 22 年 6 月	第 63 回全国禁煙アドバイザー講習会 講師		

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	英語教室	講師	大澤 舞
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		平成 23 年 4 月 ～現在	以下の 2 点に重点を置いて授業をしている 1) 英語という言語についての理解を深め、 さらに、事実を用いて考察をするという作業を通じ、論理的思考力を養うこと。また、 2) (英語であれ日本語であれ) 言葉にセンシティブになることの重要性を理解すること。 学生の現状に合わせた様々なテーマのテキスト(新聞記事や論文など)を使用。授業内インタラクティブにより発現しやすい環境を設定。高校までの授業で、和訳と英文法の講義が繰り返されたことにより英語が嫌いになった学生が、英語を学ぶことから知的興奮を味わえるような授業を実施。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当せず
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		(1) 平成 25 年 4 月 13 日 (2) (平成 26 年 3 月発行予定・現在印刷中)	(1) 真岡英語研究会における講演 現役の中学校教員が開催している研究会に招聘。「受身文を使う理由を(改めて)考える」のタイトルで中学校における英語教育のあり方について講師として講演。 (2) 東邦大学教養紀要に「英語の授業における論理的思考力の育成(仮)」を投稿中。現在の教育実践とその効果を報告。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) cause 使役受身文の語用論的生起条件とその意味合い	単著	平成 20 年 12 月	英語語法文法研究 (第 15 号)
(論文) A Unified Approach to Pragmatically Licensed Constructions in English	単著	平成 21 年 12 月	博士論文(筑波大学)
(論文) Linguistic Knowledge Required for English Teaching: A Text-Mining Analysis of Student Teachers' Teaching Portfolios	共著	平成 22 年 10 月	E-learn 2010, Vol. 15
(論文) On Pragmatically Motivated Constructions	単著	平成 23 年 2 月	Tsukuba English Studies, Vol. 29
(論文) 不定名詞句主語のトピック性—cause 使役受身を例に	単著	平成 24 年 3 月	東邦大学教養紀要 (第 44 号)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
平成 17 年 4 月～現在	筑波英語学会 会員
平成 18 年 4 月～現在	日本英語学会 会員
平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月	筑波英語学会 編集委員

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	スポーツ健康科学教室	講師	中沢 克江
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		
2	作成した教科書、教材、参考書		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 25 年 12 月 31 日	
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
学会発表 シニア・サッカーにおける間欠運動 時の心拍変動について		共同	2008 年 5 月 千葉体育学会
論文 薬学部基礎生物実習の教材開発: ゾウリ ムシを使ってマントルの利尿作用を考える		共同	2009 年 医学と生物学 153(9)
学会発表 シニア・スポーツの運動強度その 1		共同	2010 年 5 月 千葉体育学会
論文 Development of method for measurement of visible absorption spectrum using pigments extracted from colored vegetable		共同	2011 年 Medical and Biology 155(4)
論文 照度測定における着衣の影響 学校薬 剤師の白衣は照度にえいきょうするのか		共同	2012 年 医学と生物学 156(5)
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	中央機器室	講師	満長 克祥
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Proteomic analysis of seleum embryotoxicity in cultured postimplantation rat embryos	共著	2008	Birth Defects Research (Part B) 83
In vivo/in Vitro study in rat embryos on indium-caused tail malformations	共著	2008	Reproductive Toxicology 25
Sexing of postimplantaion rat embynos in stored two-dimendional electrophoresis (2-DE) samples by polymerase chain reaction (PCR) of an Sry sequence	共著	2009	J. Toxicol. Sci. 34
Proteomic analysis of indium embryotoxicity in cultured postimplantation rat embryos	共著	2009	Reproductive Toxicology 28
Complement component C3 functions as an embryotrophic factor in early postimplantation rat embryos	共著	2010	Int. J. Dev. Biol. 54
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬剤学教室	助教	吉橋泰生
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成 25 年 12 月 31 日	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Evaluation of physicochemical properties on the blending process of pharmaceutical granules with magnesium stearate by thermal effusivity sensor	共著	2013 年 9 月	Journal of Thermal Analysis and Calorimetry, 113(3), 1281-1285
(論文) Diffusivity of amorphous drug in solid dispersion	共著	2013 年 9 月	Journal of Thermal Analysis and Calorimetry, 113(3), 1505-1510
(論文) Polymorphic and pseudomorphic transformation behavior of acyclovir based on thermodynamics and crystallography	共著	2013 年 9 月	Journal of Thermal Analysis and Calorimetry, 113(3), 1261-1267
(論文) Cocrystallization and amorphization induced by drug-excipient interaction improves the physical properties of acyclovir	共著	2012 年 1 月	International Journal of Pharmaceutics, 422(1-2), 160-169
(論文) Competition of thermodynamic and dynamic factors during formation of multicomponent particles via spray drying	共著	2013 年 2 月	J Pharm Sci., 102(2),518-29.
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬理学教室	助教	小原 圭将
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		平成 25 年 3 月 30 日 平成 25 年 5 月 2 日 平成 24 年 10 月 20 日	薬理学実習 (3 年春学期) 講義資料改定 薬理学実習 (3 年春学期) 体性神経系に作用する薬物の実験方法作成 薬学演習 II (4 年秋学期) 講義資料改定
2 作成した教科書、教材、参考書		平成 24 年 10 月 15 日 平成 25 年 3 月 30 日 平成 25 年 10 月 20 日	薬学演習 II (4 年秋学期) 講義資料 薬理学実習 (3 年春学期) 講義資料 薬学演習 II (4 年秋学期) 講義資料
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		平成 24 年 4 月 29・30 日	薬学教育者ワークショップ
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Pharmacological characteristics of the inhibitory effects of docosahexaenoic acid (DHA) against vascular contractions studied in rat mesenteric artery	共著	印刷中	Pharmacology
(論文) Pharmacological evidence showing significant roles for potassium channels and cytochrome P450 epoxygenase metabolites in docosahexaenoic acid inhibitory effects against thromboxane A2 receptor-mediated contraction in rat aorta.	共著	印刷中	Biological & Pharmaceutical Bulletin
(論文) モルモット下部尿路の収縮機能に対するジスチグミンとベタネコールの作用の比較	共著	印刷中	応用薬理
(論文) Selective and potent inhibitory effect of docosahexaenoic acid (DHA) on U46619-induced contraction in rat aorta	共著	印刷中(平成 25 年)	Journal of Smooth Muscle Research vol.49
(論文) Induction of endothelium-dependent relaxation in rat aorta via nitric oxide production caused by the aqueous extract of <i>Astragalus membranaceus</i> Bunge leaves.	共著	平成 25 年 2 月	Journal of Traditional Medicines vol.30 No.1
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬品分析学	助教	飯塚 英昭
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 分析化学(第3版・丸善出版) 物理系実習I実習書(2013年度版)		平成23年8月31日 平成25年3月	分析化学(分担)は、コアカリ対応で分析化学I II IIIで教科書として使用。実習で行なう容量分析法と機器分析法を効率よく行えるように作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 分析化学	共著	平成23年年8月	丸善出版
(論文) Enantiomeric separation of D, L-tryptophan and D, L-kynurenine by HPLC using pre-column fluorescence derivatization with R(-)-DBD-PyNCS	共著	平成23年7月	Biomed Chromatogr 25
(論文) Fluorescence determination of D- and L-tryptophan concentrations in rat plasma following administration of tryptophan enantiomers using HPLC with pre-column derivatization.	共著	平成23年年8月	J Chromatogr B 879
(論文) Determination of L-tryptophan and L-kynurenine in human serum by using LC-MS after derivatization with (R)-DBD-PyNCS.	共著	平成25年7月	Int J Tryptophan Res6
(論文) Decreased L-tryptophan concentration in distinctive brain regions of mice treated repeatedly with phencyclidine.	共著	平成25年10月	Anal Bioanal Chem. 405
III 学会等および社会における主な活動			
平成14年12月～現在	日本トリプトファン研究会幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	生化学教室	助教	大寺 恵子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Age-related change of endocytic receptors megalin and cubilin in the kidney in rats.	共著	平成 19 年 10 月	Biogerontology Volume 8, Issue 5
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬品物理分析学教室	助教	黒田 潤
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 物理系実習Ⅱ		25/12/01	溶質の溶解度現象を色の変化で目で見てわかるような工夫を取り入れた。 (指示薬使用)
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 男女共同参画推進実験講座 (高校生対象)		平成 23 年 3 月 17 日	ライフワークバランスについて 実体験を発表
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
III 学会等および社会における主な活動			
薬学部実験教室	江戸川区の小学生対象(毎年3月)		
学校薬剤師	船橋市薬円台南小(毎年数回)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	衛生化学教室	助教	桐生 道明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書		平成 22 年	薬学ゼミナール 薬剤師国家試験対策参考書 衛生化学 保健統計・疫学
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成 25 年 12 月 31 日	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
III 学会等および社会における主な活動			
平成 19~平成 24 年	地方競馬全国協会 禁止薬物再検査制度立会人		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	衛生化学教室	助教	水落 茂樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書		平成 23 年 ～ 平成 25 年	コンピュータ入門における オンライン教材の作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
III 学会等および社会における主な活動			
平成 19 年 4 月～平成 24 年 3 月	日本中央競馬会禁止薬物再検査委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	微生物学教室	助教	福本 敦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Cyslabdán, a New Potentiator of Imipenem Activity against Methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> , Produced by <i>Streptomyces</i> sp. K04-0144. I. Taxonomy, Fermentation, Isolation and Structural Elucidation	共著	2008年1月	J. Antibiot. 61(1):1-6
(論文) Cyslabdán, a New Potentiator of Imipenem Activity against Methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> , Produced by <i>Streptomyces</i> sp. K04-0144. II. Biological Activities	共著	2008年1月	J. Antibiot. 61(1): 7-10
(論文) Dietary sulforaphane-rich broccoli sprouts reduce colonization and attenuate gastritis in <i>Helicobacter pylori</i> -infected mice and humans.	共著	2009年4月	Cancer Prev Res. 2(4):353-60
(論文) Characteristics of cesium accumulation in the filamentous soil bacterium <i>Streptomyces</i> sp. K202.	共著	2011年2月	J Environ Radioact. 102(2):138-44
(論文) Piericidins, novel quorum-sensing inhibitors against <i>Chromobacterium violaceum</i> CV026, from <i>Streptomyces</i> sp. TOHO-Y209 and TOHO-0348	共著	2013年12月	Open Journal of Medicinal Chemistry
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬物動態学教室	助教	清水 真紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

※平成 25 年度は休職のため、本票未提出。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬学総合実験部門	助教	西口 慶一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等も含む)		2006年度～ 現在	1. 実習では、①実習準備と学生へのデモンストレーションを行った。実習講義ではパワーポイントで説明を行った。②実習試験の作成と採点を行った。③テキストは項目を開発から製本まで行った。 2. 演習では①学生を少人数(20名以下)にクラス分けし、きめ細かい学習をした。②小試験を毎回行い、学生の理解度の応じた説明を行った。③演習書の作成を行った。 3. 講義では①講義資料を毎回配布した②小試験を毎回行った③講義の後に演習を行った。④講義はパワーポイントと板書で行った。⑤講義の最後にスモールグループディスカッションを行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2006年度～ 現在 2006年度～ 現在 2006年度～ 現在 2012年～現在	1: 実習書の作成、実習講義資料の作成(動物の解剖、細胞への遺伝子導入およびプロトプラストの作製とその細胞融合、ウニの発生の観察、動物の解剖、植物細胞の観察、植物の外部形態の観察、細胞への遺伝子導入やプロトプラストの作製とその細胞融合)、および小試験問題の作成 2: 実習書の作成、実習講義資料の作成(代表的な組織細胞の観察、大腸菌の増殖と運動の観察、代表的な組織細胞の観察、真核単細胞生物の観察、体細胞分裂の観察、植物色素のスペクトル測定、大腸菌の増殖と運動の観察)、および小試験の作成。 3: 演習講義と小試験。化学単位、反応式、濃度、溶液の調整法、酸・塩基、溶液のpHなどの指導を行い、演習責任者として採点。 4: 理学部生命圏環境科学科の学生に生物学の講義資料の作成および小試験、定期試験問題の作成・採点。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2012年3月10日 2013年8月11日	1. ◎五郎丸(新海)美智子 [†] 、西口慶一 [†] 、成末憲治 [†] 、長濱辰文 [†] : 薬学部基礎生物実習の実践例 ゴウリムシを使ってマンニトールの利尿作用を理解する。日本薬学会第132年会 2. ◎五郎丸(新海)美智子、西口慶一実験で喫煙防止教育を プロッコリースプラウトを用いた子どもの喫煙防止教育用教材の開発 日本理科教育学会 第63回全国大会
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2011年2月 2011年3月 2011年8月 2012年4月	1) 西口慶一: 高校生が遺伝子診断を学びきっかけに「メダカ幼魚の簡易・迅速な性別判定方法の開発」 平成23年2月24日東邦大学 Press Release No.196] 2) 西口慶一(2011)メダカ幼魚の遺伝子による性別判断方法 東洋紡ライフサイエンス事業部 KOD FX ユーザー様からの実施例 27 3) 西口慶一: 高成功率 PCR 酵素「KOD-FX」の実施例 TOYOBO バイオニュース Vol.59 4) 西口慶一(2012) KOD FX を用いたメダカ幼魚の遺伝子による性別判断方法 UPLOAD TOYOBO BIOCHEMICALS Vol.98, p6

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）西口慶一：薬学部の生物学実験	単著	2011年3月	DTP出版 p1-46
（論文）Yoshikazu Nishiguchi: Evolutionary implications of lactate dehydrogenases (LDHs) of hagfishes compared to lampreys: LDH cDNA sequences from <i>Eptatretus burgeri</i> , <i>Paramyxine atami</i> and <i>Eptatretus okinoseanus</i> .	単著	2008年12月	Zoological Science 25: 475-479
（論文）Yoshikazu Nishiguchi, Tetsuya Miwa, Fumiyo Abe: Pressure-adaptive differences in lactate dehydrogenases of three hagfishes: <i>Eptatretus burgeri</i> , <i>Paramyxine atami</i> , and <i>Eptatretus okinoseanus</i> .	共著	2008年12月	Extremophilies.12:477-480
（論文）Yoshikazu Nishiguchi, Koichi Kitamura, Naoko Watanabe, Anna Kozaki, Hayato Otani, Hayato Ohashi, Misato Kume, Naomi Haruta, Sumiko Iwasa and Takeshi Fukushima : An improved quantitative real-time PCR protocol for precisely measuring D-amino acid oxidase mRNA in rat tissues	共著	2013年6月	Int J Anal Bio-Sci Vol. 1, No 1 37-44
（論文）Yoshikazu Nishiguchi, Molecular evolutionary medicine based on variations in hagfish lactate dehydrogenases.	単著	2013年10月	Int J Anal Bio-Sci Vol.1, No 2 50-54
III 学会等および社会における主な活動			
2011年4月1日～平成22年3月31日	日本動物学会（関東支部大会準備委員）		
2013年7月～現在	生物試料分析科学会 評議員・編集委員		
2013年7月～現在	International Journal of Analytical Bio-Science 編集委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。